

岐阜大学国際交流年報2017



岐阜大学



岐阜大学 グローカル推進本部

Gifu University Head Office for Glocalization(GHOGL)

目次

学長メッセージ

岐阜大学国際交流年報2017の発行にあたって

I. 国際化推進体制	5
1. 岐阜大学の国際化 policy と vision	5
2. 岐阜大学の国際化推進体制	6
各部門の活動報告	7
学内の国際化をサポートする体制（日本語・日本文化教育体制／保健管理体制）...	10
3. 海外大学・機関等との学術・学生交流協定	12
大学間学術交流協定締結大学・機関マップ	14
部局間学術交流協定締結大学・機関マップ	16
外国人留学生在籍数	18
本学学生の海外派遣実績	19
 トビタテ！留学 JAPAN	21
本学教職員派遣実績	22
外国人研究者・来訪者受入実績	22
国際協力活動（JICA 事業）	23
短期研修プログラム（サマースクール／ウィンタースクール）	24
 JST さくらサイエンスプラン	28
4. 国際交流活動	29
留学生就職促進プログラム	34
4 大学連携事業	35
岐阜地域留学生交流推進協議会	35
ユネスコスクール活動支援	37
スーパーグローバルハイスクール事業への協力	38
II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動	39
1. 教育学部	39
2. 地域科学部	40
3. 医学部	41
4. 工学部	42
5. 応用生物科学部	43
6. 連合農学研究科	44
7. 連合獣医学研究科	45
8. 連合創薬医療情報研究科	45

9. 流域圏科学研究センター	46
10. 留学生センター	46
11. 保健管理センター	48
12. 大学本部	49

Ⅲ. 国際化戦略と展望 50

ジョイント・ディグリー（JD、国際共同学位）専攻の設置と本学の国際化戦略	鈴木文昭	50
岐阜大学の短期英語研修プログラム	嶋陸宏	55

Ⅳ. 資料 57

1. 名簿	57
2. 協定一覧	58
3. 本学の国際関連活動	60
岐阜大学を表敬訪問された方々	60
平成29年度国際関連事業一覧	61
4. 本学学生の海外渡航一覧	64
5. 大学間学術交流協定先との交流状況	69
6. 海外オフィス・研究施設	71
7. 国際共同研究等の採択実績	71
日本学術振興会	71
（公財）田口福寿会	72
8. 留学生の就職支援・留学生の地域貢献	72

凡例
2017年の場合は省略し、それ以外の年の場合は記載した。
また、年度で示す場合は元号を使用した。

学長メッセージ



岐阜大学長 森脇 久隆

岐阜大学は2016年に始まる6年間の第3期中期目標・中期計画期間において「学び究め貢献する岐阜大学を『人が育つ場所』という風土の中で実現し、地域活性化の『中核的拠点大学』として発展させる」ことを目指します。この到達目標を実現するため教育、研究、国際化、社会貢献、大学病院の5大戦略を設定し、それぞれのもとに上記期間中に達成する取り組みを明示して、私ども岐阜大学の将来ビジョンとしています（<http://www.gifu-u.ac.jp/about/objectives/vision.html>）。この時期に合わせ、とくに国際化の発射台を確認する基礎資料となる岐阜大学国際交流年報2017が刊行されたことは大変重要な意義を有し、鈴木文昭理事を始め関係の教職員諸氏に感謝と敬意を表します。

さて岐阜大学が目指す国際化は広く漠然とした国際化ではなく、「地域に根ざした国際化と成果の地域還元」です。日本国内の一定地域と海外の一定地域とが教育、研究、あるいは社会・経済活動についてマッチする課題を共有し、また認識し、それを解決することによって得られる成果が双方の地域振興に結実するという実践的な国際化が目標です。近年しばしば用いられる「グローバル」という言葉が、私どもが目標とする国際化の本質を最も良く表していると考えます。

私どもの主な連携先は南アジア、ASEAN 諸国内の一定地域に存在する大学（群）や企業（群）などの事業体であり、協働によりグローバル人材養成プログラムを整備充実させています。とくに活動拠点として海外オフィスや共同実験室などが有力なツールとして育ってきました。さらに本学キャンパスにおける多文化共生型コースの設置、日本人学生・留学生の混在型教育の充実、双方の地域におけるインターンシップの拡充なども並行して進んでいます。さらに、事務職員まで含めた海外研修制度の整備、留学生を対象とした就職支援の強化なども立ち上がりました。2019年にはインド工科大学グワハティ校、マレーシア国民大学との間でジョイント・ディグリーコースが開設されます。

以上の取り組みにより、岐阜大学の国際化が今後毎年大きくステップアップして行くと私どもは確信しており、そのエビデンスとして岐阜大学国際交流年報も逐年刊行致します。どうぞご期待下さい。



2018年6月8日
岐阜大学長 森脇 久隆

岐阜大学国際交流年報2017の発行にあたって

岐阜大学の国際交流に関する年報の第3冊目にあたる「岐阜大学国際交流年報2017」を、グローバル推進本部からお届けします。本年度（平成29年度）は第3期中期目標・中期計画の2年度目にあたります。本学が掲げる戦略の1つ「戦略4：国際化」活動を、昨年度に比べより活発化した内容として、まとめることができました。本年報の発行を継続する中で、本学のグローバル化の段階的進展の様子と実質的に国際化した姿を皆様と共有できる時期が来ることを確信しています。本誌では、この1年間の大学としての国際活動（含：岐阜大学国際交流ニューズレター記事）、そして各部局における主な国際活動を統合して掲載しましたので、本学の全域において国際化の歯車が稼働し始めていることが分かります。本年度、地域科学部国際教養コース1期生（候補）は1年間の海外研修が始まり、事務職員の協定大学への短期海外研修も2度目の実施に入りました。博士課程ダブル・ディグリープログラムへの学生受け入れも順調に進んでいるようです。そしてジョイント・ディグリープログラムについては、申請書類作成も終盤に入りました。平成30年4月には4専攻の内2専攻分の設置申請を終えました。残りの2専攻も8月に設置申請し、4専攻とも平成31年4月の開設を目指します。



理事（国際・広報担当）・副学長 グローバル推進本部長 鈴木 文昭

岐阜大学グローバル推進本部（Gifu University Head Office for Glocalization, GHOGL、本部長：理事（国際・広報担当）・副学長）は平成27年4月1日に設置され、種々の企画立案・推進、及び本学の国際化に関する分析・評価とIR（Institutional Research）等の機能を担う、学長直轄の「特別な全学組織（教職協働モデル組織）」であります。日本語・日本文化教育センター（旧留学生センター）や保健管理センターをはじめ、各部局と連携して種々の活動を進めてまいります。（<http://www.gifu-u.ac.jp/international/office/guog.html>）

最後に岐阜大学グローバル推進本部（略称：“GHOGL”）は、本学の地域社会に根差した国際化のために努めてまいります。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

戦略4：国際化

海外協定大学と連携および協働して企業参画型グローバル・リーダー養成プログラム（ジョイント・ディグリープログラム等）を段階的に種々整備・実施することにより、大学の質的・国際化と地域の活性化を推進する。

国際化

地域に根ざした国際化と成果の地域還元

①戦略の概要

この戦略は、工学・農学系大学院の組織再編と連動する「英語特別コース」教育を発展させて実施する、修士・博士4つのジョイントディグリー（JD）を中核として、教職員・学生・キャンパスの質的国際化を実現することを目的とする。地域とその産業界が求めている、世界と地域をつなげる人材、すなわちグローバル・リーダーを養成することには、本学が地域創成を担う中核的拠点大学として機能するために必要である。

②必要性・緊急性

平成29年度に発足する「自然科学技術研究科（修士課程）」では、「デザイン思考教育」を取り入れるとともに、英語による教育プログラムを開始し、国際化に対する地元産業界からのニーズにも応えていく。この、国際化教育（修士）が連結する博士課程教育の機能強化は、英語プログラムの高度化教育を受けた第1期生が博士課程に進学する平成31年度に実現することが喫緊の課題である。IITGと3つの専攻でのJD実施に向けた高大の連携活動は、「日印高級実務者政策対話」（H28.7.7文科省・インド人材開発省）会議において、両国政府の連携の枠組みの中で、高等教育における連携活動事例として紹介され、認知されたことで裏付けられる。平成31年度からのJD開始に向け、早急に取組みを開始する必要がある。

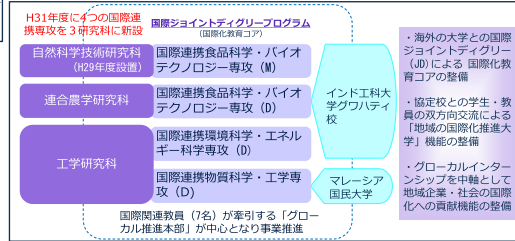
④全体計画

戦略的取組等	28	29	30	31	32	33
北東インドおよびマレーシアの中核大学との国際協働教育を基盤とした企業参画型工学・農学系グローバルリーダー養成プログラム構築事業（取組）						
自然科学技術研究科設置						
博士課程における英語特別コースの設置						
修士・博士のキャリアアップ支援の充実						
日本語・日本文化教育センターの機能強化						
留学生の日本語教育プログラムの充実						
留学生ネットワークの活用						
国際化推進本部の設置						
教員海外研修、事務職員海外研修の推進						
留学生のキャリアアップ支援（インターンシップ）強化						
留学生ネットワークの活用						
国際化推進本部の設置						
国際化推進本部の設置						
国際化推進本部の設置						

②戦略の基本的な考え方

本戦略は、キャンパス環境を実質的に国際化して、本学が地域活性化・地域創成を担う中核的拠点大学に変革するためのものである。本学が、「中核的拠点大学」として人材育成・産学連携研究を担う中核圏は、グローバル展開するものづくり企業が多く集積する地域であるため、「地域と世界をつなげる」グローバル・産業界の発展が必要である。本戦略では、海外協定大学との連携及び協働を促進して、企業参画型グローバル・リーダー養成プログラムを推進することを目的としている。具体的には、協定大学であるインド工科大学ワハティ校（IITG）およびマレーシア国民大学（UM）との大学院教育における国際共同専攻（JD）を戦略の中核に置き、国際協働教育に関わる要素を全学的に実施する。またJD入学生への海外派遣のための事前語学教育や専門英語教育などに広げ、教育効果を全学レベルに波及させ、質的国際化へと導くことを目的とする。

⑤教育研究組織整備へ繋がる構想内容



⑥第3期中期目標・中期計画における該当箇所

大学の国際化を推進するため、複数の協定大学への海外共同実験室の設置・活用やダブルディグリー・プログラムを推進するとともに、平成31年度を目途にジョイントディグリー・プログラムを整備・実施する。（1-4-(1)-①-1）
海外高等教育機関との連携ネットワークの強化、インターンシップの推進、教育研究活動への適切な参画モデルの策定等により、外国人留学生の修学・就職支援を強化する。（1-4-(1)-①-2）

2018年5月7日
グローバル推進本部長 鈴木 文昭

I. 国際化推進体制

1. 岐阜大学の国際化 policy と vision

国際化 policy

「国際性を持ち社会に貢献する岐阜大学」

2013年11月21日

今、日本の大学は、学術の場として国際的な関係が問われている。一部の国立大学は、先端科学を志向して、世界の科学技術をリードする研究を行おうとしている。一方で、地域の学びの中心として立脚し、国際性を掲げながら研究と人材育成を展開している国立大学もある。岐阜大学は、このような状況の中で、自らに必要な国際化の policy を打ち出すものである。

「岐阜大学は、学生の主体的な学びを推進し、教育の質保証システムを充実させ、高度な専門職業人の養成と地域単位での Teach for Communities を実現する。理工系の大学院修士課程に、デザイン思考の教育を導入し、リベラルアーツに関する共通教育を重点的に行うことによってイノベーションを支える人材の養成を強く進める。また、国際水準の医学教育開発の推進などに重点的に取り組む。地域に根ざした国際化と成果の地域還元によってグローバル化を実現する。多文化共生型による国際教養コースの設置、日本人学生と留学生の混在型教育の充実、留学生の組織化や就職支援の充実など、国際化につながる施策を推進する。」

この岐阜大学の理念と目標は、「大学が培ってきた科学技術のもとに、豊かな知識と広い視野を持ち社会から信頼される人材を地域に送り出す」という、本学の基本的なスタンスとともに、そのために必要な国際化の意義を示すものである。近年、我が国では、グローバル化が浸透し、人口減少と超高齢化に晒されるようになった。しかも我が国の大学では、海外へ留学する日本人学生数、及び海外からの留学生数が減少する傾向を見ている。語学力とコミュニケーション能力を持つこと、異文化の相互理解など、本学が国際性の追求のもとに培うべき要素は、以前より重要度が増している。

岐阜大学の全構成員は、本学の意図する国際性を達成するために、その教育と研究の基盤を十分に整えるべく努力する。研究面においては、教職員・研究者が世界の舞台上で活躍できるよう支援制度と研究環境を実情に合わせて整備し、世界で活躍する研究者を招へいする。これらを人材養成の基盤とするとともに、国際協力を推進し、及び地域に応じた社会連携を推進するために有効な具体策を展開する。教育面においては、日本人学生に対して、国内と海外の事情に通じ、柳戸キャンパスで英語をはじめとする外国語のコミュニケーション能力を研鑽する機会と、実際に海外で学習する機会を可能な限り与える。外国人留学生に対しては、日本事情に通じる学習機会を与える。そして留学生が日常生活と修学で困難に陥らない環境を作り、日本人学生と一緒に学習し、岐阜地域の住民や企業等と交流する機会を設ける。卒業及び修了後は、本学で体得した専門的知識や国際性を生かし、県内を中心とした地域や母国の発展に貢献することを期待する。

岐阜大学は、この国際化の policy を達成するために海外拠点を整備する。活発に学術交流を行っている協定大学等を選んで本学の国際化の拠点とし、場的・人的に相互交流を深化させ教育・研究をとに進める。特に協力を求める開発途上国等の機関と連携して絆を強化する。

国際化 vision

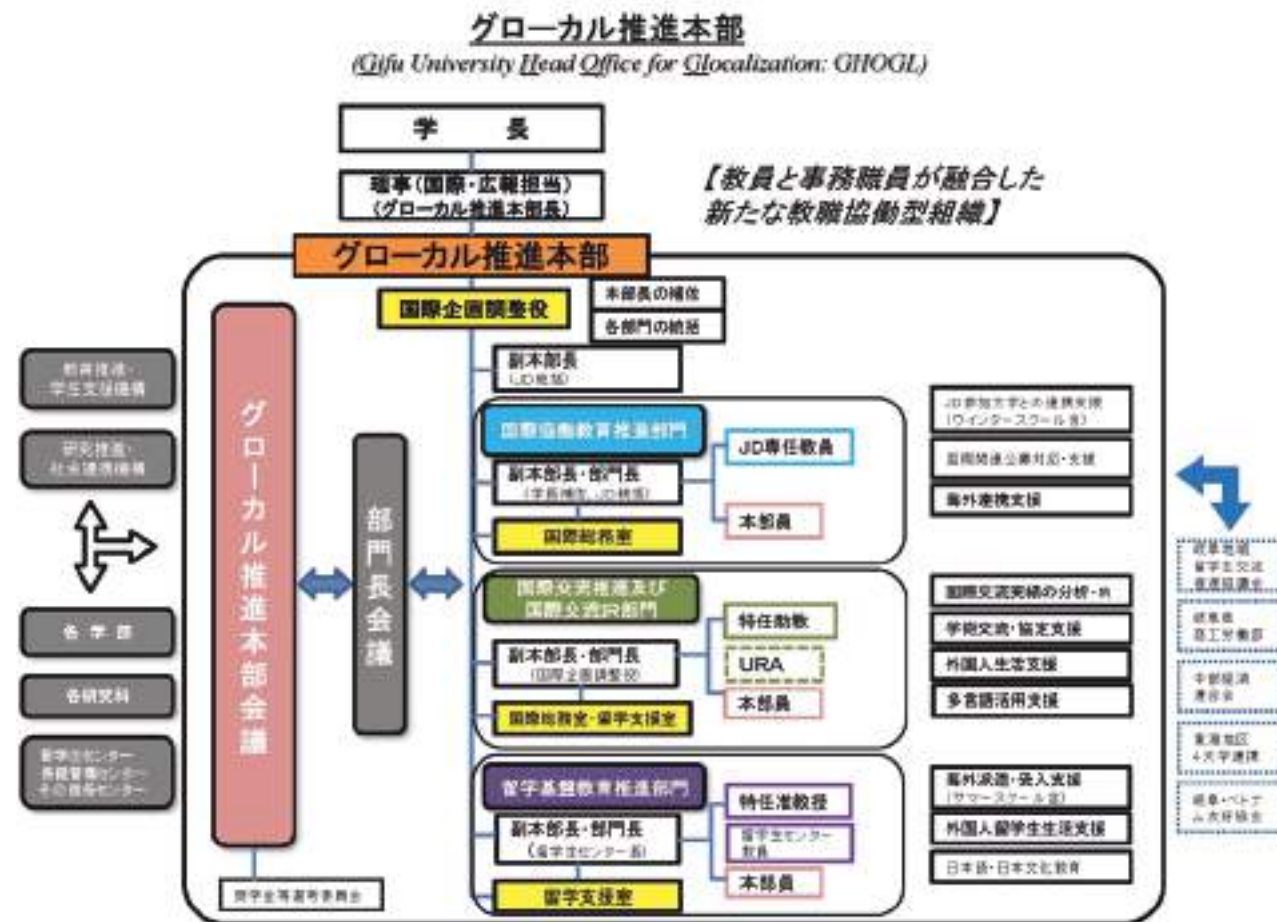
「5年後の岐阜大学」

- 岐阜大学が、全学として「国際化 policy」の内容を理解している。
- 岐阜大学が、組織的な支援体制のもとに、他国にまたがる教育と研究及び交流活動を進めている。
- 岐阜大学が、地元・地域の行う国際交流活動へ、参加と支援を積極的に行っている。
- 岐阜大学が、海外拠点を整備して、国際的な交流事業を展開している。
- 岐阜大学が、開発途上国など、互いに連携を要する海外の学術機関と密接に協力している。
- 在学生が、留学に関する各種の支援を受けて、海外で学びやすい環境で修学している。
- 在学生が、語学や文化の理解のもとに、国際化に関するコミュニケーション能力を高めている。
- 在学生が、気概とやりがいを持って、留学に挑戦している。
- 外国人留学生が、組織的な支援体制のもとに、安心して勉学し先進知識を旺盛に吸収している。
- 外国人留学生が、本学で学んだ専門性と国際性を生かして、地域や母国の発展に貢献している。
- 外国人留学生が、卒業・修了後も、自ら本学の教育研究活動に協力している。

2. 岐阜大学の国際化推進体制

岐阜大学グローバル推進本部は、これまでの「岐阜大学国際戦略本部」を改組し、「岐阜大学の国際化 policy と vision (2013年11月21日制定)」に基づき、国際化に繋がる施策を推進するとともに、その成果を地域に還元し、地域社会のグローバル（グローバル+ローカル）化に貢献するために、2015年4月1日に設置された。

理事（国際・広報担当）・副学長を本部長として、国際協働教育推進部門、国際交流推進及び国際交流 IR 部門、留学基盤教育推進部門を設置し、全学的な組織として各部署との連携により岐阜大学のさらなる国際化を目指している。



岐阜大学グローバル推進本部の略号、“GHOGL”（ゴーグル）について紹介します。気流や水流中を移動する際、視界を明瞭にするために身に着ける防護用メガネをゴーグル（goggles）と呼んでいます。そのことに肖って略号（愛称）を付けました。本学のグローバル化（実質的な国際化）を進めるために、その方向性と速度を測り適正に推進する組織としてグローバル推進本部（GHOGL）を位置付けての象徴名でもあります。GHOGLが真に本学そして地域社会のグローバル化のための「ゴーグル」として機能するよう努めてまいります。皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。



GHOGL ロゴマーク

各部門の活動報告

平成29年度国際協働教育推進部門活動報告

部門長 小山 博之
(応用生物科学部教授)

1. 活動内容及び成果

国際協働教育を実施するには、連携する海外協定大学との間で、十分な信頼関係と交流実績（教員と学生）が築かれていることが重要となる。特に国際協働教育の典型例である、ジョイント・ディグリープログラム（JD）やダブル・ディグリープログラムは、プログラム相手大学（該当実施部局）と本学（該当実施部局）との間で十分な信頼関係と交流経験（教員と学生）を持つことが、制度開発及び円滑な実施のための前提となる。更に学生の相互留学を伴う JD においては、講義や留学（学生の交換）などを進めるために双方の大学から多数の教員が参画する必要がある。このような観点から本年度は、平成31年度に設置予定のインド工科大学グワハティ校（IITG）、マレーシア国民大学（UKM）との JD の基盤固めとしての各種事業を中心に、部門の活動を実施した。

JD 設置に関しては、平成31年度から IITG と実施する国際連携食品科学技術専攻（自然科学技術研究科修士課程、連合農学研究科博士課程）、国際連携統合機械工学専攻（工学研究科博士課程）及び UKM と実施する国際連携材料科学工学専攻（工学研究科博士課程）について、連携先である IITG 及び UKM とグローバル推進本部内に設置された JD ワーキンググループが綿密な連携を取り、両国での認可申請の準備を進めた。併せて学生受け入れ時の諸課題に対応するための試行ともなるウィンタースクール（IITG 及び UKM から計7名の学生を受け入れ）、産学連携教育の一環である地域の企業訪問などを含めて実施した。また、JD 関連教員の教育・研究交流を深める機会として、IITG（2018年2月上旬）及び UKM（2018年3月中旬）と合同シンポジウムを実施し、IITG 訪問時には、グローバル推進本部職員が国際担当部署と現地の受入体制について協議した。また、UKM とは材料工学以外の、幅広い領域の教員・学生の訪問が実現し、連携の深化とその波及が図られた。尚、留学（受入れ）の基盤となる日本語・日本文化教育に関わる連携の一環として、UKM の日本語教員を招聘した講演会の実施や IITG の日本語教員との意見交換したほか、中堅・若手教員の海外派遣プログラムを別途実施した。

2. 課題及び次年度の取組方針

平成30年度は、JD の文部科学省への設置申請や円滑な運営に向けた学内・学外における準備を整えることになる。学内はもとより、本学における産学連携教育に向けた JD 等の国際共同教育について、産業界への周知をはかるためにバイオインダストリー協会と共催で JD に関わるシンポジウムなどを開催する予定である。また、派遣型のウィンタースクールの設計や、招聘講義の充実などにも取り組む予定である。

平成29年度国際交流推進及び国際交流 IR 部門活動報告

部門長 野々村 晴子
(国際企画調整役)

1. 活動内容及び成果

本部門は、「国際交流推進及び国際交流 IR 部門」というやや長い名前が示すとおり、国際交流とその IR (Institutional Research) を担当するが、部門長は事務職員である国際企画調整役が務めている。グローバル推進本部は、平成29年度から教職協働型組織として部局化されたが、教員と事務職員の新たな協働の形を模索し実現する部門とも言える。

部門員は、6名の教員と3名の事務職員から構成されるが、大学間協定締結をはじめとする国際交流活動やそのデータ収集は事務組織の業務と密接に関わっており、機動力の点からも、部門長、松井特任助教、国際総務室長、留学支援室長等で構成するワーキンググループ (WG) を設けて部門の課題に取り組み、適宜、部門員全体の意見を聴くという運営方法をとっている。

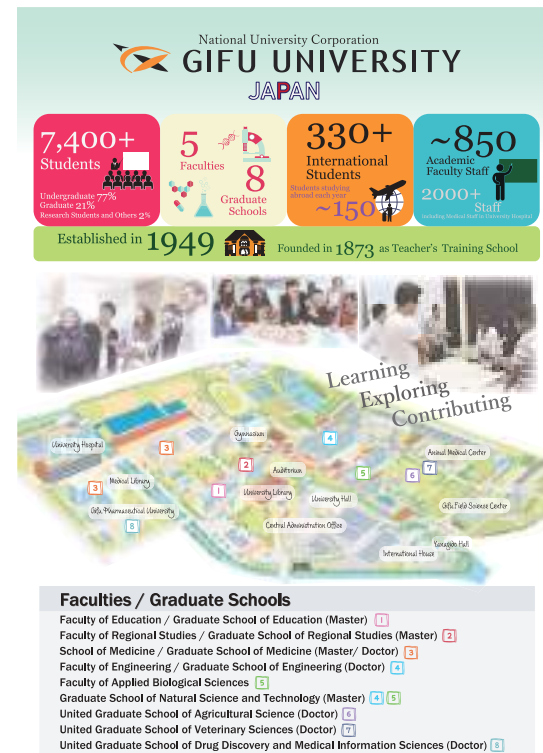
WG は月1回開催し、①年報、NEWSLETTER、ホームページなどの広報、②協定大学との交流状況の分析、③部局へ依頼する各種調査項目の洗い出しと業務改善及び IR への活用検討、等をすすめた。

特に、①広報面については、平成28年度から発行を開始した「岐阜大学国際交去年報」と、国際総務室が年1回発行していた「NEWSLETTER」の内容や作業に重複があったことから、「NEWSLETTER」を年2回発行で速報性を重視する誌面に切り替えた。また、WG の場で、“海外において岐阜大学に関する情報をシンプルに伝える媒体”の必要性が話題となり、A4両面1枚の英語版フライヤーを新たに作成することとした。WG で作成した案について、部門員にも意見を求めて完成したフライヤーは、紙媒体のほかホームページにも掲載したが、その手軽さから好評を博している。

なお、これら部門 WG の活動は、毎月、グローバル推進本部会議で報告し、オープンな議論の中で出された意見も反映しながらすすめている。また、新たな試みとして、本部会議において、本部門が把握する学内の国際関連行事を毎月示し、各部局の情報提供を依頼することで、本学の国際関連事業の全体像が把握できるようになった。

2. 課題及び次年度の取組方針

次年度は、今年度の取り組みを継続しつつ、国際交流関連ホームページ (和文・英文) の改善や事務職員の英語能力強化などにも取り組む。また、前記②や③のデータ収集と分析は、事務方が持っているデータを IR 担当教員と共に検討することから、事務のみ、教員のみで行う場合とは異なったアプローチによる成果が期待できるが、まだ分析段階に留まっており、分析結果の提示や調査項目の統合は次年度以降の課題である。また、これまで部局から情報収集を行っていた、卒業した留学生のネットワーク作りも次年度から大学として取り組むこととしたい。このように課題は山積しているが、本学の国際交流の足元を着実に固めつつ、新たな試みにも果敢に挑戦する部門でありたいと考えている。



平成29年度留学基盤教育推進部門活動報告

部門長 森田 晃一
(留学センター長教授)

1. 活動内容及び成果

留学基盤教育推進部門が2017年度に行った業務は、おもに1) 岐阜大学サマースクール (受入) と2) 岐阜大学サマースクール (派遣) の実施、3) 海外留学フェア、4) 海外渡航時の危機管理オリエンテーション、5) 第16回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会、6) 留学報告会の開催、その他7) 大学間学術交流協定校からの交換留学生の部局への照会等である。以下、4及び6を報告する (1、2、3、5は本書別頁参照)。

海外渡航時の危機管理オリエンテーション

2017年7月5日 (水) 15時~17時、全学共通教育棟103教室で開催した。内容は、留学時の危機管理の詳説 (特定非営利活動法人海外留学生安全対策協議会 (JCSOS) 服部誠氏)、危機管理に関する支援体制の説明 (インターナショナルアシスタンス株式会社海外危機管理サポートデスク・倉持哲也氏)、海外留学時の保険の案内 (株式会社東京海上日動パートナーズ東海北陸岐阜支店営業部長・松野俊幸氏) であった。参加者は104名 (学生は69名)。その内訳を学部別に見ると、教育学部4名、教育学研究科1名、地域科学部8名、医学部1名、工学部18名、応用生物科学部22名、自然科学技術研究科13名、連合農学研究科2名であった。事後のアンケートには、日本と比較して海外では犯罪が多いことに驚いた、その具体的な対策を知ることの重要性を認識した等々の意見が記され、留学を現実化する参考となったようである。

留学報告会一行ってみなければわからないコトー

2018年1月17日 (水) 13時~15時10分、留学生センター (現日本語・日本文化教育センター) 404教室で開催した。短期語学研修 (グリフィス大学・オーストラリア、ソウル科学技術大学校・韓国、アルバータ大学・カナダ)、交換留学 (ノーザンケンタッキー大学・アメリカ合衆国、シドニー工科大学・オーストラリア、バイロイト大学・ドイツ)、トビタテ! 留学 JAPAN (テュレーン大学・アメリカ合衆国、ワーゲニンゲン大学・オランダ、ルーヴェンカトリック大学・ベルギー) の経験者が、その具体的体験を参加者 (42名) に伝えた。

2. 課題及び次年度の取組方針

1) 岐阜大学サマースクール (受入)

- ①日本語レベルが一定ではない学生を受け入れているため、各人に適合した日本語授業の手当て
- ②文化体験の新規開拓
- ③宿舎である岐阜大学学外合宿研修施設 (通称: 学外研) から大学までの交通機関の検討

2) 岐阜大学サマースクール (派遣)

グリフィス大学 (オーストラリア)・ソウル科学技術大学校 (韓国)・木浦大学校 (韓国) への派遣と、新たに始めたアルバータ大学 (カナダ) ESL (English as a Second Language)・EST (English for Science and Technology) プログラムへの派遣の統合

3) 海外留学フェア・渡航時の危機管理オリエンテーション

- ①昨年度のアンケート結果をふまえた内容の検討
- ②学生への周知徹底

4) 日本語弁論大会

- ①実施組織の検討
- ②岐阜県内日本語教育機関との連携

5) 留学報告会一行ってみなければわからないコトー

各部局で実施している留学報告会との差別化

学内の国際化をサポートする体制

【日本語・日本文化教育体制】（留学生センター）

岐阜大学における日本語・日本文化教育は留学生センター（2018年4月より「日本語・日本文化教育センター」に名称変更）が担っている。センターでは、対象学生によって異なる様々なコースやプログラムを提供している（詳細は『岐阜大学 留学生センター紀要2017』参照）。

（1）日本語研修コース

岐阜大学に在籍する大学院生、研究生、交換留学生を対象とした、1学期間のコースで、前期・後期に開講される。「集中コース」と「一般コース」があり、前者は、集中的に（週10～12コマ）日本語を学び、日本語の習得・向上を目指す。後者は、専門の研究が中心であるため、まとまった日本語学習の時間が取れない学生向けの、授業数が少ない（週1～6コマ）コースとなっている。さらに、集中コースは初級（A）、初中級（B）、中級（C）の3レベル、一般コースは初級（A1）、初中級（B）、中級（C）、中上級（D）の4レベルのクラスに分かれている。学期が始まる前に学内公募が行われ、指導教員による申請によってコースが決定し、プレテストの結果によって当人のレベルにあったクラスが決まる。集中コースでは各クラス10名前後の学生が、大学・大学院で学ぶために必要な日本語能力を習得することを目的に、毎日、日本語学習に励んでいる。一般コースは授業数が少ないが、各自のペースで学ぶことができる。初級（A1）クラスは入門レベルの学習に留まるものの、日常生活に関わる日本語を学ぶことができる。

（2）日本語・日本文化研修コース

自国の大学で日本語・日本文化を専攻する文部科学省奨学金留学生と交換留学生を対象とした、毎年10月に始まる約1年間のコースである。日本語授業や全学対象の授業を受けることにより、日本語能力を向上させ、センターが提供する多彩な文化科目の受講、地域への見学旅行、インターンシップの体験等により、日本文化・社会について深い見識を養うことができる。コースの終わりには、担当教員の指導のもと、日本語・日本文化に関わる修了論文を完成させ、「留学生は“日本”をどう見たか」と題する会で研究発表を行う。この会には毎年100名程度、本学関係者だけでなく、多数の市民も参加し、活発な質疑応答が行われる。修了生の多くは自国や日本の大学院に進学や、日本関連の企業に就職している。

（3）日本社会文化プログラム

留学生センターに所属する交流協定大学の交換留学生（日本語・日本文化学習を希望する日本語初級～中級レベルの学生）を対象としたプログラムである。「異文化理解」と「日本文化理解」の二つのステップで、日本の社会や文化に関する知識を身につけることを目的に、半年ないしは1年間の研修期間で実施する。日本語学習と共に、日本文化を実践的に学ぶ機会を提供しており、「日本文化へのいざない」という科目では、本学客員教授で江戸千家蓮華菴副家元である川上紹雪宗匠による茶道の講義・実践が学べる。

（4）全学共通教育（日本語・日本事情クラス、人文科学系科目）

各学部 に在籍する留学生と交換留学生を対象とした、上級レベルの日本語と日本事情に関する科目（6科目）を開講している。また、人文科学系科目（8科目）として授業も提供しており、その中には留学生と日本人学生の合同授業もある。

（5）国際交流ラウンジ

授業以外での日本語・日本文化教育の場として、センター内には「国際交流ラウンジ」が設置されている。外国人留学生と日本人学生との交流、日本人学生チューターによる勉学・生活支援、パソコンの利用等、多様な活動ができる。不定期にイベントも開催されており、留学生と日本人学生双方にとって有意義な場所となっている。

【保健管理体制】（保健管理センター）

保健管理センターでは、本学学生及び教職員だけでなく、本学に滞在する外国人留学生及び研究者に向けた予防接種情報や健康管理方法のアドバイスを行っている。

（1）外国人留学生・研究者に向けた保健管理センターニュース等による英語での広報活動

救命救急（AED）の案内



センターの利用案内



保健管理センターニュース英語版（No.109-113）

《平成29年度発行実績》

No.	発行日	タイトル
109	2017.06.01	Heat Stroke
110	2017.10.03	Have you been vaccinated against measles?
111	2017.11.22	Prevention of Influenza
112	2017.11.22	Let's prevent norovirus infection!
113	2017.12.21	School year 2018-Information on annual health checkup



（2）外国人留学生・研究者受入れ時の健康診断（胸部X線、感染症抗体検査含む）受診の徹底

外国人留学生・研究者は、いずれも来日後速やかに、本学新生と同じ質の高い健康診断を受診し、適切な健康管理を受けている。特に、全員に麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘の抗体検査を実施し、抵抗力が不十分な者には追加予防接種勧奨をしている。

（3）海外渡航に向けた「健康の手引き」を用いた渡航時の健康管理指導

海外へ留学する学生（職員）に向けて、海外渡航時に健康面で注意すべき事項をわかりやすくまとめたパンフレットを提供し、予防接種を含め健康管理面から渡航準備を支援している。

（健康の手引き 2017年4月 第2版：http://www.hoken.gifu-u.ac.jp/img/tebiki.pdf）

（4）全外国人留学生・研究者に英語の健康啓発本「Health Management on Campus」を提供

英語の健康情報冊子を、全留学生・研究者に来日後提供し、自己健康管理、健康意識の向上に役立っている。

3. 海外大学・機関等との学術・学生交流協定

本学では、組織的・計画的な研究者・学生の交流及び教育研究に関する情報交換等を推進するため、積極的に大学間学術交流協定を締結している。2018年3月31日現在、18カ国47大学1機関との大学間学術交流協定を締結しているほか、各部局においても様々な学術交流協定を締結している。

一覧はIV. 資料に掲載し、本年度に新規締結した協定大学等の詳細を以下に記載する。

本年度に新規締結した協定大学等

大学間

平成29年度に新規締結した学術交流協定大学等：1カ国1大学

①レイクヘッド大学（カナダ）

概要	約10の学部・大学院を有する州立総合大学である。メインキャンパスはオンタリオ州サンダーベイ（学生数7,500人）に、もう一つはオリリア（同1,500人）に位置している。学士課程および大学院課程において、科学・環境学のほか社会・人文科学、経営学、工学など、充実した学科を有し、将来の社会的リーダーとなる人材の育成や、卒業後の社会貢献を重視した教育を推進している。また最新の実験室や大規模な研究施設などの研究環境が整備されており、カナダで最も優れた研究大学の一つとして知られている。		
目的	レイクヘッド大学は世界各国から留学生を受け入れ、長期・短期の英語研修プログラムや人文社会系も含む学部教育を充実発展させてきた。この点は全学部の学生・大学院生（修士課程）にとって、通常の英語授業や各種専門分野の授業の受講あるいは短期語学研修先としてふさわしい提携先となる。また、優れた人文社会科学系の諸学部だけでなく工学の各種部門、森林学を中心とした環境科学、看護学を含む健康行動科学などにおいて博士課程を有し、全体的な教育研究水準が高いことから、着実に実りある学生・研究者交流を進めていくことが可能である。		
協定発効日	10月11日	協定期間	5年
年間交換留学可能学生数	2名		



Lakehead University ウェブサイトより引用 (<https://www.lakeheadu.ca/>)

平成29年度に大学間学術交流協定の更新を完了した大学

	協定大学名	国	最新発効日	協定期間
1	浙江大學	中国	4月15日	5年
2	ユタ大学	アメリカ	6月1日	5年
3	ユタ州立大学	アメリカ	6月1日	5年
4	ガジヤマダ大学	インドネシア	9月13日(学術交流) 9月14日(学生交流)	5年
5	エルフルト大学	ドイツ	12月4日	5年
6	木浦大校	韓国	2018年2月26日	5年

平成29年度に大学間学術交流協定を終了した大学

	協定大学名	国	締結日	終了日
1	シバジ大学	インド	2008年3月18日	2018年3月18日

部局間

平成29年度に新規に締結した学術交流協定大学等

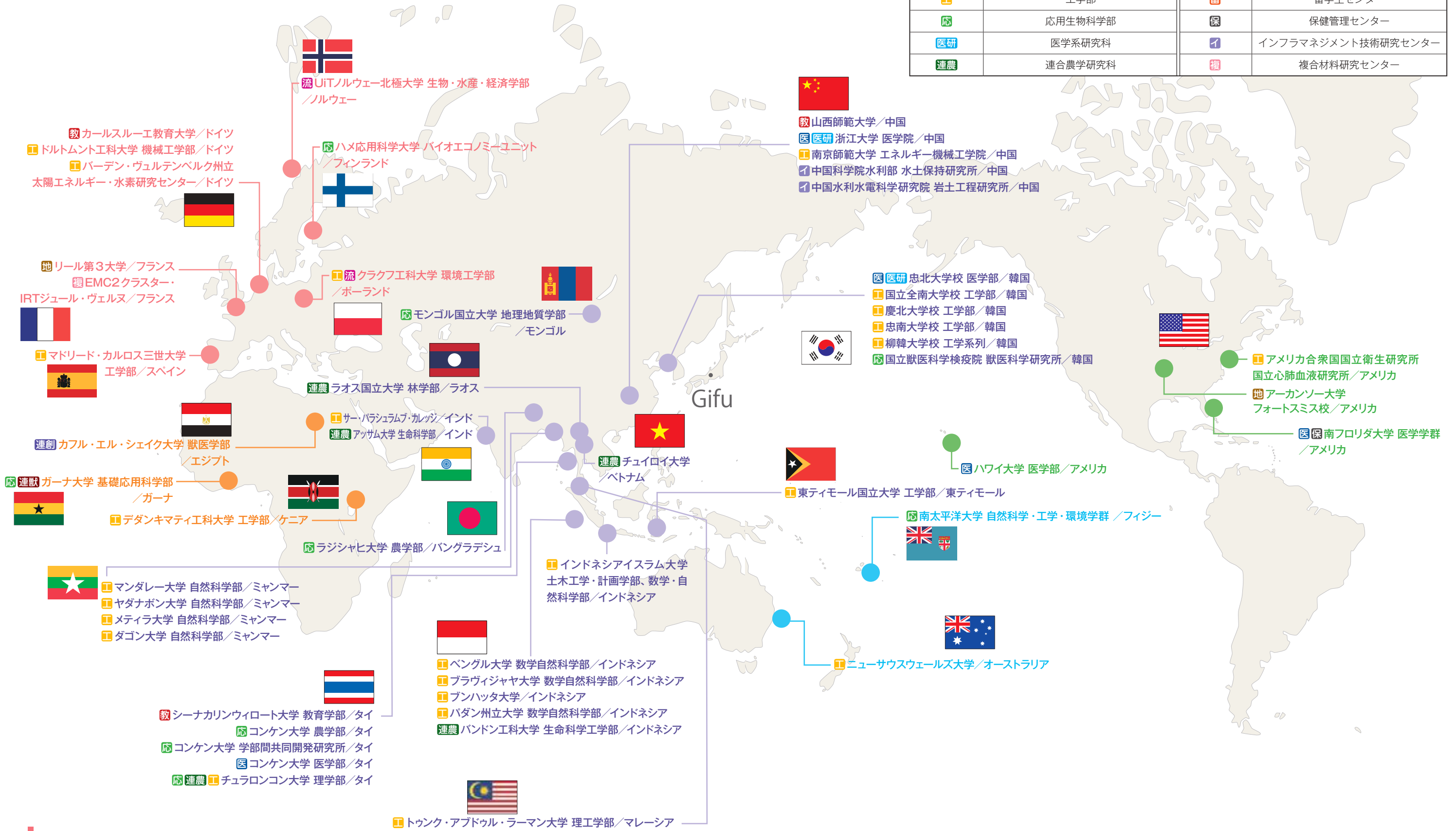
部局	締結先	国	締結日
工学部	南京師範大学 エネルギー機械工学院	中国	7月17日
	ダゴン大学 自然科学部	ミャンマー	7月21日
	インドネシアイスラム大学 土木工学・計画学部、数学・自然科学部	インドネシア	2018年2月23日
応用生物科学部	南太平洋大学 自然科学・工学・環境学群	フィジー	12月1日
連合農学研究科	ラオス国立大学 林学部	ラオス	2018年3月21日
流域圏科学研究センター	UiT ノルウェー北極大学 生物・水産・経済学部	ノルウェー	9月27日

大学間学術交流協定締結大学・機関マップ
(2018年3月31日現在)



部局間学術交流協定締結大学・機関マップ
(2018年3月31日現在)

表示アイコン	協定部局	表示アイコン	協定部局
教	教育学部	連獣	連合獣医学研究科
地	地域科学部	連創	連合創薬医療情報研究科
医	医学部	流	流域圏科学研究センター
工	工学部	留	留学生センター
応	応用生物科学部	保	保健管理センター
医研	医学系研究科	イ	インフラマネジメント技術研究センター
連農	連合農学研究科	複	複合材料研究センター



外国人留学生在籍数

5月1日現在の岐阜大学の外国人留学生在籍者数は322名（総学生数7,441名の4.3%）で、前年5月1日現在の329名と比べ7名（2.1%）減少した。

出身国別に見た場合、上位3カ国は中国147名（46%、前年度±0名）、インドネシア36名（11%、前年度-1名）、マレーシア24名（7%、前年度-2名）であった。地域別に見た場合、約9割がアジアからの学生であり、次いで中東（3.4%）、アフリカ（3.1%）、ヨーロッパ（1.9%）という内訳となっている。

学部・研究科別内訳

部 局 等	学部		修士・博士前期 ・専門職学位		博士・ 博士後期		非正規生 (日研生等)	合計
	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規		
教育学部／教育学研究科（専門職学位・修士）	1	4	4	1				10
地域科学部／地域科学研究科（修士）	9	17	27	0				53
医学部（医学科・看護学科）／医学系研究科（修士・博士前期／博士・博士後期）	2	1	0	0	10	0		13
工学部／工学研究科（博士前期／博士後期）	32	4	21	0	38	0		95
応用生物科学部／応用生物科学研究科（修士）	5	2	21	0				28
自然科学技術研究科（修士）			31	2				33
連合農学研究科（博士）					43	0		43
連合獣医学研究科（博士）					39	0		39
連合創薬医療情報研究科（博士）					0	0		0
流域圏科学研究センター						0		0
生命科学総合研究支援センター						0		0
留学生センター							8	8
合 計	49	28	104	3	130	0	8	322

連合大学院別内訳

研 究 科	正規		非正規	
	学生数	内配置大学が 岐阜大学	学生数	内配置大学が 岐阜大学
連合農学研究科（博士）	43	38	0	0
連合獣医学研究科（博士）	39	9	0	0
連合創薬医療情報研究科（博士）	0	0	0	0
合 計	82	47	0	0

本学学生の海外派遣実績

本学学生の大学を通じた海外渡航実績は以下の通りである。なお、岐阜大学基金等の海外渡航における助成金においては、私事渡航に対しても申請があり採択された場合、支援を行っている。本年度は265名が海外へ渡航し、内日本人学生が237名、留学生が28名であった。

本学学生の海外渡航支援内容については、【海外渡航支援事業（一部抜粋）】（p.68）を、データ詳細に関してはⅣ. 資料（4. 本学学生の海外渡航一覧）を参照されたい。

表1 本学学生の海外渡航者数（プログラム別）

種別		渡航者数	
全学	大学間学術交流協定に基づく交換留学*	20（6）	
	岐阜大学サマースクールプログラム	サマースクール（派遣） ESL プログラム	5 29
部局	教育学部	総合文化海外実習	9
		短期留学・研修	14
	地域科学部	部局間学術交流協定に基づく交換留学*	2（2）
	医学部	海外臨床実習プログラム	20
		短期看護研修	14
	工学部・自然科学技術研究科・工学研究科	工学系協定校学生交換交流プログラム（派遣）	24
		工学研究科 グローカルリーダー養成のためのインストラクショナル・インターンシッププログラム	5
		国際学会発表奨学金プログラム	23
	応用生物科学部・自然科学技術研究科・応用生物科学研究科	生物多様性と遺伝資源に係る南部アジア国際協働教育プログラム	6
		国際獣医学インターンシップ演習	3
	連合獣医学研究科	海外派遣プログラム	10
		若手研究者育成プログラム	1
その他	トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム	5	
	4大学連携事業研修プログラム	1	
	全学共通教育科目	フランス語Ⅱ	12
	研究留学**		14
	学会**		33
	調査**		12
語学留学		3	
合 計		265（8）	

*（ ）内は地域科学部国際教養コース学生を内数として示す。

**原則として、渡航者から提出されたJ-TAS（JCSOS トータルアシスタントサービス）の申請書の記載されている目的から分類。

図1 本学学生の海外渡航先（延べ数）

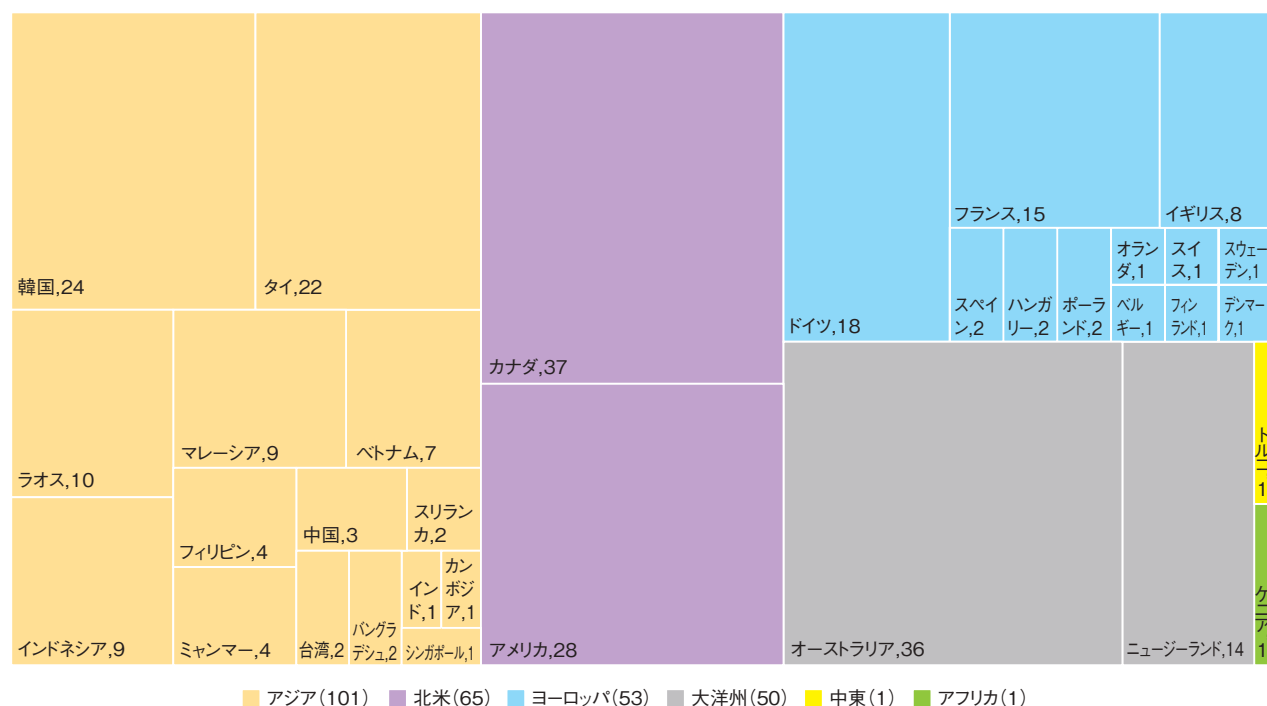
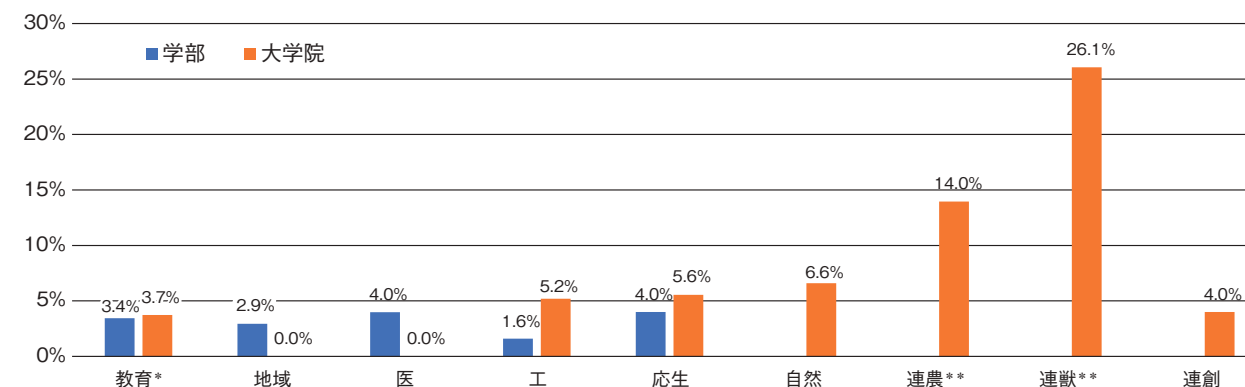


図2 本学学生の海外渡航率（部局別）



部局別学生数は岐阜大学概要2017の数値を使用

*教育の大学院学生数は専門職学位課程を除いた数を使用 **連農及び連獣は全配置大学の学生をカウント

表2 本学学生の海外渡航者数（部局別）

部局別	学部	大学院
教育学部／教育学研究科（専門職学位・修士）	36	4
地域科学部／地域科学研究科（修士）	14	0
医学部（医学科・看護学科）／医学系研究科（修士・博士前期／博士・博士後期）	39	0
工学部／工学研究科（博士前期／博士後期）	36	21
応用生物科学部／応用生物科学研究科（修士）	36	6
自然科学技術研究科（修士）	—	29
連合農学研究科（博士）	—	12
連合獣医学研究科（博士）	—	31
連合創薬医療情報研究科（博士）	—	1

本学学生の渡航先国（図1）としては、今年度新しく開拓したESLプログラム（ESL：English as a Second Language）によるカナダ・アルバータ大学短期語学研修が大きく影響し（表1）、カナダが初めて最多（前年度4名）となった。次いで、オーストラリア（前年度33名）、アメリカ（前年度37名、最多）であった。

部局別で見た場合（表2、図2）、国際学会派遣数が多く報告の上だった連合獣医学研究科での海外渡航学生割合が高く、2017年度から新設された自然科学技術研究科では、前工学研究科（修士）に当たる学生の海外渡航割合が高かった（IV.資料参照）。



トビタテ！留学JAPANとは？

文部科学省は、意欲と能力のある全ての日本の若者が、海外留学に自ら一步を踏み出す気運を醸成することを目的として、2013年10月より留学促進キャンペーン「トビタテ！留学JAPAN」を開始しました。政府だけでなく、社会総掛かりで取り組むことにより大きな効果が得られるものと考え、各分野で活躍されている方々や民間企業からの御支援や御寄附などにより、官民協働で「グローバル人材育成コミュニティ」を形成し、将来世界で活躍できるグローバル人材の育成を目指しています。

本学ではこのプログラムによりこれまで10名の学生が世界に旅立ち、平成30年度は2名の派遣が決定しています。帰国後は海外体験の魅力を伝えるエヴァンジェリスト（伝道師）として日本全体の留学機運を高めることに貢献することが期待されています。

トビタテ！岐阜大生！！

本学の採用実績は次の通りです。

年度	期間	海外機関	渡航先
平成26年度	2014年9月－2015年3月	メルボルン大学	オーストラリア
	2014年12月－2015年9月	メルボルン大学	オーストラリア
	2014年9月－2016年9月	ランガラカレッジ	カナダ
平成27年度	2015年9月－2016年3月	ベルリン自由大学	ドイツ
	平成28年度	2016年10月－2017年9月	ワーゲニンゲン大学、ルーヴェンカトリック大学
2016年10月－2017年9月		テュレーン大学	アメリカ
2016年10月－2017年9月		国立衛生研究所	アメリカ
2016年10月－2017年3月		シンガポール国立大学	シンガポール
平成29年度	2017年9月－2018年8月	アルバータ大学	カナダ
	2017年11月－2018年9月	デュボン小児病院	アメリカ
平成30年度（予定）	2018年4月－2019年3月	シドニー大学、シンガポール国立大学、マギル大学	オーストラリア、シンガポール、カナダ
	2018年10月－2019年10月	国立衛生研究所	アメリカ

本学教職員派遣実績

(平成29年度海外渡航者数調べ(延べ人数))

部局名	出張	研修	合計
教育学部・教育研究科	50 (11)	4 (0)	54 (11)
地域科学部・地域科学研究科	18 (9)	2 (0)	20 (9)
医学部・医学系研究科	108 (5)	1 (0)	109 (5)
医学部附属病院	45 (3)	6 (0)	51 (3)
工学部・工学研究科	235 (55)	16 (1)	251 (56)
応用生物科学部・応用生物科学研究科	118 (23)	1 (0)	119 (23)
連合農学研究科	5 (4)	0 (0)	5 (4)
連合獣医学研究科	7 (0)	0 (0)	7 (0)
連合創薬医療情報研究科	2 (0)	0 (0)	2 (0)
地域協学センター	1 (0)	0 (0)	1 (0)
流域圏科学研究センター	24 (0)	0 (0)	24 (0)
生命科学総合研究支援センター	6 (0)	0 (0)	6 (0)
生命の鎖統合研究センター	6 (0)	0 (0)	6 (0)
留学生センター	5 (1)	0 (0)	5 (1)
保健管理センター	9 (1)	5 (1)	14 (2)
研究推進・社会連携機構	5 (0)	0 (0)	5 (0)
総合情報メディアセンター	0 (0)	0 (0)	0 (0)
本部	33 (20)	4 (2)	37 (22)
合計	677 (132)	39 (4)	716 (136)

うち()内は大学間学術交流協定大学

外国人研究者・来訪者受入実績

(平成29年度外国人研究者・来訪者受入数調べ(延べ人数))

部局名	研究者	来訪者	国(研究者)	国(来訪者)	合計
教育学部・教育研究科	0 (0)	33 (3)		韓国、タイ、台湾、ミャンマー	33 (3)
地域科学部・地域科学研究科	0 (0)	3 (1)		アメリカ、ドイツ、バングラデシュ	3 (1)
医学部・医学系研究科	3 (1)	21 (1)	エジプト	アイスランド、アメリカ、イギリス、エジプト、オーストラリア、フィリピン、フランス、ベトナム	24 (2)
医学部附属病院	0 (0)	0 (0)			0 (0)
工学部・工学研究科	18 (10)	44 (25)	インド、インドネシア、エジプト、カナダ、中国、ナイジェリア、東ティモール、ミャンマー	アメリカ、イギリス、インド、インドネシア、オーストラリア、韓国、中国、ドイツ、フィリピン、フランス、ベトナム、マレーシア、ミャンマー	62 (35)
応用生物科学部・応用生物科学研究科	7 (4)	13 (9)	インド、エジプト、中国、バングラデシュ	インド、インドネシア、ウガンダ、韓国、ガーナ、タイ、中国、バングラデシュ、フランス	20 (13)
連合農学研究科	0 (0)	49 (39)		インドネシア、タイ、中国、バングラデシュ、フィリピン、ベトナム	49 (39)
連合獣医学研究科	0 (0)	0 (0)			0 (0)
連合創薬医療情報研究科	0 (0)	1 (0)		韓国	1 (0)
地域協学センター	0 (0)	0 (0)			0 (0)
流域圏科学研究センター	0 (0)	1 (0)		中国	1 (0)
生命科学総合研究支援センター	0 (0)	0 (0)			0 (0)
生命の鎖統合研究センター	0 (0)	0 (0)			0 (0)
留学生センター	0 (0)	0 (0)			0 (0)
保健管理センター	0 (0)	2 (2)		アメリカ	2 (2)
研究推進・社会連携機構	0 (0)	0 (0)			0 (0)
総合情報メディアセンター	0 (0)	0 (0)			0 (0)
本部	0 (0)	15 (14)		インドネシア、カナダ、中国	15 (14)
合計	28 (15)	182 (94)			210 (109)

うち()内は大学間学術交流協定大学

国際協力活動

本学の理念である「学び、究め、貢献する」に基づき、グローバルな視点においても社会貢献、また有為な人材育成を行うため、積極的な国際協力活動を行っている。これまで本学が行ってきた国際協力機構(JICA)による専門家派遣及び外国人研修員受入等について、今後も引き続き協力を行うと同時に、海外の大学及び関係機関等と国際的なネットワークを構築し、教育研究の国際化を図ることで、世界に開かれた大学を目指す。

本年度に実施された国際開発協力一覧 (JICA 事業)

種別	国名	プロジェクト名	人数	協力期間
受託研修員受入	東ティモール	東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクトフェーズ2(電気・電子工学)	1名	6.7-7.13
		東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクトフェーズ2(情報工学)	2名	6.7-8.25
東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクトフェーズ2(電気・電子工学)		2名	8.18-8.30	
東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクトフェーズ2(情報工学)		2名	9.8-9.20	
東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクトフェーズ2(電気・電子工学)		1名	9.11-9.20	
東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクトフェーズ2(電気・電子工学)		1名	10.23-10.29	
東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクトフェーズ2(情報工学)		1名	11.3-11.12	
東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクトフェーズ2(電気・電子工学)		1名	11.14-12.21	
東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクトフェーズ2(情報工学)		2名	2018.1.8-2018.3.27	
受託研修員受入				

JICA 東ティモール事業

『東ティモールでは1999年8月の独立を問う直接投票後の混乱により、多くの住民が避難を余儀なくされ、教育機関を含む物的インフラの7割以上が破壊・使用不可能となるなど甚大な被害を被った。東ティモール暫定行政統治機構(UNTAET/ETTA)は2000年11月に東ティモール大学を開校。国造りを担うべき技術系人材の育成の観点から、インドネシア時代の旧東ティモール・ポリテクニクを母体として工学部に電気/電子工学科、機械工学科、土木工学科を設置したが、東ティモールでは高等技術教育体制の整備・運営に係る経験・知識が不足しており、日本に支援を要請してきた。』

日本としては、東ティモールの支援要請に応え、2001年より東ティモール大学工学部各学科のカリキュラムの策定、緊急無償資金協力による施設復旧・機材供与、電気・電子工学科に対して実習指導の専門家派遣を行ってきたところである。』¹⁾

本学は2003年からJICA 東ティモール事業「JICA 東ティモール大学工学部支援プロジェクト」、さらに2010年からは第2フェーズである「東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクト」²⁾の協力機関として、同国を支援している。

1) 東ティモール大学工学部支援プロジェクト: JICA HP 参照
(<http://www.jica.go.jp/project/easttimor/0601585/01/index.html>)

2) 東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクト: JICA HP 参照
(<http://www.jica.go.jp/project/easttimor/002/outline/index.html>)

短期研修プログラム

【サマースクール（夏期短期語学研修：派遣）】

サマースクールは、その国の言語や文化を集中的に勉強するプログラムであり、短期間海外で生活することで国際感覚を高め、言語力を向上させ、今後の国際交流・海外留学等への契機となることを目的に実施している。今年度は、グリフィス大学（2002年開始）、ソウル科学技術大学校（2008年開始）に加え、新たにアルバータ大学が派遣先として加わった。また、昨年度同様、4大学連携事業（名古屋大学・愛知教育大学・三重大学・岐阜大学連携事業：p.35）による、同済大学への派遣も行った。

渡航先	グリフィス大学ゴールドコーストキャンパス（オーストラリア）		
現地プログラム実施期間	8月11日－9月15日	滞在期間	5週間
内容	英語研修		
参加人数	3名	宿泊	ホームステイ

渡航先	ソウル科学技術大学校（韓国）		
現地プログラム実施期間	7月15日－7月29日	滞在期間	2週間
内容	韓国語研修・文化体験等		
参加人数	2名	宿泊	ソウル科学技術大学校学生寮

渡航先	アルバータ大学（カナダ）		
現地プログラム実施期間	8月6日－8月25日	滞在期間	3週間
内容	英語研修・エドモントン市内見学・学内施設見学・自然文化体験（バンフ）		
参加人数	29名	宿泊	ホームステイ

渡航先	同済大学（中国）※4大学連携事業		
現地プログラム実施期間	8月8日－8月20日	滞在期間	2週間
内容	中国語研修・文化体験・上海市内見学等		
参加人数	1名	宿泊	ホテル

※4大学連携事業としては、同済大学以外に昨年度3名が参加したフライブルク大学及び南京大学の募集も行ったが、本年度の参加者はいなかった。

[成果報告]

留学報告の機会：「岐阜大学留学報告会—行ってみなければわからないコト—」／次年度（平成30年度）の岐阜大学海外留学フェア

【アルバータ大学 ESL プログラム】

事前研修（Pre-departure course）

長期・短期にかかわらず海外への留学は、楽しみながら自分自身を成長させることのできる経験である。本学では新たにアルバータ大学 ESL（English as a Second Language）プログラムを開始した。本プログラムは、参加者が8週間の学内事前研修を修了することで、現地への留学に備えることができるよう構成されている。学内事前研修用に、グローバル推進本部教員がオリジナルテキストを作成した。本研修では、言語習得だけでなく文化の異なる国での効果的なコミュニケーションのとり方や日本文化の紹介の仕方、カルチャーショックとの向き合い方に加え、渡航や安全に関する情報なども取り扱った。また、実際に海外留学・生活しているロールモデルとして外国人留学生がコミュニケーションパートナーとなり研修をサポートした。なお、本年度は29名の学部学生が本研修を修了し、アルバータ大学での3週間の夏期語学・文化研修プログラムに参加した。



ESL プログラムスケジュール

日程	事項	内容
4月6日、7日、8日	ESL Program Information Session	部局でのガイダンス（学部1・2年生および保護者）
4月12日、17日	Session	短期留学プログラムと事前研修の説明会（全学）
4月20日－28日	ESL プログラム参加者募集	応募者数39名
5月1日	選考結果の通知	30名（応用生物科学部17名、工学部7名、地域科学部2名（1名辞退）、教育学部2名、医学部2名）
5月9日－6月29日	ESL 事前研修	語学・異文化理解トレーニング（グリフィス大学派遣者を含む）
8月3日	Send-off Party	ESL 事前研修修了証書の授与と送別
8月6日－27日	アルバータ大学 ESL プログラム参加	現地プログラム実施期間：8月6日－25日

[成果報告]

留学報告の機会：study abroad、キャンパスガイド等広報誌への寄稿／ESL 懇談会@ラーニング・コモンズ with 鈴木理事（国際・広報担当）／English Circle of Friends／写真展@アカデミック・コア／アルバータ大学 ESL 報告会

【サマースクール（夏期短期語学研修：受入）】

平成29年度の岐阜大学サマースクール（受入）は、6月末から7月末までの期間で実施した（日本語および日本文化の教育担当は留学生センター）。本プログラムで養成を目指す人材は、日本を理解し応援してくれる海外の人々である。日本語授業はもちろんのこと、本物に触れる日本文化体験（現役能楽師によるワークショップ、陶芸体験や相撲観戦等）、地域性を生かした学外活動（郡上市におけるホームステイプログラム等）、日本人学生との交流機会等を提供している。本プログラムは今回の実施が30回目（30年目）で、参加学生は延べ482名を数える。本プログラムの修了生が、岐阜大学をはじめとした日本の大学に半年または1年の短期留学に再来日する例は少なくなく、その後さらに日本の大学院への進学、日本での就職に至る者もいる。



対象大学	大学間学術交流協定校のうち、日本語能力試験 N 4 相当（300漢字）の日本語能力を有する学生が在籍する大学		
実施期間	6月28日 - 7月26日	滞在期間	4週間
参加人数	18名：ノーザンケンタッキー大学（アメリカ）1名、シドニー工科大学（オーストラリア）2名、木浦大学校（韓国）3名、電子科技大学（中国）5名、マレーシア国民大学（マレーシア）7名		
宿泊	岐阜大学学外合宿研修所		

スケジュール

	事項	内容
1	開講式・ガイダンス・歓迎茶話会	ガイダンス、キャンパスツアー、宿舎チューターとの顔合わせなど
2	日本語授業*	初級クラス：11名、初中級クラス：6名、中級クラス：1名
3	土岐エクスカージョン	土岐市を訪問し、陶芸（絵付け・ろくろ）を体験
4	郡上プログラム	3泊4日の郡上市におけるホームステイ及び文化体験（茶道・和太鼓・食品サンプル作成体験・書道・剣道・小学生や高校生との交流等）
5	相撲観戦	大相撲名古屋場所観戦
6	浴衣着付け体験*	美濃市の着付け団体「せびあ会」による着付け体験
7	能楽ワークショップ*	能楽（能・狂言）ワークショップ
8	鶴飼見学	長良川うかいミュージアム、鶴飼船乗船
9	まとめの会・修了式・歓送会	修了証書授与と代表参加学生スピーチ、郡上ホームステイ先のご家族、宿舎チューターも参加

* 本学留学生センター主催

〔成果報告〕

サマースクールレポート：本学 HP、「国際交流、刊行物等」に掲載

https://www.gifu-u.ac.jp/international/newsletter/ss_report.html

【ウィンタースクール（受入）】

ウィンタースクールは、本学とインド工科大学グワハティ校（IITG）及びマレーシア国民大学（UKM）との国際協働教育の連携活性化（ジョイント・ディグリープログラム等を含む）を視野に入れた留学誘導プログラムで、平成27年度から実施している。第1回、第2回参加者においては各年1名ずつ、本プログラムを契機に本学への進学を決めている。

平成29年度の岐阜大学ウィンタースクールでは、IITG 及び UKM から教員を招へいし、本学・IITG・UKM の学生が混在したシチュエーションでの模擬講義を実施した他、グローバル（グローバル+ローカル）人材の育成に向けて、地域企業の見学も取り入れた。



対象大学	インド工科大学グワハティ校、マレーシア国民大学
実施期間	12月6日 - 12月21日
滞在期間	2週間強
参加人数	7名：インド工科大学グワハティ校（インド）5名、マレーシア国民大学（マレーシア）2名
宿泊	岐阜大学国際交流会館 C 棟 学生室

スケジュール

	事項	内容
1	開講式・ガイダンス・歓迎会	ガイダンス、キャンパスツアー、学長表敬訪問、指導教員・ラボチューターとの顔合わせ等
2	ラボワーク	工学部及び応用生物科学部の協力による研究室活動
3	日本語授業*	90分授業を全6回実施
4	日本文化体験	十二単着体験*、地歌舞伎エクスカージョン（中津川）、貝合わせ体験（徳川美術館）
5	企業見学	TOYOTA、株式会社エヌテック
6	特別セミナー、ワークショップ等	IITG 教員による研究ポスタープレゼンテーションワークショップ、IITG 教員・UKM 教員による研究セミナー、おにぎりプロジェクト（国際交流兼デザイン思考トライアル）
7	成果報告会・修了式・歓送会	研究室体験成果報告、日本語スピーチ、修了証書授与等

* 本学留学生センター主催

〔成果報告〕

ウィンタースクールレポート：本学 HP、「国際交流、刊行物等」に掲載

https://www.gifu-u.ac.jp/international/newsletter/ws_report.html

【JST さくらサイエンスプラン（受入）】 本年度採択事業

受入組織	招へい者			コース	実施期間	テーマ
	送り出し機関 (国・地域)	課程	人数			
教育学部・工学研究科 仲澤 和馬（教授）	マングレー大学 (ミャンマー)	大学院生・ ポストドク	1	Cコース	11.17-11.26 (10日間)	先端機器制御による超 原子核実験の解析
	ダゴン大学 (ミャンマー)		3			
	ヤダナボン大学 (ミャンマー)		2			
	メティラ大学 (ミャンマー)		1			
	ラショー大学 (ミャンマー)		1			



日本・アジア青少年サイエンス交流事業 さくらサイエンスプランとは？

「さくらサイエンスプラン」は、産官学の緊密な連携により、優秀なアジア地域の青少年が日本を短期に訪問し、未来を担うアジア地域と日本の青少年が科学技術の分野で交流を深めることを目的として、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）により平成26年度より開始された事業です。

(参照：http://ssp.jst.go.jp/outline/index.html)

招へい対象：高校生、大学生、大学院生、ポストドクターなど（原則として日本に初めて滞在することになる40歳以下の青少年）
対象国：バングラデシュ、中国、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、フィリピン、台湾、タイ、東ティモール、ベトナム等の35の国・地域（H30年度実施予定）

交流形態：

「科学技術体験コース」(Aコース)

目的	来日するアジア地域の青少年が日本の受入れ機関のアレンジメントにより、その受入れ機関が用意する科学技術関係の交流計画に参加するもの。
滞在期間	1週間が目安（原則として上限10日間）
招へい人数	プログラム条件次第で10～15名を限度とする。

「共同研究活動コース」(Bコース)

目的	来日するアジア地域の大学生、大学院生やポストドクターが受入れ機関のアレンジメントにより、その受入れ機関において日本の研究者と招へい者が研究テーマを明確にした短期の共同研究活動を行うもの。特定の研究テーマについて、受入れ機関が先方の機関と共同セミナー（又はシンポジウム）を開催したいというような場合も該当。
滞在期間	原則として上限3週間
招へい人数	原則10名（引率者を含まず）

「科学技術研修コース」(Cコース)

目的	来日するアジア地域の青少年が受入れ機関のアレンジメントにより、アジア地域の国・地域の青少年を対象に、その受入れ機関で実施する様々な科学技術分野に関する技術や能力の集中的な習得のための研修を行うもの。
滞在期間	1週間が目安（原則として上限10日間）
招へい人数	複数国の場合：原則25名を限度とする。単一国の場合：原則15名を限度とする。（引率者を含まず）

4. 国際交流活動

マレーシア国民大学を訪問（7月20日～21日）

7月20日（木）と21日（金）の両日、本学の鈴木理事（国際・広報担当）、小小学長補佐、杓水教授（工学部）、池田教授（工学部）、リム准教授（工学部）、野々村国際企画調整役、山田総合企画部企画課企画係長が、本学の大学間学術交流協定大学であるマレーシア国民大学（UKM）を訪問した。

UKM内で開催された「Malaysia Polymer International Conference 2017」に参加したほか、UKMのノール・アズラン・ガザリ学長をはじめとする大学関係者との懇談を行った。

今回は、特に本学とUKMが平成31年度に設置予定のジョイント・ディグリープログラムを円滑に進めるため、関係学部の訪問や担当教員らとの準備状況の確認や詳細な協議が行われ、これによりプログラムの実施に向けた着実な前進を確認することができた。



第1回特別支援教育国際シンポジウムに出席（8月29日～30日）

本学と大学間学術交流協定を締結しているタイ国教育省基礎教育委員会事務局（OBEC）が、8月29日（火）、30日（水）にタイのバンコクで「第1回特別支援教育国際シンポジウム：学校から職場へ」を開催し、8か国から約500名が参加した。

岐阜大学とOBECとは、平成27年3月に特別支援教育を中心とした教育研究交流に関して枠組合意を取り交わしたが、平成28年1月に本学へ来訪した際、国際シンポジウムの開催が話題となり、その後OBEC側で検討が進められた。本学へは参加だけでなく、シンポジウム運営に関しても助言・指導の依頼があり、日本やタイで打合せを重ね、文部科学省と本学が支援して第1回を開催する運びとなった。また、このシンポジウムは日タイ修好130周年記念事業として行われた。

シンポジウム開催に先立ち、28日（月）に、タイ教育省幹部と白間竜一郎文部科学省大臣官房審議官（初等中等教育局担当）、寺島史郎在タイ日本大使館一等書記官、森脇学長、横山理事（総務・財務担当）、池谷教育学部長等との懇談が行われ、日本からは開催への祝辞、タイからは特別支援教育への資金・技術支援や指導への要望が述べられた。

29日（火）には開会式が行われ、在タイ日本大使館佐渡島志郎大使からシンポジウム開催への祝辞が述べられた。その後、白間審議官による「日本における特別支援教育の推進について」と題した基調講演が行われ、特別支援教育と障害者の就労支援について、日本の優れた取り組みが紹介された。森脇学長からは開会の挨拶があり、シンポジウム参加者への謝辞が述べられた。午後からは各国から招へいされた研究者の発表が行われ、池谷教育学部長が「岐阜県における就労支援システムの特徴と高校生の特別支援教育システムの構造」について、2日目の30日（水）には大場教授（応用生物科学部）が「岐阜大学農場の社会福祉と農業の連携に関する挑戦」について発表した。

シンポジウム会場の廊下ではポスター発表等が実施され、研究者がお互いの取り組みを紹介し合うなど活発な交流が行われ、シンポジウムは盛会のうちに終了した。



愛岐留学生就職支援コンソーシアム設立総会を開催（9月11日）

9月11日(月)、名古屋大学シンポジオンホールにて愛岐留学生就職支援コンソーシアム設立総会を開催した。このコンソーシアムは名古屋大学を中心として企画され、本学も参画する文部科学省委託事業「留学生就職促進プログラム」の取組みを支援するために、愛知県及び岐阜県の大学、地方公共団体、経済団体及び企業支援団体と連携して事業を行い、外国人留学生に対する国内企業との連携補助及び就職支援を図ることを目的としている。

設立総会の第1部では事業計画及び事業予算の審議・承認が行われたほか、第2部では、河合名古屋大学基盤運営課長の開会の辞に続き、平田愛知県国際監及び加盟会員代表である森脇学長の挨拶の後、本学、名古屋工業大学、名城大学の留学生によるトークセッションが開催された。本学からは地域科学研究科地域政策専攻2年のZENG LEIさんが参加し、日本に留学した理由、日本で就職を希望した理由及び就職活動の感想等を流暢な日本語で発言した。設立総会には、コンソーシアム参画機関以外からも多くの参加があり、コンソーシアムが留学生の就職支援の基軸となり、また地域の国際化や経済の活性化への貢献に向けた発展につながる素晴らしい総会となった。



岐阜大学、岐阜薬科大学、サラマンカ大学における三大学間の基本合意書を締結（11月9日）

岐阜県とサラマンカ市（スペイン）は、1990年に同市のサラマンカ大聖堂のパイプオルガンを岐阜県白川町の故 辻宏氏が修復したことをきっかけに交流が始まり、岐阜県 OKB ふれあい会館内のパイプオルガンが設置されたコンサートホールがサラマンカホールと名付けられるなど、友好関係が続いている。

11月9日（木）、本学の鈴木理事（国際・広報担当）及び岐阜薬科大学の原英彰副学長兼研究科長がサラ

マンカ大学を訪問し、ダニエル・エルナンデス・ルイペレス総長と懇談した後、古田肇岐阜県知事立会いのもと、岐阜大学・岐阜薬科大学・サラマンカ大学の三大学間で基本合意を取り交わした。

この基本合意では、三大学間の連携による美濃・伊吹山の薬草に係る文献調査の実施と、シンポジウムの定期開催が確認された。

サラマンカ大学は13世紀から続く中世図書館を有しており、所蔵する古い文献をもとに美濃・伊吹山の薬草の起源を調査し、さらに三大学での医薬分野における今後の学術連携を通して、当該分野の発展と岐阜への貢献を目指す。



「北東インドにおける生物資源利用の将来構想についてのインド日本二国間シンポジウム」を開催（2018年2月1日～4日）

2018年2月1日（木）から4日（日）にかけて、日本学術振興会とインド Department of Science and Technology（DST）の合意に基づく二国間交流事業として、本学とインド工科大学グワハティ校（IITG）のジョイント・ディグリープログラムに関わる教員らにより「北東インドにおける生物資源利用の将来構想についてのインド日本二国間シンポジウム」がインド工科大学グワハティ校において開催された。本学からは、鈴木理事（国際・広報担当）を筆頭に国際協働教育体制をサポートするグローバル推進本部教職員らも出席した。

北東インドにおいては、生物生産（食料・工業原料）に関連する産業と、循環型社会技術（再生可能エネルギーと農業の融合等）の社会実装を通じた発展が目標とされており、本シンポジウムでは、インドと日本の大学・研究機関及び企業が集い、生物資源、食品科学技術、バイオ産業の現状と将来展望及び国際協働教育を中軸とする両国の産学国際連携について議論がされた。

なお、本シンポジウム開催と並行して IITG 学内研究施設や学生寮の視察を行い、ジョイント・ディグリープログラムで留学する本学学生への安全管理体制等も確認した。



学内の国際化の取り組み

* 海外留学フェア（4月19日）



交換留学や短期間の海外派遣プログラムに関する情報を提供し、留学の促進を図ることを目的としている。4月19日（水）14時から16時半、全学共通教育棟103教室で開催した。参加者は77名。その内訳を学部別に見ると、教育学部16名、地域科学部14名、医学部2名、工学部36名、応用生物科学部9名となり、学年別に見ると、1年生47名、2年生18名、3年生5名、4年生2名、修士課程以上5名であった。

項目	留学先	説明者
①留学に必要な英語力		
TOEFL		国際教育交換協議会
IELTS		(公財) 日本英語検定協会
②岐阜大学の留学制度・プログラム		
交換留学	岐阜大学大学間学術交流協定校	グローバル推進本部留学支援係 幸脇 裕輔 主任
サマースクール	ソウル科学技術大学校、木浦大学校（韓国）、グリフィス大学（オーストラリア）	工学部グローバル化推進室 川瀬 真弓 助教
ESL プログラム	アルバータ大学（カナダ）	グローバル推進本部 レイモンド コウ 特任准教授
教育学部総合文化海外実習	ノーザンケンタッキー大学（アメリカ合衆国）	教育学部 巽 徹 教授
工学部・自然科学技術研究科・工学研究科 派遣プログラム	マドリード・カルロス三世大学、ドルトムント工科大学、グリフィス大学、ニューサウスウェールズ大学、パンノン大学、全南大学、忠南大学、慶北大学校工学部、アンダラス大学、パダン州立大学、マレーシア国民大学、チュラロンコン大学、サー・パラシュラムブ・カレッジ、カンピーナス大学	工学部グローバル化推進室長 吉田 弘樹 教授
4大学連携事業留学プログラム	同済大学（中国） 他	グローバル推進本部（資料配布）
③留学体験報告		
工学部短期派遣	ニューサウスウェールズ大学（オーストラリア）	工学研究科2年 杉井 南斗さん
サマースクール	グリフィス大学（オーストラリア）	工学部3年 稲葉 智也さん 工学部2年 西川 祥平さん
トビタテ！留学 JAPAN	シンガポール国立大学（シンガポール）	工学研究科2年 岡安 一将さん
④海外における自己健康管理		保健管理センター 西尾 彰泰 准教授

事後のアンケートから、参加者の多数が学生生活のどこかで留学したいと考えているが、短期語学研修の場合は、費用が高い、語学力に不安がある等々、交換留学の場合は、それに加えて、生活様式や治安への不安、就職への影響等々が、留学へのハードルであることがわかった。

* 秋の国際月間（グローバル推進本部主催イベント）

時期（参加人数）	実施内容
11月2日（木） （約130人）	<p>「留学生及び外国人研究者等との学長主催懇談会」</p> <p>本懇談会は、森脇学長をはじめとする役員、部局長等と外国人留学生および外国人研究者並びにその家族等が一堂に会し、親睦を図ることを目的としており、今回で4度目の開催となった。今回は余興として国別に構成された学生グループ計3チームが、それぞれの出身国にちなんだパフォーマンスを披露した。</p> 
11月6日（月）・20（月） （約40名）	<p>「イングリッシュ サークル オブ フレンズ（ECF）」</p> <p>岐阜県庁で国際交流員として活躍されているセヴギ・チェヴィックさん（トルコ）、ガエル・ラグロアスさん（フランス）、ピーター・コリンズさん（英国）の3名をゲストスピーカーとして、「外国人から見る日本（Japan As Seen Through Foreign Eyes）」というテーマで本学学生や教職員とディスカッションを行った。</p> 
11月15日（水） （約30名）	<p>「地元企業との交流会」</p> <p>本交流会は岐阜信用金庫との共催により毎年実施しており、今回で6度目の開催となった。</p> <p>第1部のスイーツ試食会は、学生が和洋菓子を試食し、味や見た目などの感想を出し合うもので好評であった。</p> <p>第2部では、飲食関係の企業4社及び、製造業や輸出入業など幅広い業種から16社の参加があり、各企業による事業内容や自社製品に関するプレゼンテーションのほか、懇親会が行われた。</p>
11月16日（木） （約50名）	<p>「特別講演会～岐阜大学留学と科学研究の基盤構築～」</p> <p>本学大学院農学研究科家禽畜産学専攻を修了され、遺伝子工学の世界的な研究者として活躍されている李賛東中国農業大学教授を招き特別講演会を開催した。岐阜に留学することになったきっかけや、指導教員や研究仲間との思い出、さらには李教授が感じている岐阜や日本の素晴らしさ等が語られた。</p> 
11月17日（金） （38名）	<p>「留学生就職促進プログラム講演会」</p> <p>愛岐留学生就職支援コンソーシアム事業である文部科学省委託事業留学生就職促進プログラムとして、これから就職活動を進める外国人留学生に中部地域の企業の採用動向や、日本企業が外国人留学生に求めていることを紹介し、今後の就職活動に役に立つ情報の提供を目的に開催した。</p> 

時期 (参加人数)	実施内容
11月22日 (水) (13名)	「外国人留学生交流フォーラム」 本フォーラムは、十六銀行との共催により一昨年度から開催しており、今回で3度目となった。今年度は、岐阜県下の企業2社が岐阜県内の留学生の就職状況や将来の展望について講演し、その後のパネルディスカッションでは、企業が求める人材についての討論や、企業と学生による座談会が行われた。
11月2日(木) - 22日(水) (26名: 報告会参加者数)	「アルバータ大学 ESL プログラム写真展 & 報告会」 2017年度から新たに始まったアルバータ大学(カナダ)への夏期短期留学プログラムへ参加した学生による報告会「UofA に行ってみよう会」が開催された。 
11月24日 (金) (37名)	「講演会～マレーシアに向けた商品設計と企業展開～」 マレーシア国民大学と東京外国語大学で教鞭をとられているアズヌール・アイシャ・アブドゥッラー氏と経済産業省クールジャパン海外戦略室長である手島恵美氏をお招きし、講演会を開催した。 

*若手研究者支援 (海外研修プログラム)

グローバル推進本部では、第3期中期目標・中期計画に予定される協働教育担当者の充実を図るために、「岐阜大学若手・中堅研究者海外研修プログラム」を実施している。これは、様々な制約から海外での研究経験を積む機会が乏しかった若手・中堅の教員を対象としたもので、欧米の大学での海外研究経験を積むことを支援するものである。

本年度採択者

所属部局	氏名 (職名)	派遣先 (国名)	助成額 (上限)	派遣期間
教育学部	河崎 哲嗣 (准教授)	カールスルーエ教育大学数学及び情報科 (ドイツ)	500,000円	8.28-10.10 (44日間)
工学部	宮地 一裕 (助教)	University of Surrey (イギリス)	500,000円	2018.2.28-2019.2.28 (366日間)

留学生就職促進プログラム

留学生就職促進プログラムとは：

成長戦略における「外国人材の我が国企業への就職の拡大」に向け、各大学が地域の自治体や産業界と連携し、就職に必要なスキルである「日本語能力」「日本での企業文化等キャリア教育」「中長期インターンシップ」を一体として学ぶ環境を創設する取組を支援し、外国人留学生の我が国での定着を図るとともに、日本留学の魅力を高め、諸外国から我が国への留学生増加を図る文部科学省委託事業である。平成29年度事業の公募において名古屋大学を中心とする枠組みに本学も参加し、採択された。

*愛岐留学生就職支援コンソーシアム

本プログラムが採択されたことを受け、平成29年9月に留学生就職促進プログラムの事業目的に賛同した愛知及び岐阜県下の大学、地方公共団体、経済団体及び企業支援団体が連携し、留学生の国内就職支援を行うことを目的として設立された。(図1参照)

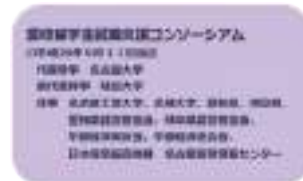


図1

*岐阜大学の役割 (図2参照)

岐阜大学の留学生向け (一部はコンソーシアム参画大学、近隣大学も参加可能) に日本語教育、キャリア日本語教育、キャリア教育 (キャリアガイダンス、キャリアカウンセリング、ビジネスマナー講座、就活講座等) を実施し、留学生就職促進プログラム講演会、講演会「マレーシアに向けた商品設計と企業展開」、企業等との交流会などを積極的に開催した。

なお、インターンシップについては、既存のインターンシップに加え、岐阜県主催の外国人留学生県内就職促進事業により実施した。

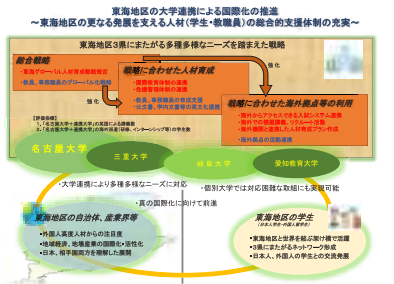


図2

4 大学連携事業

産業集積地としての東海地域において、加速度的にグローバル化が必要とされるビジネス展開を支援するため、学生、教職員に対してグローバル化を促進する人材育成体制を大学の連携・協同で実施し、真に国際化された大学群を目指すものである。本事業は平成28年度から始まり、6年間実施される予定である。

平成29年度の各事業名と本学の参加状況は以下の通り。



平成29年度 4 大学 (岐阜大学・名古屋大学・三重大学・愛知教育大学) 連携事業一覧

事業名	内容	実施日	対象	岐阜大学参加状況
一夏期留学準備講座 (IELTS)	平成30年度または31年度に交換留学などへの申込みを考えている学生を対象とした準備講座	8月21日 - 9月1日 (週末を除く合計10日間)	学生	2名参加
同済大学夏の短期中国語研修プログラム	中国語研修 (主に会話の強化)、文化体験、上海市内見学など	8月8日 - 8月22日 の15日間	学生	1名参加
第24回 Tri-U 国際ジョイントセミナー&シンポジウム2017	人口、食料、エネルギー、環境、子供などをテーマに学生による英語での研究発表と国際交流 (アジアの10数大学が参加予定)	10月23日 - 10月27日 の5日間	学生	参加者なし
2017年度フライブルク大学短期ドイツ語研修プログラム	ドイツのフライブルク大学にてドイツ語授業や文化体験、見学活動など	2018年3月2日 - 3月27日	学生	参加者なし
春期留学準備 IELTS 講座	平成30年度または31年度に交換留学などへの申込みを考えている学生を対象とした準備講座。IELTS6.0以上の取得を目指し、留学目的やキャリア構築についても深めていくプログラム	2018年2月13日 - 2月27日	学生	1名参加
南京大学 短期中国語研修プログラム	中国語研修 (主に会話の強化)、文化体験など	2018年3月5日～ 希望に合わせて2週間から長期留学まで可能	学生	参加者なし

岐阜地域留学生交流推進協議会

岐阜地域留学生交流推進協議会とは：

臨時教育審議会第二次答申 (1986年4月) において、「留学生の受入れを推進するため、大学はもとより関係省庁、地方公共団体、民間法人・団体等の参画するような官民一体となった体制づくりなど、積極的な対応を進める」ことが提言された。また、内閣官房長官主宰の地域レベルの国際交流を 考える会においても、草の根の国民レベルからの盛り上がりに基づく受入れ体制を確立するため、「地域の大学が中心となり、地方公共団体、経済団体、民間団体等によって構成される留学生交流推進会議」の設置を拡大することが提言 (1988年6月) された。

これら答申を踏まえ、文部科学省では地域の留学生交流推進会議の設置を奨励しており、1986年に兵庫県に設置されて以来、各都道府県46地域 (2013年) に設置されている。岐阜県には平成2年2月に「岐阜地域留学生交流推進協議会」(以下「岐留協」) が設置された。

岐留協は、岐阜県内における留学生の円滑な受入れの促進と交流活動の推進を目的とし、会員は、岐阜県内に所在する大学、地方公共団体、経済団体、国際交流関係団体等40機関からなる。会長は岐阜大学長が務め、本学が事務局を運営している。

* 岐阜地域留学生交流推進協議会総会を開催（7月4日）

7月4日（火）、本部棟大会議室において、本学が事務局を務める岐阜地域留学生交流推進協議会（以下、岐留協）の総会を開催した。

総会では、岐留協会長の森脇学長による開会挨拶の後、文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室外国留学係長・私費留学生係長三國屋しおり氏による講演「留学生政策をめぐる現状と取組」が行われた。続いて、11月に第16回目となる「岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会」の開催が決定され、岐阜県海外戦略推進課国際交流係主任の伊藤泰啓氏から、企業と留学生の交流促進について説明があった。その後、鈴木理事（国際・広報担当）・副学長・グローバル推進本部長から名古屋大学を中心として企画され本学も参画する文部科学省委託事業「留学生就職促進プログラム」が採択された旨、説明があった。本事業では、県内の留学生と企業の相互理解を深める取組もあり、会員への協力依頼があった。

岐留協は今年で設立28年目を迎えるが、今後も県内の留学生を取り巻く状況の変化に的確に対応しながら、県内の留学生及び岐阜地域全体にとって積極的な活動を展開し、有意義な連携を図っていく。

* 第16回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会に本学留学生5名が出場（11月25日）

「第16回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会」が、11月25日（土）、岐阜大学講堂で開催され、本学留学生のアンドレス ヒデキ カワイ カセダさん（医学部 研究生）、ズロビン ウラディスラフさん（自然科学技術研究科1年）、ゼン アレイさん（留学生センター 特別聴講学生）、ソン ウケンさん（留学生センター 日本語・日本文化研修留学生（以下、日研生））、及びヘル フィオナ シドニー キラさん（留学生センター 日研生）の5名が出場した。本大会は、本学が事務局を務める「岐阜地域留学生交流推進協議会（以下、岐留協）」が、平成13年度より外国人留学生の日本語学習意欲の喚起及び日本語の表現能力の向上を目的として行っている事業であり、今年度は76名の参加があった。また、新たに今年度は岐阜県に協力いただき、大垣共立銀行及び十六銀行の後援により弁論大会後に企業等との交流会を開催し、34名の参加があった。

当日は、岐留協会長の本学森脇学長による開会挨拶の後、岐阜県内の大学、短期大学等の5機関から集まった12名（8カ国）の出場者がそれぞれ約7分間の日本語のスピーチを行い、日頃の努力の成果を存分に発揮した。審査の結果、本学出場者からは、「私が憧れる雑貨店」をテーマに発表したソン ウケンさんが優秀賞を受賞した。入賞者は、岐留協会長の森脇学長より、賞状と副賞を授与された。

【第16回大会入賞者】

最優秀賞	サイケン ホウ TSOI KIM FUNG	中部学院大学	「新卒一括採用—日本と香港との比較—」
優秀賞	トラン ミン ドウ TRAN MINH DOU	岐阜経済大学	「私を変えた日本」
	バンダリ ラゼンドラ BHANDARI RAJENDRA	中日本自動車短期大学	「日本に抱いていた理想と現実」
	ソン ユケン SUN YUXUAN	岐阜大学	「私が憧れる雑貨店」



ユネスコスクール活動支援

本学は平成23年度にユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUivNet）に加盟し、岐阜県・岐阜市の教育委員会や県下のユネスコ協会、その他関係機関と連携しながら、県下のユネスコスクール拡大に取り組んでいる。現在、岐阜県下では31校（2018年4月現在）が加盟しており、それぞれ地域に根差した特色のある活動を行っている。

本学では、加盟申請に係る手続きの支援（ユネスコスクール加盟手続きに必要な申請書の作成支援等）及び、ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）活動支援（学校側の要望に応じた、ESDに関わる専門分野の教員や外国人留学生の派遣等）を行っている。

* 近隣小・中学校や関係機関への訪問とユネスコスクールに関する説明

①ユネスコスクールとしての現状調査のための学校訪問

訪問学校：岐阜市立島小学校

訪問時期：10月31日（火）

活動説明：岐阜市立島小学校は岐阜県初のユネスコスクールである。同校から校区内での生産量が多い枝豆の育成活動や販売活動を軸とした「枝豆活動」を各教科や総合的な学習の時間にて横断的に取り組んでいることが報告された。岐阜大学は同校の活動に対して、今後、更に活動を発展させるための助言・提案を行った。また、同校の参加が予定されていた「東海地区ユネスコスクールフォーラムグッド・プラクティス校交流会」の事前打ち合わせも同時に行った。

②ユネスコスクール加盟申請手続き等説明のための学校訪問

訪問学校：岐阜市立鏡島小学校

訪問時期：12月11日（月）

活動説明：岐阜市立鏡島小学校は、現在ユネスコスクール申請に向けて、軸とする活動や目指す児童像の構想段階にある。岐阜大学は同校を訪問し、ユネスコスクールに加盟するメリットや加盟後のサポート、今年度より刷新された加盟までの流れ（チャレンジ期間やOTAの導入等）について説明を行った。

③ユネスコスクール加盟申請校のチャレンジ期間状況調査のための学校訪問

訪問学校：岐阜県立大垣工業高等学校

訪問時期：2018年1月19日（金）

活動説明：岐阜県立大垣工業高等学校は、現在ユネスコスクール加盟に向けてのチャレンジ期間最中にある。岐阜大学は同校を訪問し、工業という特色を生かした教育活動を行い、今後もチャレンジ期間をより一層充実させていきたい等の報告を受けた。

④ユネスコスクールパスポート報告会に係る岐阜県ユネスコ協会との打ち合わせ

訪問機関：岐阜県ユネスコ協会

訪問時期：2018年1月22日（月）

活動説明：2018年2月24日（土）に岐阜県ユネスコ協会主催による「ESDパスポート体験発表会」が開催されるにあたり、ユネスコスクールへの加盟を考えている学校が何校程あるかを調査した。

⑤ ESD パスポート体験発表会への参加

開催場所：岐阜市文化センター

開催時期：2018年2月24日（土）

活動説明：ユネスコスクールの加盟を考えている岐阜県下の小・中・高等学校との懇談を行い、岐阜大学としてどのような支援ができるかや加盟までの手続きについての説明を行った。

スーパーグローバルハイスクール事業への協力

スーパーグローバルハイスクール（SGH）事業は、「高等学校等におけるグローバル・リーダー育成に資する教育を通して、生徒の社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図ることを目的」として、文部科学省が実施している。目指すべきグローバル人物像を設定し、国際化を進める国内外の大学を中心に、企業、国際機関等と連携を図り、グローバルな社会課題、ビジネス課題をテーマに横断的・総合的・探求的な学習を行う高等学校をSGHに指定している。岐阜県ではSGHとして岐阜県立大垣北高等学校が、SGHアソシエイトとして岐阜県立関高等学校、高山西高等学校が指定されている。

○医学部

①7月12日（水）・19日（水）に、医学部医学教育開発研究センターの教員2名が大垣北高等学校へ出向き、国際医療の課題研究に取り組む生徒（2年生）計64名に対して、研究の進め方やリサーチクエスションの立て方、文献調査方法等の指導を行った。ゼミ授業は、小グループ形式で行われ、各生徒は事前に準備した計画書に基づいて研究概要を説明したあと、本学教員がアドバイスをしながらグループディスカッションを進めていった。12月8日（金）には、同様の指導を1年生計30名に対しても行い、国際医療の課題研究に取り組むための基本（テーマ設定等）を話し合った。グローバルな視点で医療が抱える課題解決に向けて熱心に研究する生徒の姿が印象的であった。

②12月8日（金）に、医学系研究科の中国からの留学生である他那さんが、スーパーグローバルハイスクール指定校である岐阜県立大垣北高等学校において、1年生の生徒18名（4グループ）と交流した。参加した生徒らは、国際医療関係に深い関心を持っており、国際医療、特に東南アジアの医療環境問題の改善を課題とし、活発に意見交換を行った。他那さんは、「こうした交流を通じて、学生のうちからグローバル意識を高めていくことが大切だと感じた。また、この活動に参加できたことは有意義であった。」と感想を述べている。

○工学部

SGH指定校・岐阜県立大垣北高等学校の生徒（1・2年生）18名と教職員2名、計20名が12月19日（火）に工学部を訪問した。今回は、「環境・エネルギー分野」について、技術的に問題を解決するモデル例を理解するため、工学部の太陽光・水環境およびエネルギー変換に関連した3つの研究室を見学した。研究室見学後、会議室にて高校生からラボツアーの感想や興味のある研究・実験について意見交換した。高校では見たことのない専門機器を使って実験する様子を見学し、新しい理論の検証の難しさと大切さを実感した様子であった。この訪問をきっかけに、ますます科学技術系学部の学問・研究に対する興味や関心が高まることを期待する。

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

1. 教育学部

* 短期留学の実施

ノーザンケンタッキー大学短期留学

参加人数	教育学部9名
実施日	8月25日 - 9月15日
教育学部科目	『総合文化海外実習』（3単位）

ノーザンケンタッキー大学はアメリカ中東部にあるケンタッキー州の北部、オハイオ州との州境に位置する総合大学である。1990年から岐阜大学と大学間学術交流協定を結んでおり、毎年相互に複数の交換留学生在が学んでいる。本学の夏休み期間に実施された3週間の短期留学では、英語研修だけでなく、現地の小中高等学校や日本人学校を訪問し学生達と交流したり日本文化を紹介する実習を通して、互いの文化や教育について理解を深めることができた。また、TOYOTAなどの海外で活躍する日系企業を訪問するなど、多彩なプログラム内容であった。留学期間中は、主にキャンパス近辺のホテルに滞在し研修を行ったが、週末にはアメリカ人家庭でホームステイをする機会もあり、ホストファミリーとの親交を深めることができた。



* 短期留学報告会（12月6日）

2016年度から2017年度にかけて、本学部及び本研究科から大学間又は学部間交流協定大学へ派遣された学生4名及び教育学部の開講科目・総合文化海外実習として短期留学した学生9名のうち2名の発表による留学報告会を12月6日（水）に開催した。アメリカ、タイ、ドイツ、中国から帰国した学生より、先方の大学紹介、研修内容、現地の人々との交流、文化・言語の違い等、貴重な学びや体験が発表された。また、本研究科に院生として学んでいる中国からの留学生による、日本に留学するに至った経緯、日本に対する印象や留学生活について発表があり、日本を客観視できるよい機会にもなった。

本報告会は、国際交流委員長・仲澤教授の音頭により教育学部において初めて開催され、今後留学予定の学生、留学を考えている学生や教職員が参加した。



2. 地域科学部

* 国際教養コース学生への留学説明会の開催（6月28日）

6月28日（水）に、国際教養コース1年生のための留学説明会を開催し、18名の学生が参加した。学生は合掌国際交流委員長より交換留学の概要やスケジュール、語学力向上のためのカリキュラムやサポート体制、奨学金等の留学支援制度についての説明を受け、また説明会後半では夏から留学予定のコース2年生から、留学に向けての準備の体験談を語ってもらった。

国際教養コースを希望する学生は昨年度と比べて増加しており、参加学生は今回の説明会を通して留学への意思をより強めることができたと考えられる。

なお、平成29年度は、国際教養コースを希望する8名の学生が留学を開始した。（アメリカ合衆国3名、オーストラリア5名）



* アーカンソー大学フォートスミス校、ノーザンケンタッキー大学を訪問（2018年3月4日～9日）

2018年3月4日（日）から9日（金）にかけて、和佐田学部長、合掌教授及び神谷准教授がアメリカ合衆国のアーカンソー大学フォートスミス校とノーザンケンタッキー大学を訪問した。2校は岐阜大学および地域科学部の学術交流協定校であり、現在国際教養コースの学生が留学をしている。

アーカンソー大学フォートスミス校では留学中の学生と面談し、学習環境や生活の様子について聞いた。その後、宿舎やジム、図書館などの学内の施設を案内してもらった。またOffice of International RelationsにてコーディネーターのWing Chow氏と会い、学生の様子について聞いた。

ノーザンケンタッキー大学ではOffice of Education Abroadを訪問し、Rebecca Hansen氏、Candace Gibson氏、Sarah Mackey氏、Anne Perry氏と面談した。その後スタッフの方々にジムや図書館、研究棟といった学内の施設を案内してもらった。

両校の訪問は学生の実際の教育・生活環境を知るよい機会となり、またコース学生の留学後の語学力維持等の方法についても、有益な情報が得られた。



3. 医学部

* 忠北大学校医学部－岐阜大学医学部学生交流プログラム10周年記念式典（8月9日～13日）

8月10日（木）に医学部本館大会議室にて、忠北大学校医学部－岐阜大学医学部学生交流プログラム10周年記念式典が執り行われ、忠北大学校医学部と本学医学部から教員や学生、関係者など、合わせて約40名が出席した。

同プログラムは2008年に開始以来、隔年で相互に学生の受入れ及び派遣を行っており、両学においてこの10年間で250名近くの教員及び学生が携わってきた。

今年10周年を迎えた同プログラムは、8月9日（水）から13日（日）の間、岐阜市民病院視察や英語シンポジウムなどが学生主体で行われ、また、忠北大学校医学部の教員による本学医学部長の表敬訪問も行われた。



* ニュージーランド看護研修（2018年3月3日～11日）

ニュージーランド北部のオークランドに位置するマヌカウ工科大学にて、9日間の海外看護研修を実施した。看護学科の学生14名が参加し、医療英語のレッスンを受講するだけでなく、現地の病院、ホスピス、高齢者施設を訪問し、日本とは異なる医療福祉施設について学ぶことができた。また、実施2年目となる今回の海外研修では、血圧を測定する現地看護学生の実習に患者役として参加したり、歩行困難な患者さんを座位から持ち上げて楽々移動させることのできるスタンディング・ホイストを全員が体験するなど、参加体験型の実習を実施することができた。



4. 工学部

* 外国人留学生のための研修旅行（9月27日－28日）

9月27日（水）、28日（木）の2日間、工学部外国人留学生のための研修旅行を実施した。留学生43名と引率の教職員3名、計46名の参加があった。初日は、東洋建設の鳴尾研究所（兵庫県西宮市）を訪れ、初めて目にする造波模型装置に目を輝かせ、また、遠心力载荷模型実験装置の地震動レベルや層厚、振動のあり方などについて積極的に質問をした。翌日は、島津製作所創立記念資料館（京都市中京区）を訪れ、創業以来130数年間に島津製作所で製造されたX線装置や理化学機器などの展示品を見学した。



また三十三間堂、清水寺や二年坂といった、日本の文化を直に感じることのできる場所を訪れた。学科・専攻の垣根を越え、留学生同士の交流も活発になり、かつ親睦を深めることのできる大変有意義な研修旅行となった。

* ミャンマーとのサイエンス交流事業（11月17日－26日）

11月17日（金）から26日（日）の期間中、ミャンマーのマングレー大学、ダゴン大学、ヤダナボン大学、メティラ大学、ラショー大学から教員（5名）と学生（3名）が工学部を訪れ、本学の「ダブルハイパー核実験棟」にて、主検出器である原子核乾板製造装置の仕様や大型現像装置による現像、および顕微鏡で取得した画像の処理を研修した。本交流は、工学研究科環境エネルギーシステム専攻の仲澤教授が、3年連続で国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の「さくらサイエンスプラン（日本・アジア青少年サイエンス交流計画）」に採択されたものである。



この時期と合わせて、ヤンゴン大学と上記5大学の副学長や学科長8名を、ミャンマーにおける基礎科学を実験面で進展させることを目的として招へいした。さくらサイエンス参加者は、最終日に副学長や学科長たちの前で報告し、指導を受けた。

* インドネシア・イスラム大学との部局間学術交流協定締結（2018年2月23日）

2018年2月23日（金）、インドネシア・イスラム大学（インドネシア）の3学部の学部長（土木計画学部、数学自然科学部、産業技術学部）、副学部長（土木計画学部）、学科長と講師（共に土木計画学部 環境工学科）の6名が本学を訪れ、工学部との部局間協定の締結を執り行った。インドネシア・イスラム大学は学生数約21,000人の私立大学であり、インドネシアの大学では最も歴史のある大学である。本協定の調印式には、野々村学部長、嶋教授、リム准教授、山田准教授が出席した。今回の協定締結により、研究交流はもとより、学生の教育交流が進むことが期待される。

5. 応用生物科学部

* 国際化プログラム説明会（4月6日－8日）

4月6日（木）から8日（土）にかけて実施された新年度ガイダンスにおいて、本学部の学生が受講可能な国際化プログラムについて、説明会を行った。本説明会の対象は応用生物科学研究科応用生命科学専攻修士2年生、自然科学技術研究科生命科学・化学専攻修士1年生及び生産環境科学専攻修士1、2年生、修士学生の保護者並びに、応用生物科学部応用生命科学課程及び生産環境科学課程における学部1年生から4年生及び学部1年生の保護者である。特に、学部1年から博士課程に至る全ての学年の学生が受講可能な国際化プログラムが提供されていることを周知した。具体的には、本年度から新たに開始した日本人学生の留学前英語教育プログラム ESL、海外留学支援制度（協定派遣）、留学に関する奨学金制度、平成31年度から開講予定のインド工科大学グワハティ校とのジョイント・ディグリープログラム（修士課程及び博士課程）並びに現在進行中のダブル・ディグリープログラム（修士課程及び博士課程）を説明した。本国際化プログラムに関する説明は本学部のグローバル推進室のもとに実施された。

* 特別講演会「途上国の歩き方—国際ボランティアのすすめ—」（5月29日）

5月29日（月）に、応用生物科学部多目的ホール101講義室において、応用生物科学部グローバル推進室主催の特別講演会を行った。

今回は、本学部卒業生で国際協力機構（JICA）や青年海外協力隊で活躍された菱田靖氏をお迎えし「途上国の歩き方—国際ボランティアのすすめ—」と題して、JICAの概要、途上国を援助する各国の組織や、菱田氏が赴任された国々についての現状や文化などをお話いただいた。講演後には参加した学生から多くの質問があり、海外へ目を向ける契機となった。



* 岐阜大学若手・中堅研究者海外研修プログラム報告会（7月5日）

岐阜大学若手・中堅研究者海外研修プログラムの支援を受けて、応用生物科学部応用生命科学課程の教員である寺本准教授は2016年3月から6月にかけてカナダ McMaster 大学に、同課程の中川教授は2017年3月から6月にかけてアメリカ合衆国 San Jose 州立大学に留学した。

7月5日（水）、応用生物科学部応用生命科学課程主催で、教員の海外留学帰国報告会を応用生物科学部102講義室で開催した。当日は教員と学生合わせて30名程度が報告会に参加し、留学先で得た経験などを共有した。

* 大野町の柿生産者との交流会に参加（10月18日）

インドネシア・タイ・中国の留学生13人が大野町の柿生産者との交流イベントに参加し「柿の美味しさと魅力」を体感した。

この会は、応用生物科学部の「地域ブランドと地域振興（富有柿倶楽部）」の授業の一部でもあり、JAいび川及び大野町かき産地協議会の協力により、1年生10人の現地実習に合わせて行われた。

当日は、大野町にある柿選果場の見学と柿の圃場で収穫を体験して柿の収穫から出荷までの流れを学び、大野町町民センターにおいて柿を使ったパウンドケーキ作りに挑戦した。また、6次産業化アドバイザー内田伸二氏の講演を受けた後、焼きあがったケーキや、大野町で生産される早秋（そうしゅう）、太秋（たいしゅう）など様々な種類の柿を試食しながら、生産者・関係者の皆さんと意見交換を行った。

この会を通じて留学生や受講生は、県内の柿の40パーセント以上を生産・出荷する大野町の柿の魅力と、質の高い柿を消費者に届けるための生産者の皆さんの努力を知ると同時に、海外進出や生産者の高齢化などの課題についても考える機会となった。

なお「富有柿倶楽部」の受講生は、グループワークで理解を深め、各班で設定した課題について自分たちの提案をまとめ、1月に発表を行った。



6. 連合農学研究科

* International Symposium on Innovative Crop Protection for Sustainable Agriculture 2018を開催 (2018年3月7日-8日)

連合農学研究科は、2018年3月7日（水）から8日（木）にかけて、連合大学院研究科棟にて「Innovative Crop Protection for Sustainable Agriculture」をテーマに International Symposium 2018 を開催した。

初日の7日（水）には、千家研究科長の挨拶、鈴木理事（国際・広報担当）の歓迎メッセージの後、Mariano Marcos State University の Shirley 学長（フィリピン：連合農学研究科修了生）の Special Guest Speech があり、その後2日間にわたって、名古屋大学の千葉壮太郎特任准教授、農研機構中央農業研究センター病害研究領域グループ長の吉田重信博士及び岐阜大学の須賀准教授、清水准教授による基調講演やIC-GU12 加盟大学関係者及び在外の連合農学研究科修了生の応募者から選抜された外国人研究者18名（インドネシア、タイ、バングラデシュ、修了生10名を含む）による植物保護技術に関する最新の研究成果の発表があり、質疑応答を含め活発な研究討論が行われた。また、この様子は静岡大学にテレビ会議システムで配信された。

あわせて、岐阜大学の植物病理学関連の研究室に所属する学生及び教員の計10名、国費外国人留学生13名（うち1名は静岡大学）と名古屋大学の学生1名がポスター発表を行い、出席した研究者との研究交流を図った。

Symposium の参加者は総勢97名で大変盛り上がり、有意義な Symposium となった。



7. 連合獣医学研究科

* 第9回ジョイントシンポジウムに参加 (2018年2月23日)

2018年2月23日（金）、韓国のソウル大学にて第9回ジョイントシンポジウム「The 9th Joint Symposium of Veterinary Research among Universities of Veterinary Medicine in East Asia」が開催された。今回のシンポジウムには、日本から本学連合獣医学研究科（岐阜大学、帯広畜産大学、岩手大学、東京農工大学、国立感染症研究所（本研究科との連携機関）、山口大学連合獣医学研究科（鳥取大学、山口大学、鹿児島大学）、東京大学）が参加した。

ジョイントシンポジウムでは、Keynote Lecture（獣医学の研究発表）、Session（学生による口頭発表、ポスター発表）が行われ、積極的な情報交換、意見交換がされた。

連合獣医学研究科からは高島准教授が Keynote Lecture を、7名の学生が口頭発表、8名の学生がポスター発表を行い、RAJABI TOUSTANI REZA さん、羽立薫さん、田中隆志さんが優秀者として表彰を受けた。

なお、次回のジョイントシンポジウムは、岐阜大学で開催される予定である。



8. 連合創薬医療情報研究科

* 慶熙大学校との合同学生発表会 (2018年1月25日-26日)

2018年1月25日（木）から26日（金）にかけて、連合創薬医療情報研究科は、赤尾教授と共同研究を実施している、韓国の慶熙大学校（キョンヒ）の Prof.Kim 研究室の教員・学生を招き、合同学生発表会並びに懇親会を岐阜大学で行った。

慶熙大学校からは、教員1名、学生5名、岐阜大学からは教員2名、学生5名、その他の大学より4名が参加し、合同発表会では、全員が英語でのプレゼンテーションを行い、その後活発な意見交換が行われた。



9. 流域圏科学研究センター

*国際セミナー「Phytophthora Diseases」開催（6月1日）

近年、欧米で森林を枯らす病原菌として Phytophthora 属菌が問題となっており、日本でも地球温暖化に伴い発生すると危惧されている。流域圏科学研究センターで取り組んでいる共同利用・共同研究拠点化事業の一環として、6月1日（木）に国際セミナーを柳戸キャンパスで開催した。はじめに、当センターの景山教授より Phytophthora 属の分類法の紹介と日本での菌株の再評価について、次いで Dr. Thomas Raimund Jung（チェコ、メンデル大学）より森林病害の写真、動画およびCG映像を交えながら、Phytophthora 病害の起源について、最後に Dr. Clive Brasier および Dr. Joan Webber（イギリス、アリスホルトロッジ森林研究所）より、P. ramorum の脅威と欧米での発生要因、被害状況と防除対策について講演いただいた。学外者6名を含む合計34名（内、留学生9名）が参加して活発な意見交換が行われ、メンデル大学の Dr. Marilia Horta Jung から数々の貴重な意見をいただいた。拠点化事業により海外の著名な研究者の活動に触れる機会を得る好事例となった。



10. 留学生センター

*郡上踊りワークショップ（5月24日）

5月24日（水）、柳戸会館集会ホールにおいて「郡上踊りワークショップ」を開催した。本学との地域連携協定の締結などの交流実績がある郡上市との交流促進の一環として実施しているもので、今回で6回目の開催となる。郷土芸能の一つであり国重要無形民俗文化財の指定を受けている「郡上踊り」を学ぶこのワークショップに、留学生、日本人学生、教職員等、約30名が参加した。

開催に先立ち、学生たちは、美濃市の国際交流支援グループ「せびあ会」の方に浴衣を着付けてもらい、ポーズをとって写真を取り合うなど、踊る前から盛り上がりを見せていた。郡上市から遠藤光生氏、熊澤里重氏を講師に招き、郡上踊りの中で代表的な曲「かわさき」「春駒」の踊りを習った。最初は講師の踊りを追うのが精一杯だった学生たちも、最後にはリズムに合わせて楽しみながら踊れるようになった。



*能楽（能・狂言）ワークショップ（7月19日）

留学生センターとグローバル推進本部の共催により、7月19日（水）、柳戸会館集会ホールにおいて「留学生と日本人学生のための能楽（能・狂言）ワークショップ」を開催した。当日はサマースクール参加学生、留学生、日本人学生、教職員等、約60名が参加した。

能の講師として観世流シテ方の味方團先生と田茂井廣道先生、狂言の講師として、大蔵流狂言方の山口耕道先生と茂山良暢先生の4名をお招きし、能・狂言に関する講義や実技指導が行われた。能面や狂言面を実際に示しながらの説明に学生たちも熱心に聞き入っていた。実際に声を出しての狂言の「大笑い」や謡曲「高砂」の体験、講師による能や狂言の実演の鑑賞、代表学生がモデルとなった能装束の着付け等の多彩な内容で、本物の日本の文化を間近で体験できる貴重なイベントとなった。



*十二単の着装と体験（12月13日）

12月13日（水）、柳戸会館集会室（和室）において、特別講義「十二単の着装と体験—日本の民族衣装—」を開催した。留学生、日本人学生及び教職員、ウインタースクール参加学生を含む約40名が参加した。この講義は今年度で4回目となり、「本物にふれる」という留学生センターのコンセプトに基づき、本学の学生を対象とした日本文化の体験型授業の一環として開催されているものである。

講師は、和服の着付けを専門に指導されている伊藤慶子氏、佐藤千里氏他5名の方々と、紋付・袴の正装で立ち合わせ、会場に雅楽のBGMが流れる荘厳な雰囲気の中で講義が行われた。留学生センター土谷教授による、日本語・英語両言語での十二単の歴史や基礎知識の説明の後、代表学生一人に十二単の着付けがなされた。十二単は重ねたまま脱ぎ、その形を保つことができるため、多くの学生が男女を問わずその中に入り、重さを体感していた。日本の民族衣装を学び、体験するいい機会となった。



11. 保健管理センター

* 南フロリダ大学医学学群の教員による表敬訪問 (2018年1月9日-10日)

2018年1月9日(火)から10日(水)にかけて、米国の南フロリダ大学医学学群公衆衛生学科より、Matawal Makut 講師が来学し、森脇学長、鈴木理事(国際・広報担当)、湊口医学部長、藤崎センター長(医学教育開発研究センター)、奥村看護学科長を表敬訪問した。

南フロリダ大学は、学生数約48,000人と、全米最大規模を誇る州立大学である。本学とは1980年代から研究者交流があり、2016年10月には医学部医学科・看護学科における学生間交流や、国際保健分野における研究交流が促進されることを視野に、本学医学部及び保健管理センターと南フロリダ大学医学学群との間に、部局間協定が締結された。さらに、医学部学生の臨床教育参加に関わる合意書が近々締結される予定である。

2018年5月には、南フロリダ大学医学学群より引率教員と共に学生32名が、本学医学部及び保健管理センターに来学し、日本の医療保険制度や減災・防災システムに関する講義受講、岐阜大学医学部附属病院をはじめとする県内の医療福祉施設の見学、郡上市内の公立小学校における給食体験、医学部医学科・看護学科の学生との交流等を実施する予定である。今回の訪問では、その打合せの他、本学医学科の学生1名が臨床実習のため南フロリダ大学の教育病院(タンパ総合病院)に派遣されることなども話題となり、両学の学生及び教職員の交流促進について、活発な意見交換を行った。今後も、南フロリダ大学医学学群とは、教育・研究・臨床分野における更なる交流、発展が期待される。



12. 大学本部

* 平成29年度岐阜大学事務系職員グローバルマインド 醸成研修(9月26日-10月20日)

本学事務系及び技術系職員における国際化の取り組みとして、平成27年度から実施している。この研修は、グローバルマインドを醸成するために、異文化における多様な価値観を理解し、幅広い視野で物事を捉えられるようになること、並びに国際的なビジネスマナーを学ぶことで、職員の資質の向上と業務遂行能力の増進を図ることを目的としている。

本年度の研修は、9月26日(火)から10月20日(金)までの期間に、株式会社インソース講師、瀬戸教授(工学部)、コウ特任准教授(グローバル推進本部)、エドマンズ講師(本学非常勤講師)、外国人留学生6名に講師を依頼し、アクティブラーニング形式で35歳以下の一般職員30名程度を対象として実施した。

今年度は、英語を実際に話す機会を昨年度よりさらに増やし、大学の窓口を想定した内容で英語でのロールプレイングを取り入れた。

* 事務系職員海外実務研修(10月24日-11月20日)

公募を経て今年度も2名の事務職員を本学海外オフィスのある中国広西大学に派遣した。広西大学で3週間滞在し第2回岐阜大学フェア in 広西大学の実施の他、留学相談、そして今年度は新たに「中国語を学ぶ」、「日本語を教える」の時間を設けた。日本語クラスには学生から教員まで大勢の参加があり、大変好評であった。

上海では、約1週間の滞在で岐阜大学上海事務所をはじめ十六銀行、名古屋大学中国交流センター、岐阜県事務所、日本留学専門教育機関等を訪問し海外へ進出した企業の取組み、大学や県が海外に事務所を持つ意義などの実情を調査し、進みつつある本学の国際化事業に貢献した。



* TOEIC スコアアッププロジェクト

語学力向上のため自己研鑽に励む一般職員に奨励金を支給することにより、更なる研鑽を奨励し岐阜大学のグローバル化の基盤を強化することを目的としてTOEIC スコアアッププロジェクトが2016年5月に制定された。

奨励金を受給することのできる者は、本学に所属する一般職員(事務職員及び技術職員)であり、TOEICで800点以上を取得した者を対象としている。

今年度は4名の職員(工学部1名、学務部1名、情報部2名)から申請があり、認定証並びに岐阜大学基金特定事業金「国際交流促進のための奨学寄附金」より奨励金を贈呈した。

ジョイント・ディグリー（JD、国際共同学位）専攻の設置と本学の国際化戦略

岐阜大学 理事（国際・広報担当）・副学長 グローカル推進本部長 鈴木文昭

背景

2014年11月14日、大学設置基準の一部が改正された（URL：http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/012/siryo/_icsFiles/afiedfile/2014/05/15/1347725_23.pdf 及び <http://searche-gov.go.jp/servlet/PcmFileDownload?seqNo=0000155209>）。待ち望んだ改正だった。海外の大学と日本の大学が共同して国際連携学科（学士課程）や国際連携専攻（修士・博士課程）を立ち上げて良いというものだ。もちろん、設置するには文部科学省に設置申請（意見伺い）して認可されねばならない。相手大学や学内の調整はもちろん、相手大学も同様の国内承認を経ねばならない。プログラム作成や運営計画における制約もあり、設置認可や運営面でのハードルもかなり高い。とはいえ、教育改革の機動力となる改正になると期待される。連合農学研究科長だった7～8年前、複数の海外協定大学（新興国の有力12大学）と博士教育における国際協働教育について語り合ったことが数回ある。ジョイント・ディグリー（JD、国際共同学位）プログラムのことが常に話題に上がった。彼らの多くは、その用語、JDと内容等を既に知っており、異口同音に「JDに興味がある」と述べていた。その頃、本学では修士課程（応用生物科学研究科）でのダブル・ディグリー（DD）プログラムを広西大学（中国）と始めようとしていたこともあり、JDプログラムと混同していた参加者もいた。平成26年以前には、JD専攻は日本国では設置できなかった。しかし、研究科の既存の専攻で単位互換の範囲内で運営することができるDDやサンドイッチプログラムの立ち上げは可能だったので、博士教育において、まずはこれらのプログラムから始めることを提案した。親しくなった参加大学の研究科長等からは、「合理性が高く教育効果も大きいJDプログラムが日本国では何故認められないのか」、と率直に質問を受けたことを思い出す。現在、本学においては、修士課程（自然科学技術研究科）で1大学と、博士課程（連合農学研究科）では9大学とのDDプログラムが、そして修士・博士課程で複数大学とサンドイッチプログラムが動いている。尚、国内86の国立大学の内、現在、50大学以上が海外の大学と大学院教育の中でDDプログラムを動かしている。

2014年11月の改正と同時期にJDガイドラインが開示された。（URL：http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1353907.htm）ガイドラインを何度も読み返し、生じた疑問点については文科省大学振興課に出向き解決していった。当時課長補佐だった北岡龍也氏は、その都度丁寧に対応してくださった。この場をお借りし、心より感謝の意を表したい。このやりとりの過程でJD施策の大筋も理解できたことは幸運だった。JDガイドラインに後押しされ、本学は海外の協定大学とJD設置に向けて具体的な対話に入っていた。本稿では、本学のJD設置に向けた活動を例にして、JDについて解説し、ご理解と皆様からのご意見をいただき、今後の本学における国際活動の進展の糧としたい。

第三期中期目標・中期計画における本学の国際化戦略

第三期中期目標（平成28年～、6年間）において、本学は「国際化」戦略として、「地域に根ざした国際化と成果の地域還元」を掲げている。また、中央教育審議会からは「今後の高等教育の将来像の提示に向けた論点整理」（平成29年12月28日）及び国立大学協会からは「高等教育における国立大学の将来像 最終まとめ」（平成30年1月26日）が開示された。どちらも国際化関連事項として、「大学院教育の質保証」、「海外連携」、「ジョイント・ディグリー/ダブル・ディグリー」等がキーワード様に示されている。もちろん、すべての大学は、学生が「何を学んだか」だけでなく「どんな能力を身に着けたか」を、ディプロマポリシーとして公開せねばならないことを前提としている。本学は研究科・学部毎（専攻・学科毎）に公開している。合わせて、「カリキュラムポリシー」と「アドミッションポリシー」も列記している。

第三期における国際化戦略：「地域に根ざした国際化と成果の地域還元」の取組（戦術）について、2つ

の部分に分け、まずは「地域に根ざした国際化」への具体的取組について熟考した。教育、特に「大学院教育の国際化」を中心課題として種々の取組（戦術）を立てた。そして、その取組の中軸には「JDプログラムの設置」を据えた。

本学において、大学院の専攻単位や研究科単位で国際協働教育を進めることができれば、そこには学生、教員、事務職員が関わることになる。現行のDDプログラム（二大学間）が近いものといえる。また、本学のみで開設しているアドバンスド・グローバルプログラム（AGP）や英語コースも同様である。その中で加えるべき要素としては「大学院教育（学位）の質保証」である。DDプログラムやサンドイッチプログラムは、総習得単位の一部を相手大学と互換するので、教育レベルにおいて若干の客観性は担保される。しかし、最も客観性の高いのは、設置審査を受けるJDプログラムといえる。学問分野横断型の領域であれば、プログラム内容の幅を広げることが期待できる。さらに、使用言語を英語とすれば、学生の国際力も高まる。もちろん、教員側の言語・講義スキルの向上や事務職員の国際性の向上も期待できる。これらを満足する大学を協定大学の中から選択することはもう一つの重要な視点となる。

次に、上述した「地域に根ざした国際化」の「地域に根ざした」についてである。JDを進める相手大学候補の中で、地域貢献のミッションをもった大学があれば有力候補といえる。ここ数年前から、インド政府はインド工科大学グワハティ校（IITG）に対して、アッサム地域の食産業及び関連産業振興への貢献を要請している。アッサム州からも同様だ。岐阜県を含めた東海地域には食産業が根付いており、そこには海外進出を視野に入れている企業も少なくない。食産業に関わる分野でのJDプログラムなどの協働教育についての本学側からの提案は、両大学にとってタイムリーだった。両学長の合意の後、両大学の関係教員による幾度とない対話の末、JD3専攻（修士1専攻、博士2専攻）の設置に向けた審査書類の作成が始まった。平成30年4月には3専攻の内、2専攻についてのJD設置申請書の提出が完了し、現在審査中である。他の1専攻は工学研究科博士課程改組申請の承認後、直ちに申請する。準備はほぼ終了している。これら3つのJD専攻プログラムは平成31年4月に開設する予定であり、アッサム地域の期待も大きい。グローバル人材育成のための典型的な国際プログラムとなる。

平成30年2月に二国間シンポジウム（北東インドにおける生物資源利用の将来構想について）がIITGで開催された。同時期にインド政府やアッサム州主催の関連会議もグワハティ市内で開催されていた。これら会議に参加した本学関係者は、各人各様にアッサム地域における食及び関連産業振興への想いを肌で感じた。日本の関連企業も数社参加し、彼らからも同様な感想を得た。次の課題は、東海地域（日本）とアッサム地域（インド）との産業連携を、どのように進めていくかである。IITGとのJDプログラムを進め、然るべき人材を育成する中で、じっくりと深化・拡大して繋げていくものと期待している。そう遠くない将来に実現することが期待できる。まさに教育成果の両地域への還元といえる。

一方、マレーシア国民大学（UKM）とは、材料工学に関する国際連携専攻を工学研究科博士課程に設置する予定である。本学にはUKMを卒業したマレーシア国籍の教員も在職しており、この十数年間の学生交流実績をもつ。数年前からは、両学長のJD専攻設置に向けての合意、両大学の関係教員による複数回に及ぶ学術シンポジウムによる対話（教育・研究のマッチング）を経て、JD設置申請書作成の合同作業へと進んでいる。また、UKMは2つのホールディングスを抱えており、教育・研究軸の反対軸にビジネスを配置して両軸運営する大学である。材料工学という研究分野のJD博士教育を通して、両国における地域貢献の方法も模索できると期待している。JD設置申請については、工学研究科博士課程改組の承認後、直ちに平成31年4月の開設に向けて申請する。

JDプログラムとJD専攻設置状況

JDプログラムとは（大学設置基準の一部改正平成26（2014）年11月14日、ガイドライン：同年11月）、海外の大学と共同で開設した単一の共同学位プログラムのことを指す。このプログラムに入学した学生で、修了要件を満たした者には、両大学連名の単一学位が授与される。（ガイドラインから抜粋・加筆）尚、DDプログラムについては、複数の連携する大学間において、各大学が開設した同じ学位レベルの教育

図1 JD専攻入学生の履修プログラム(修士課程):学生の二国間移動について

どのように学ぶのか: 修士学生の例

Table showing the curriculum for JD students from India and Gifu University. It details the sequence of study periods (1-5) and thesis research across two years, with arrows indicating the movement between countries (India and Gifu).

岐阜大学入学生の場合...

- (1) 4月から7月まで岐阜で講義履修と研究を行う(期間1)。
(2) その後、インドに飛び、8月からインドで講義履修と研究を行う(期間2)。
(3) 岐阜に戻ったあと、研究を行い、インド入学学生とビデオ会議で研究討論する(期間3)。
(4) 岐阜大学とインド工科大学の先生からの共同研究指導の下で研究を進める(期間4と5)。
(5) 学位審査を受けて学位を取得する!

特徴

同年度に入学した日印の学生が共に学びあう期間が8か月ある(□の期間)。

プログラムを、学生が修了し、各大学の卒業要件を満たした際に、各大学が当該学生に対しそれぞれ学位を授与するもの、としてガイドラインにはJDと併記して定義されている。

国内でのJD専攻の設置状況と本学における状況(平成30年3月現在)としては、8大学:名古屋大学(博士課程4専攻)、東京医科歯科大学(博士課程2専攻)、京都工芸繊維大学(修士課程1専攻)、筑波大学(修士課程2専攻)、京都大学(修士課程1専攻)、名古屋工業大学(博士課程1専攻)、立命館大学(学士課程1学科)、長崎大学(博士課程1専攻)に対してJD専攻設置が認可され、開設されている。さらに、平成30年4月現在、本学を含めた3大学:岐阜大学、名古屋大学、山口大学が設置認可を申請(意見伺い:修士2専攻、博士2専攻)し、現在審査に入っている。

本学の国際連携専攻設置に向けた申請および申請準備状況としては、平成31年4月開設を目指して以下の4専攻の設置を準備している(下記のリスト)。これらの設置申請書の作成には1年半を要した。関係部局から推薦された各専攻の専任教員候補の先生方と専攻長候補者の方々、学長補佐等の教員そしてグローバル推進本部事務職員の方々との共同作業の連続だった。特に毎週の定例ワーキンググループ会議では4専攻共通の問題を共有し解決していった。相手大学とは担当教員間による対面、eメール、電話及び関係者間によるテレビ会議を行い、作成終盤は総合企画部企画課と関連部局事務の全面的なご支援を得た。まさに大学を挙げての全力作業といえる。平成30年度中にはすべての審査が完了する予定である。この専任教員候補者を中心としたチームによる申請書作成経験は、開設以降もJD運営の面でも生かされるものと確信している。申請書作成に尽力貢献された方には、この場をお借りして心より感謝申し上げます。尚、JD学生の二国間移動についての例を図1で示す。(詳細はURL: https://www.gifu-u.ac.jp/international/office/jdprogramplan.html を参照)

インド工科大学グワハティ校・岐阜大学国際連携食品科学技術専攻:

修士課程として自然科学技術研究科に設置予定(定員10名)
インド工科大学グワハティ校・岐阜大学国際連携食品科学技術専攻:
博士課程として連合農学研究科に設置予定(定員2名)
インド工科大学グワハティ校・岐阜大学国際連携統合機械工学専攻
博士課程として工学研究科に設置予定(定員2名)
マレーシア国民大学・岐阜大学国際連携材料工学専攻
博士課程として工学研究科に設置予定(定員2名)

本学のJD専攻の特色: 中規模大学におけるJD専攻設置の意義

中国南部、ASEAN諸国から南アジア地域は世界の食料(穀物)生産ベルト地帯といわれるように、食料生産の面からみても大変に魅力的な地域といえる。その中で、食産業の振興のためにIITGと修士課程1専攻および博士課程2専攻のJDを設置する。これは、修士課程で産業界リーダーを博士課程では関連分野の大学教員を養成することを目的としており、食および関連産業を中軸とした地域イノベーション推進パッケージ計画である。もちろん両国の産業界との連携は必須である。これらJDを進める上で成果が上がれば、上記ベルト地帯に位置する他の国々にも適用することも可能となる。

食および関連産業は農学(生物学)と工学との学術分野での連携が重要であり、海外の協定大学とそれらの産業振興を進めるといった共通なミッションをもった教育システムを共同構築することは、日本からの完成したシステムを現地改良するよりも効果的かもしれない。JD専攻は、グランドレベルからの対話で協働構築するので、プログラムとしての柔軟性と適応性が高く、持続的な地域社会の繁栄を可能にすることが期待されるからである。もちろん、日本(東海地域)への還元も持続的となる。教員数や研究分野にも限りがある中規模大学だからこそ可能な、国際協働教育による地域貢献といえる。

またJDプログラムを進める中でも「成果の配分」という考え方を活かしても良いかと思う。この考え方は、特に海外の方々と対話する際には有効な場合が多かった。直接的な配分を受けるのは、学生、指導に直接関わった両大学の複数の教員等である。企業の教育連携者等もそれに加わるかもしれない。大学院教育で得られる成果物は種々あるかと思う。実り多きことを期待したい。

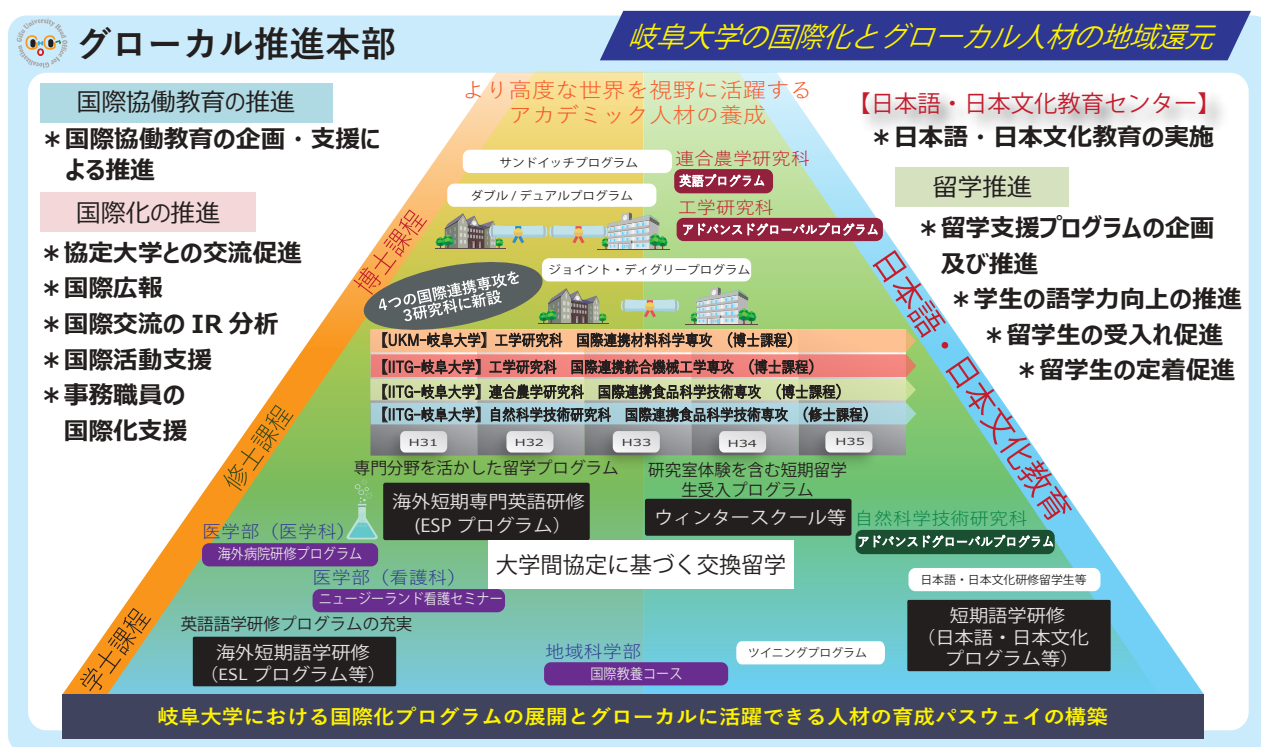
これらのコンセプトは材料工学の分野でも同様である。特に、UKM側は工学系と同規模の理学系の教育・研究集団が相手となる。種々の可能性をもつ材料工学(科学)分野でのJD構築は大変に魅力的といえる。応用(社会貢献)を視野に入れた基礎研究が得意な本学教員の活躍の場となる。

本学の国際化の現状とJD専攻(修士・博士)入学に向けてのステップアップスキーム

本学の主な国際化活動について図2に示した。台形の左側に学士、修士、博士課程への学年進行が示されている。左側が海外派遣、右側が受入れプログラムを置いた。学年進行に沿って、ESL/ESPの事前研修、短期海外研修としてのESL(英語および文化:全学共通教育単位として認定)、ESP(専門英語および実習:関連学部や研究科での単位認定を検討中)等を経験することによって国際性を涵養することができる。これらのプログラムの上部に、海外研修や海外インターンシップ・プログラムが学部単位で用意されており、全学的レベルで国際化が進んでいる。

入学した学生は学年進行に伴い、全学共通教育や学部での教育を受けるだけでなく、これらの国際化プログラムを経験することによって、国際力も涵養され、大学院教育でのアドバンスド・グローバルプログラム(AGP)やJDプログラムへの進学意欲が高まることが期待される。尚、JDプログラムに参画・貢献する教員は関連研究科の教員総数の約30%を占める。

図2 本学の主な国際化活動について



※英語コース、アドバンストグローバルプログラム：岐阜大学における英語による学位プログラム
 ※ESL=English as a Second Language (第二言語としての英語教育)、ESP=English for Specific Purposes (専門科目に対する英語スキル教育)

終わりに

本稿では、主にJDプログラム(専攻)について、背景、中期目標・中期計画における国際化戦略における取組としての位置づけ、現状、そして展望をお示してきた。また、本学におけるJD専攻の増設を探ることも考えられる。4専攻を進める中で、じっくりと展開していけば可能かもしれない。一方、国際化戦略の後半部分、「成果の地域還元」については、本稿ではほとんど触れなかったが、その担い手は、グローバル人材であり、そして本学のもう一つの切り札である外国人留学生が鍵となる。彼らの役割は岐阜(東海)地域と多くの海外地域(出身国)とを繋ぐことでもあり、岐阜(東海)地域として大変重要な意味をもつ。詳細については、別の機会で紹介したい。本稿を通して、JDをシンボル化した国際協働教育によるグローバル人材育成の考え方について、ご理解いただけたことと思う。本学の国際展開について、今後も目が離せない。皆様からの率直なご意見を心より歓迎する次第である。

岐阜大学の短期英語研修プログラム

グローバル推進本部 副本部長 嶋 睦宏(工学部教授)

日本は海で囲まれた島国ですが、日常生活の中で私たちが見聞きするニュースやインターネットなどの媒体を通じて、海外からも毎日さまざまな情報が入ってきます。また諸外国との人の往来も年々盛んになっており、統計によると2017年の1年間でおよそ1,790万人の日本人が海外に渡り、およそ2,850万人の外国人が日本を訪れたそうです。日本語を母語とする国は世界中で日本だけなので、私たちが異国を訪れて現地に出会う人々とことばを交わす際、日本語は通じないことがふつうで、その場合、世界共通語として広く使われている英語か現地語で意思の疎通をはかることになります。一方、日本を訪れる外国人旅行者数が年々増加していることから、日本国内にいても学校や職場、旅行先などで英語を使う機会が徐々に増えつつあり、第2言語として英語を習得することはますます大事になりつつあります。とはいえ国内で英語を使う機会はまだまだ多くはありませんので、それを習得するには何らかの学びの機会が必要になります。

英語を習得する最も効果的な方法のひとつは、一定期間、英語を公用語あるいは国語とする国を訪れてそこに滞在し、英語を学ぶことです。カナダやオーストラリア、英国、米国のように英語を公用語あるいは国語としている国々では、多くの大学や語学学校などで、英語を第2言語とする人々を対象とした語学研修プログラムESL(English as a Second Language)が提供されており、毎年たくさんの人々がこれに参加しています。また特定の目的のために英語を学びたい人には、ESP(English for Specific Purposes)とよばれるプログラムもあります。

岐阜大学では2002年度より毎夏、オーストラリアのグリフィス大学で実施されるESLに本学在学生在が参加する機会を提供してきました。また2017年度に本学は、新たなESLプログラムをカナダのアルバータ大学と共同で開発し、学部1、2年生を中心とする本学在学生在を対象にアルバータ大学で英語研修を受けられる機会を提供しています。このプログラムでは、アルバータ大学で実施する英語研修の学習効果をさらに高める目的で、出発前約2か月の期間、岐阜大学特任准教授のレイモンド・コウ先生が講師となって本学で事前研修を毎週実施し、その受講生はアルバータ大学での研修を受ける前に、ホームステイ先や渡航に必要な予備知識などを学びます。2017年度は、こうした一連の研修を実施したことに加え、これに参加した29名の学生さんの積極的な学習への取り組みもあり、英語だけでなくカナダの文化などについても学べる、とても充実したESLプログラムが実施できました。

この実績をふまえ、2018年度には既存のESLに加えて、新たに自然科学・工学分野で役立つ英語に焦点を絞ったEST(English for Science and Technology)をアルバータ大学と共同で開発し、実施します。



このプログラムは理系の修士課程や学部高学年を中心とする本学在学生在が、専門分野の研究活動などで学術上、必要となる英語力を向上させることを目的としています。こうした英語研修プログラムの提供は、本学が進めるさまざまな国際化の取り組みと密接に関係しています。例えば、自然科学技術研究科では英語による修士課程プログラムAdvanced Global Programを実施しており、また2019年度には連合農学研究科、工学研究科、自然科学技術研究科でインド工科大学グワハティ

校やマレーシア国民大学との国際連携専攻(ジョイント・ディグリープログラム:JD専攻)を開設する予定です。このように本学在生にとって、特定分野の専門性のみならず、高い英語運用能力を身につけることがますます重要となってきています。



言語は、それが使われている国や地域の文化や歴史と深く関係していることはいまでもありません。英語のように世界共通語として使われる言語を自在に操れると、それを使って様々な言語を母語とする国や地域の人々とでも話すことができ、いろいろな文化や歴史にふれる機会も増えます。米国人小説家のリタ・メイ・ブラウンは「言語は文化のロードマップだ。人々がどこから来て、どこに向かっているのかを教えてくれる(“Language is the road map of a culture. It tells you where its people come from and where they are going.”)」とっています。英語を習得することで、いろいろな国や地域の人々とことばを交わして親しくなり、様々な文化や歴史についてより多く学ぶことができるでしょう。もちろんそれだけではありません。専門分野で必要となるさまざまな知識や情報をもっと幅広く得られるようになるでしょう。そして何より、日本人にとって日常の中に埋もれてしまい、特に意識することなく見すごしている日本語や日本文化などについて、あらためて考え気づく機会も与えてくれます。



1. 名簿

平成29年度グローバル推進本部員名簿

所属・職名等	氏名	本部会議	奨学金等選考委員会	部門			ワーキンググループ							
				国際協働	国際交流、IR	留学基盤	JD	ESL	ウィンタースクール	年報2016	HP	サマスク(受入)	サマスク(派遣)	
グローバル推進本部本部長(理事・副学長)	鈴木 文昭	◎	○				◎							
グローバル推進本部副本部長(留学生センター長)	森田 晃一	○	◎			◎				○		○	○	
グローバル推進本部副本部長(学長補佐)(JD統括)	小山 博之	○	○	◎			○							
グローバル推進本部副本部長(JD統括)	嶋 睦宏	○	○			○	○	◎						
グローバル推進本部副本部長(国際企画調整役)	野々村晴子	○	○		◎		○				○			
教育学部・教授	仲澤 和馬	○			○									
地域科学部・教授	中川 一雄 (~H29.9.30)	○				○								
地域科学部・教授	合掌 顕 (H29.10.1~)	○				○								
医学系研究科・医学部・教授	千田 隆夫	○			○					○				
医学部・看護学科・准教授	田島 弥生	○				○								
応用生物科学部・教授(応用生物科学部・副学部長)	光永 徹	○			○									
自然科学技術研究科・教授	海老原章郎	○		○			○		○					
連合農学研究科・教授	中野 浩平	○		○							○			
連合獣医学研究科・教授	浅井 鉄夫	○			○									
連合創薬医療情報研究科・教授	田中香お里	○			○									
留学生センター・教授	橋本 慎吾	○				○								
グローバル推進本部・特任准教授	コウレイモンド	○		○		○	○	○	○	○				○
グローバル推進本部・特任助教	松井 真弓	○		○	○	○	○		◎	◎	◎	○		
教育学部・教授	巽 徹	○												
教育学部・教授	山田 敏弘	○												
流域圏科学研究センター・准教授	魏 永芬	○												
人材開発部職員育成課長	早野 美里	○												
学務部教務課長	垣見 篤	○												
国際総務室長	下通 亘	○		○	○		○	○	○	○				
留学支援室長	小林 恵子	○	○		○	○		○	○			○	○	
工学部・教授	久米 徹二			○			○		○		○			
工学部・准教授	リム リーワ						○		○					
工学部・助教	川瀬 真弓					○								○
工学部・助教	大橋 慶介 (H30.3.1~)							○						
応用生物科学部・准教授	柳瀬 笑子 (H30.3.1~)						○							
応用生物科学部・教授	岩本 悟志						○		○					
応用生物科学部・准教授	中村 浩平							○						
留学生センター・教授	土谷 桃子			○		○			○			◎		

所属・職名等	氏名	本部 会議	奨学金 等選考 委員会	部 門			ワーキンググループ								
				国際 協働	国際 交流、 IR	留学 基盤	JD	ESL	ウィン タース クール	年報 2016	HP	サマスク (受入)	サマスク (派遣)		
留学生センター・准教授	吉成 祐子					○									◎
国際総務室国際総務係	木全加寿子														
	亀井 好恵 (~H29.9.30)					○	○	○	○	○					
	小窪 拓司 (H29.10.1~)														
留学支援室留学支援係	渡辺 弘美 (~H29.9.30)		○												
	奥村 典子 (H29.10.1~)			○	○		○	○				○	○		
	前原 若菜														
	幸脇 裕輔														

※本部長、委員長、部門長、リーダーは◎

2. 協定一覧

●大学間協定 (18ヵ国47大学1機関)

平成30年3月31日現在

	大学・機関名	国・地域名	協定締結日	授業料相互 不徴収	交換可能 学生数*
1	カンピーナス大学	ブラジル	1984.8.27	有	2
2	サンディエゴ州立大学	アメリカ	1985.5.7	有	4
3	浙江大学	中国	1986.4.21	有	3
4	広西大学	中国	1986.4.24	有	4
5	電子科技大学	中国	1986.7.21	有	2
6	江南大学	中国	1986.9.3	有	3
7	ルンド大学	スウェーデン	1987.9.12	有	2
8	ノーザンケンタッキー大学	アメリカ	1990.9.26	有	2
9	ソウル科学技術大学校	韓国	1992.3.19	有	3
10	グリフィス大学	オーストラリア	1995.3.3	有	4
11	ユタ大学	アメリカ	1997.5.28	無	-
12	ユタ州立大学	アメリカ	1997.5.29	有	2
13	ハノイ工科大学	ベトナム	1998.6.26	有	2
14	ウェストバージニア大学	アメリカ	1998.12.16	有	3
15	カセサート大学	タイ	1999.8.5	有	3
16	内蒙古農業大学	中国	2000.8.8	有	2
17	シドニー工科大学	オーストラリア	2000.8.14	有	3
18	バンノン大学	ハンガリー	2001.3.2	有	3
19	アンダラス大学	インドネシア	2001.4.23	有	4
20	バングラデシュ農業大学	バングラデシュ	2001.8.23	有	2
21	エルフルト大学	ドイツ	2002.12.4	有	3
22	吉林大学	中国	2003.5.20	有	4
23	チェンマイ大学	タイ	2003.8.4	有	3
24	ダッカ大学	バングラデシュ	2004.6.17	有	3
25	モンクット王トンプリ工科大学	タイ	2005.1.10	有	3
26	華橋大学	中国	2005.3.29	有	3
27	同済大学	中国	2006.3.16	有	2
28	ランボン大学	インドネシア	2006.4.25	有	2
29	内蒙古大学	中国	2007.2.6	有	1
30	木浦大学校	韓国	2008.2.26	有	3

	大学・機関名	国・地域名	協定締結日	授業料相互 不徴収	交換可能 学生数*
31	パイロイト大学	ドイツ	2008.8.22	有	4
32	西南交通大学	中国	2008.9.5	有	4
33	ベンハー大学	エジプト	2009.3.18	有	2
34	高麗大学校	韓国	2010.1.15	有	2
35	カウナス工科大学	リトアニア	2010.3.8	有	4
36	ボゴール農科大学	インドネシア	2010.12.2	有	3
37	内蒙古師範大学	中国	2011.6.8	無	-
38	ヴィータウタス・マグヌス大学	リトアニア	2012.1.19	有	2
39	ガジャマダ大学	インドネシア	2012.9.13	有	3
40	シドニー大学	オーストラリア	2012.12.5	有	1
41	スプラス・マレット大学	インドネシア	2013.7.8	有	3
42	パリ第11大学	フランス	2014.12.16	有	3
43	タイ教育省基礎教育委員会	タイ	2015.3.10	無	-
44	インド工科大学グワハティ校	インド	2014.9.21	有	3
45	マレーシア国民大学	マレーシア	2016.9.21	有	2
46	マギル大学	カナダ	2017.3.8	無	-
47	アルバータ大学	カナダ	2017.3.21	無	-
48	レイクヘッド大学	カナダ	2017.10.11	有	2

※毎年、1学年度の間に派遣または受入可能な最大限の人数

●部局間協定 (24ヵ国44大学6機関)

協定部局	協定大学等名	国名	初回締結日	授業料相互 不徴収	交流対象者
教育学部	シーナカリンウィロート大学教育学部	タイ	2015.3.17	無	教員
	カールスルーエ教育大学	ドイツ	2015.10.21	有	学生・教員
	山西師範大学	中国	2015.12.7	有	学生・教員
地域科学部	アーカンソー大学フォートスミス校	アメリカ	2015.6.8	有	学生・教員
	リール第3大学	フランス	2015.10.1	有	学生・教員
医学部	浙江大學医学院	中国	2000.12.4	有	学生・教員
	コンケン大学医学部	タイ	2000.12.18	有	学生・教員
	ハワイ大学医学部	アメリカ	2016.8.24	有	学生・教員
医学系研究科・医学部	忠北大学校医学部	韓国	2009.4.17	有	学生・教員
医学部・保健管理センター	南フロリダ大学医学学群	アメリカ	2016.10.20	無*1	教員*2
工学部	国立全南大学校工学部	韓国	2002.2.6	有	学生・教員
	柳韓大学校工学系列	韓国	2010.9.29	有	学生・教員
	ベンガル大学数学自然科学部	インドネシア	2011.7.20	有	学生・教員
	サー・バラシラムブ・カレッジ	インド	2012.9.17	有	学生・教員
	忠南大学校工学部	韓国	2013.1.18	有	学生・教員
	マドリッド・カルロス三世大学工学部	スペイン	2013.7.9	有	学生・教員
	ドルトムント工科大学機械工学部	ドイツ	2014.6.23	有	学生・教員
	マンダレー大学自然科学部	ミャンマー	2014.8.25	有	学生・教員
	ブラヴィジャヤ大学数学自然科学部	インドネシア	2014.12.16	有	学生・教員
	ヤダナボン大学自然科学部	ミャンマー	2014.12.16	有	学生・教員
	メティラ大学自然科学部	ミャンマー	2014.12.16	有	学生・教員
	デダンキマティ工科大学工学部	ケニア	2014.12.16	有	学生・教員
	トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学理工学部	マレーシア	2014.12.16	有	学生・教員
	慶北大学校工学部	韓国	2015.2.27	有	学生・教員
	アメリカ合衆国国立衛生研究所国立心肺血液研究所	アメリカ	2015.3.18	有	学生・教員
	バーデン・ヴュルテンベルク州立太陽エネルギー・水素研究センター	ドイツ	2015.3.20	無	学生・教員
ブンハッタ大学	インドネシア	2015.7.30	有	学生・教員	

協定部局	協定大学等名	国名	初回締結日	授業料相互不徴収	交流対象者
工学部	バダワン州立大学数学自然科学部	インドネシア	2015.9.18	有	学生・教員
	チュラロンコン大学理学部	タイ	2015.12.2	有	学生・教員
	ニューサウスウェールズ大学	オーストラリア	2016.4.25	無 ^{※3}	学生・教員
	東ティモール国立大学工学部	東ティモール	2016.8.29	有	学生・教員
	南京師範大学 エネルギー機械工学院	中国	2017.7.17	有	学生・教員
	ダゴン大学自然科学部	ミャンマー	2017.7.21	有	学生・教員
	インドネシアイスラム大学土木工学・計画学部、数学・自然科学部	インドネシア	2018.2.23	無	学生・教員
工学部・流域圏科学研究センター	クラクフ工科大学環境工学部	ポーランド	2015.11.30	有	学生・教員
流域圏科学研究センター	UiT ノルウェー北極大学生物・水産・経済学部	ノルウェー	2017.9.27	無	学生・教員
インフラマネジメント技術研究センター	中国科学院水利部水土保持研究所	中国	2008.8.12	無	教員
	中国水利水電科学研究院岩土工程研究所	中国	2009.7.24	無	教員
応用生物科学部	チュラロンコン大学理学部	タイ	1994.3.15	無	学生・教員
	コンケン大学農学部	タイ	2000.3.27	無	学生・教員
	コンケン大学学部間共同開発研究所	タイ	2000.3.27	無	学生・教員
	国立獣医科学検疫院獣医科学研究所	韓国	2008.11.4	無	教員
	モンゴル国立大学地理地質学部	モンゴル	2012.10.29	無	教員
	ハメ応用科学大学バイオエコノミーユニット	フィンランド	2015.1.22	有	学生・教員
	ガーナ大学基礎応用科学部	ガーナ	2015.8.20	無	教員
	ラジシャヒ大学農学部	バングラデシュ	2016.12.27	無	教員
	南太平洋大学自然科学・工学・環境学群	フィジー	2017.12.1	無	教員
	連合農学研究科	アッサム大学生命科学部	インド	2012.7.19	無
チュラロンコン大学理学部		タイ	2012.12.6	有	学生・教員
チュイロイ大学		ベトナム	2015.6.25	有	学生・教員
バンドン工科大学生命科学工学部		インドネシア	2015.8.11	有	学生・教員
ラオス国立大学林学部		ラオス	2018.3.21	有	学生・教員
連合獣医学研究科	ガーナ大学基礎応用科学部	ガーナ	2015.8.20	無	教員
連合創薬医療情報研究科	カフル・エル・シェイク大学獣医学部	エジプト	2009.11.15	有	学生・教員
複合材料研究センター	EMC 2 クラスター・IRT ジュール・ヴェルヌ	フランス	2014.3.13	無	学生・教員
合計	55				

※1, 2 南フロリダ大学との「医療従事者交流プログラム」においては、授業料等相互不徴収：有、交流対象者：学生・教員

※3 ニューサウスウェールズ大学の同意後免除可

●国際化に関わる企業との包括連携協定

企業名	協定締結日	協定期間	目的
イオンリテール株式会社東海・長野カンパニー	2015.10.20	3年	人材交流及び学生の育成等

3. 本学の国際関連活動

●岐阜大学を表敬訪問された方々

日付	国・地域	訪問者	目的
4.4	カナダ	レイクヘッド大学 ジェームズ・アルドリッジ副学長、キム・フェダーソンオリア校校長	表敬あいさつ、大学間学術交流協定についての協議
6.21	スペイン	サラマンカ大学 ホセ・アベル・フロレス日西センター所長ら3名	表敬あいさつ、シンポジウムや学生・教員の交流促進についての懇談
10.27	インドネシア	ブンハッタ大学 アズワ・アナンダ学長ら4名	表敬あいさつ、アカデミック・コアや図書館等の見学
12.19	中国	広西大学 ルオ・ティンロン副学長ら5名	表敬あいさつ、応用生物科学部の見学、事務職員との懇談

日付	国・地域	訪問者	目的
2018.1.9	アメリカ	南フロリダ大学 マタワル・マクート講師	表敬あいさつ、学生・教員の交流促進についての懇談
2018.2.23	インドネシア	インドネシアイスラム大学 ウイドウドウ・プロントウイヨノ学部長ら6名	表敬あいさつ、工学部との部局間学術交流協定締結式
2018.3.7	フィリピン	マリアノマルコス州立大学 シャーリー・アグルピス学長ら6名	表敬あいさつ、学生・教員の交流促進についての懇談、連合農学研究科主催シンポジウムへの参加

●平成29年度国際関連事業一覧

開始	終了	事項	留学生就職促進プログラム	参加人数*	主催
4月4日		レイクヘッド大学 国際副学長ら来訪		2	本部/地/工/応生
4月6日	4月8日	国際化プログラム説明会(修士1・2年、学部1-4年、学部1年生保護者対象)		860	応生/本部
4月11日		日本語研修コース・日本社会文化プログラム開講式		9	留セ
4月12日		アルバータ大学 ESL 説明会		77	本部
4月12日		グリフィス大学サマースクール(派遣)説明会		21	本部
4月14日		国際交流会館入居者歓迎会		57	本部
4月17日		アルバータ大学 ESL 説明会		75	本部
4月19日		海外留学フェア		77	本部
4月19日		外国人留学生生活指導部門オリエンテーション		26	本部
4月24日		カナダ大使館 広報部補佐官来訪		1	本部
4月26日		グリフィス大学サマースクール(派遣)説明会		13	本部
5月8日		海外留学支援制度(協定派遣)平成29年度説明会		20	応生・連農
5月9日	6月29日	アルバータ大学 ESL 事前研修		29	本部
5月13日	5月15日	日中大学フェア&フォーラム in China 2017		-	他機関
5月15日		第1回 English Circle of Friends		25	本部
5月15日	7月14日	TOEIC スコアアップ講座 前期講座		39	工・応生
5月24日		郡上踊りワークショップ		30	留セ
5月24日		連合農学研究科セミナー		42	連農
5月29日		特別講演会「途上国の歩き方-国際ボランティアのすすめ-」		38	応生
5月29日		海外留学におけるリスク管理と安全対策講習会		9	地域
6月1日		国際セミナー「Phytophthora Diseases」(共同利用・共同研究拠点化事業)		34	流域
6月5日		第2回 English Circle of Friends		11	本部
6月9日		卒業生講演会「カナダ留学生生活」(全学対象)		35	本部
6月15日		卒業生講演会「アルバータ大学理学部での研究生活」(主に大学院生対象)		17	本部
6月19日		第3回 English Circle of Friends		30	本部
6月21日		サラマンカ大学 日西センター所長ら一行来訪		3	本部
6月23日		2017年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会		-	他機関
6月28日		国際教養コース学生への留学説明会		18	地域
6月28日	7月26日	サマースクール(受入)		18	本部
7月3日		第4回 English Circle of Friends		7	本部
7月4日		岐阜地域留学生交流推進協議会総会		28機関	他機関
7月5日		学生の海外渡航時における危機管理オリエンテーション		104	本部
7月5日		七夕パーティ		36	留セ
7月5日		若手・中堅研究者海外研修プログラム報告会		30	応生
7月10日		学部間協定大学への短期留学派遣学生へのオリエンテーション		1	教育
7月12日		マスカウ工科大学教員来訪		2	看護
7月15日	7月29日	ソウル科学技術大学校サマースクール(派遣)		2	本部
7月17日	7月18日	The 4th International Workshop 2017 in Andalus University		121	連農
7月19日		能楽(能・狂言)ワークショップ		60	留セ
7月19日		ニュージーランド短期研修説明会		27	看護
7月19日		28年度看護学科海外短期研修参加者報告会		27	看護
7月19日	7月20日	Malaysia Polimar International Conference 2017 @ UKM		139	工

開始	終了	事項	留学生就職促進プログラム	参加人数*	主催
7月20日	7月21日	マレーシア国民大学訪問 (ジョイント・ディグリー打合せ)		15	本部
7月27日		学生の海外渡航時における危機管理オリエンテーション		16	応生
8月6日		日本語・日本文化研修留学生の日本研究発表会		48	留セ
8月6日	8月27日	アルバータ大学 ESL プログラム参加		29	本部
8月7日	8月9日	南フロリダ大学視察 (短期留学打ち合わせ)		3	看護
8月8日	8月20日	同済大学サマースクール (派遣) 4 大学連携事業		1	本部
8月9日	8月13日	忠北大学校医学部 - 岐阜大学医学部 学生交流プログラム		35	医
8月10日		忠北大学校医学部 - 岐阜大学医学部 学生交流プログラム10周年記念式典		40	医
8月11日	9月15日	グリフィス大学サマースクール (派遣)		3	本部
8月21日	9月1日	ニューサウスウェールズ大学 SD 研修プログラム		1	本部
8月22日		日本語・日本文化研修コース、日本社会文化プログラム修了式		5	留セ
8月25日	9月15日	ノーザンケンタッキー大学短期留学		10	教育
8月26日		シドニー工科大学訪問		1	地域
8月28日	8月30日	International Symposium 2017		59	連農
8月28日	9月8日	TOEFL スコアアップ講座		7	地域
8月29日		UGSAS-GU & BWEL Joint Poster Session on Agricultural and Basin Water Environmental Sciences		50	連農・流域
8月29日	8月30日	タイ教育省主催 特別支援教育に関する国際シンポジウム		500	本部/教
9月4日	9月15日	流域水環境リーダー育成プログラム学外グループ研修 国内グループ研修 (留学生育成対象者を対象とする)		6	流域
9月6日	9月7日	外国人留学生見学旅行		40	本部
9月11日	9月15日	TOEIC スコアアップ講座 夏期集中講座		13	工・応生
9月17日	9月24日	流域水環境リーダー育成プログラム学外グループ研修 国外 (中国) グループ研修 (日本人育成対象者を対象とする)		10	流域
9月25日		英語による特別教育プログラム学位授与式		10	応生研
9月26日	10月20日	事務系職員グローバルマインド醸成研修		23	本部
9月27日	9月28日	工学部留学生研修旅行		39	工
10月2日		第5回 English Circle of Friends		0	本部
10月2日		Advanced Global Program (AGP) 入学式		10	自然研
10月5日	12月15日	TOEIC スコアアップ講座 後期講座		31	工・応生
10月11日		教育学部留学生ガイダンス		5	教育
10月16日		第6回 English Circle of Friends		9	本部
10月16日	10月20日	海外研修 (中国)		1	本部
10月18日		大野町の柿生産者との交流会・富有柿収穫体験		25	応
10月24日	11月20日	事務系職員海外実務研修		2	本部
10月24日	10月28日	UKM- 岐阜大学 JD Joint Meeting @ UKM		7	工
10月27日		部局間協定校ブンハッタ大学学長一行が来訪		4	工
11月2日		留学生及び外国人研究者等との学長主催懇談会		130	本部
11月2日	11月22日	アルバータ大学 ESL プログラム写真展		-	本部
11月6日		第7回 English Circle of Friends		38	本部
11月6日		連合農学研究科サンドイッチプログラム入学式		5	連農
11月7日	11月9日	スプラス・マレット大学一行来訪 (ダブル・ディグリー打ち合わせ)		5	連農
11月7日	11月9日	海外実務研修 (フェア講師及び補助要員等)		5	本部
11月9日		IITG 教員が講演		25	工
11月13日	11月17日	海外研修 (タイ)		1	本部
11月15日		地元企業との交流会 (共催: 岐阜信用金庫) 第1部	○	23	本部
11月15日		地元企業との交流会 (共催: 岐阜信用金庫) 第2部	○	28	本部
11月16日		特別講演会「岐阜大学留学と科学研究の基盤構築」		50	本部
11月17日		留学生就職促進プログラム講演会	○	38	本部
11月17日	11月26日	仲澤和馬教授がミャンマー教員・学生を招へい (さくらサイエンスプラン)		18	工
11月20日		第8回 English Circle of Friends		9	本部
11月22日		アルバータ大学 ESL プログラム報告会		26	本部

開始	終了	事項	留学生就職促進プログラム	参加人数*	主催
11月22日		外国人留学生交流フォーラム (共催: 十六銀行)	○	13	本部
11月24日		講演会「マレーシアに向けた商品設計と企業展開」(共催: 留学生センター)	○	37	本部
11月24日		留学生との医療英語ワークショップ		94	看護
11月25日		岐阜県内外国留学生日本語弁論大会 第1部	○	76	他機関
11月25日		岐阜県内外国留学生日本語弁論大会 第2部 (企業等との交流会)	○	34	本部
11月27日		学生の海外渡航時における危機管理オリエンテーション		7	応生
11月27日	11月28日	The 5th International Workshop 2017 in Thuyloi University		54	連農
11月27日	11月28日	ボゴール農科大学教員 (竹内・リム研究室の修了生) 来訪		1	工
11月29日		パダン州立大学教員来訪 (短期受入学生の視察)		2	工
12月2日		ヴィータウタス・マグヌス大学教員来訪 (グローバル化推進室関係者と懇談)		2	工
12月4日		第9回 English Circle of Friends		7	本部
12月5日	12月22日	IITG・UKM ウィンタースクール		7	本部
12月5日		ブラビジャヤ大学教員来訪 (工学部長表敬、ランチミーティング)		2	工
12月5日		岐阜県経営者協会会員への留学生就職促進プログラム説明会	○	50	本部
12月6日		工学部短期留学報告会		50	工
12月6日		教育学部短期留学報告会		25	教育
12月13日		十二単の着装と体験～日本の民族衣裳～		40	留セ
12月13日	1月31日	外国人留学生向け実践型ワークショップ	○	38	本部
12月15日		交通安全・防犯指導講習会	○	52	本部
12月19日	12月20日	広西大学副学長来訪		20	応
12月22日		広西大学ダブル・ディグリープログラム (DDP) 入試		8	自然研
1月9日	1月11日	南フロリダ大学教員来訪 (短期研修視察)		17	看護
1月15日		第10回 English Circle of Friends		5	本部
1月17日		留学報告会		42	本部
1月24日		外国人留学生積極的活用企業代表者との交流会	○	38	本部
1月25日	1月26日	慶熙大学校との合同学生発表会		17	連創
1月29日	2月16日	コンケン大学医学生附属病院臨床実習		2	医
1月30日		外国人留学生対象 社長を囲む夕食懇談会	○	8	本部
2月1日	2月4日	インド日本二国間シンポジウム IJBS17		100	本部
2月5日		第11回 English Circle of Friends		5	本部
2月7日		「岐阜県主催 外国人留学生インターンシップ」説明会	○	23	他機関
2月20日	2月21日	外国人留学生スキー旅行		29	本部
2月22日		平成29年度留学生就職促進プログラム特別セミナー		15	応・連農
2月23日		インドネシアスラム大学学部長一行来訪		6	工
2月23日		第9回ジョイントシンポジウム (ソウル大学校)		111	連農
2月26日		海外短期研修出発前説明会、危機管理オリエンテーション		14	看護
3月1日		平成29年度海外留学支援制度 報告会 (第1回)		30	応・連農
3月3日	3月11日	看護学科海外短期研修 (マスカウ工科大学)		14	看護
3月4日	3月9日	アーカンソー大学フォートスミス校、ノーザンケンタッキー大学訪問		3	地域
3月7日		マリアノマルコス州立大学学長一行来訪		6	連農
3月7日	3月8日	International Symposium on Innovative Crop Protection for Sustainable Agriculture 2018		97	連農
3月8日	3月9日	マスカウ工科大学訪問 (学部間協定に関する打ち合わせ)		2	看護
3月9日		国際シンポジウム		45	流域
3月14日		連合農学研究科サンドイッチプログラム報告会		15	連農
3月19日		平成29年度海外留学支援制度 報告会 (第2回)		17	応・連農
合計		136件			

*原則として、来訪の場合は来訪者数

4. 本学学生の海外渡航一覧

種別	渡航学生			渡航先		期間	備考(助成金など)	計	
	学部	学科等	学年	国	大学・機関等				
交換留学	工学部	電気電子情報工学科	3	オーストラリア	グリフィス大学	2016.7.10-2017.6.23	[岐阜大学基金(2)①]	20名	
	工学部	機械工学科	3		シドニー工科大学	2016.7.19-2017.6.18			
	教育学部	英語教育講座	3						
	教育学部	特別支援学校教員養成課程	3	タイ	カセサート大学	2016.8.2-2017.5.20			
	教育学部	英語教育講座	3	アメリカ合衆国	ノーザンケンタッキー大学	2016.8.14-2017.5.6	[岐阜大学基金(2)①]		
	工学部	機械工学科	3	ドイツ	バイロイト大学	2016.9.23-2017.7.2			
	応用生物科学部	生産環境科学課程	4	オーストラリア	シドニー工科大学	2017.7.20-2018.6.30	[岐阜大学基金(2)①]		
	地域科学部	地域政策学科	3			2017.7.20-2018.7.10			
	地域科学部	国際教養コース	2			2017.7.20-2018.7.19			
	地域科学部	国際教養コース	2			2017.7.20-2018.7.19			
	地域科学部	国際教養コース	2			2017.7.20-2018.7.19			
	地域科学部	国際教養コース	2			2017.7.20-2018.7.19			
	応用生物科学部	生産環境科学課程	4			2017.7.20-2018.7.19			
	地域科学部	国際教養コース	2			2017.7.20-2018.7.19			
	自然科学技術研究科	知能理工学専攻	1			2017.7.21-2018.7.24	[岐阜大学基金(2)①]		
	地域科学部	国際教養コース	2			アメリカ合衆国	ノーザンケンタッキー大学		2017.8.10-2018.5.31
	教育学部	英語教育講座	4		2017.8.13-2018.5.15				
	工学部	化学・生命工学科	3	スウェーデン	ルンド大学	2017.8.14-2018.6.30	[岐阜大学基金(2)①]		
	教育学部	理科教育(化学)講座	3	オーストラリア	グリフィス大学	2018.2.26-10.28	[岐阜大学基金(2)①]		
	地域科学部	地域文化学科	3		2018.2.26-10.28				
地域科学部	地域政策学科	4	韓国	ソウル科学技術大校	2017.7.15-31				
地域科学部	地域政策学科	4			2017.7.15-31				
サマースクール(派遣)	工学部	機械工学科	3		2017.8.9-9.18		5名		
	工学部	電気電子・情報工学科	1	オーストラリア	グリフィス大学	2017.8.9-9.18			
岐阜大学サマースクールプログラム	応用生物科学部	応用生命化学課程	1		2017.8.9-9.18		29名		
	工学部	社会基盤工学科	2		2017.8.6-27				
	工学部	化学・生命工学科	2		2017.8.6-27	[岐阜大学基金(1)]			
	工学部	化学・生命工学科	2		2017.8.6-27				
	工学部	電気電子・情報工学科	2		2017.8.6-27				
	応用生物科学部	生産環境科学課程	2		2017.8.6-27				
	応用生物科学部	生産環境科学課程	2		2017.8.6-27				
	応用生物科学部	生産環境科学課程	2		2017.8.6-27	[岐阜大学基金(1)]			
	応用生物科学部	生産環境科学課程	2		2017.8.6-27				
	応用生物科学部	生産環境科学課程	2		2017.8.6-27	[岐阜大学基金(1)]			
	応用生物科学部	生産環境科学課程	2		2017.8.6-27				
	応用生物科学部	生産環境科学課程	2		2017.8.6-27	[岐阜大学基金(1)]			
	応用生物科学部	生産環境科学課程	2		2017.8.6-27				
	応用生物科学部	生産環境科学課程	2		2017.8.6-27	[岐阜大学基金(1)]			
	応用生物科学部	生産環境科学課程	2		2017.8.6-27				
	応用生物科学部	生産環境科学課程	2		2017.8.6-27	[岐阜大学基金(1)]			
	ESLプログラム	教育学部	英語教育講座	1	カナダ	アルバータ大学		2017.8.6-27	[岐阜大学基金(1)]
	教育学部	英語教育講座	1	2017.8.6-27				[岐阜大学基金(1)]	
	教育学部	英語教育講座	1	2017.8.6-27				[岐阜大学基金(1)]	
	教育学部	英語教育講座	1	2017.8.6-27				[岐阜大学基金(1)]	
教育学部	英語教育講座	1	2017.8.6-27	[岐阜大学基金(1)]					
教育学部	英語教育講座	1	2017.8.6-27	[岐阜大学基金(1)]					
教育学部	英語教育講座	1	2017.8.6-27	[岐阜大学基金(1)]					
教育学部	英語教育講座	1	2017.8.6-27	[岐阜大学基金(1)]					
教育学部	英語教育講座	1	2017.8.6-27	[岐阜大学基金(1)]					
教育学部	英語教育講座	1	2017.8.6-27	[岐阜大学基金(1)]					
工学部	看護学科	1		2017.8.6-27	[岐阜大学基金(1)]				
工学部	社会基盤工学科	1		2017.8.6-27					
工学部	化学・生命工学科	1		2017.8.6-27					
工学部	化学・生命工学科	1		2017.8.6-27					
地域科学部		1		2017.8.6-27	[岐阜大学基金(1)]				
応用生物科学部	生産環境科学課程	1		2017.8.6-27					
応用生物科学部	生産環境科学課程	1		2017.8.6-27					
応用生物科学部	生産環境科学課程	1		2017.8.6-27					
応用生物科学部	生産環境科学課程	1		2017.8.6-27					
応用生物科学部	生産環境科学課程	1		2017.8.6-27					
応用生物科学部	生産環境科学課程	1		2017.8.6-27					
応用生物科学部	生産環境科学課程	1		2017.8.6-27					
教育学部	教育学部学校教育(教職基礎コース)	4	アメリカ合衆国	ノーザンケンタッキー大学	2017.8.25-9.15	[岐阜大学基金(1)]	9名		
教育学部	理科教育(生物学)	4				[岐阜大学基金(1)]			
教育学部	社会科教育(史学)	1				[岐阜大学基金(1)]			
教育学部	英語教育	1				[岐阜大学基金(1)]			
教育学部	家政教育	1				[岐阜大学基金(1)]			
教育学部	家政教育	1				[岐阜大学基金(1)]			
教育学部	英語教育	1				[岐阜大学基金(1)]			
教育学部	社会科教育(史学)	1							
教育学部	英語教育	1							
教育学部	英語教育	1							
教育学部	理科教育(物理学)	4	中国	山西師範大学	2017.9.3-24		14名		
教育学部	英語教育	4	イギリス	ロンドン	2017.9.11-29				
教育学部	英語教育	4							
教育学部	英語教育	4							

種別	渡航学生			渡航先		期間	備考(助成金など)	計	
	学部	学科等	学年	国	大学・機関等				
教育学部	短期留学・研修	教育学部	音楽教育	1	ドイツ	カールスルーエ教育大学	2017.10.24-31		
		教育学部	音楽教育	1					
		教育学部	音楽教育	2					
		教育学部	音楽教育	2					
		教育学部	音楽教育	2					
		教育学部	音楽教育	2					
		教育学部	音楽教育	4					
		教育学部	音楽教育	4					
		教育学部	音楽教育	4					
		教育学部	音楽教育	4					
地域科学部	交換留学	地域科学部	国際教養コース	2	アメリカ合衆国	アーカンソー大学フォートスミス校	2017.8.13-2018.5.20	[岐阜大学基金(2)①]	
		地域科学部	国際教養コース	2			2017.8.13-2018.5.20		
医学部	海外臨床実習プログラム	医学部	医学科	5	イギリス	プリマス大学	2017.3.4-4.1	20名	
		医学部	医学科	5	オーストラリア	シドニー大学	2017.3.4-4.2		[岐阜大学基金(1)]
		医学部	医学科	5	アメリカ合衆国	ヴァージニア大学	2017.3.4-5.1		
		医学部	医学科	5	ドイツ	アルツァイ DRK 病院、アウグスブルク病院	2017.3.30-6.3		
		医学部	医学科	5	オーストラリア、カナダ	シドニー大学、マギル大学	2017.3.31-6.3		
		医学部	医学科	5	オーストラリア	シドニー大学	2017.3.31-5.1		
		医学部	医学科	6	オーストラリア	シドニー大学	2017.4.1-3.0		[岐阜大学基金(1)]
		医学部	医学科	6		2017.4.1-5.2			
		医学部	医学科	6	タイ	チェンマイ大学	2017.4.1-5.3		
		医学部	医学科	6		2017.4.1-5.3	[岐阜大学基金(1)]		
		医学部	医学科	6	オーストラリア、カナダ	シドニー大学、マギル大学	2017.4.1-6.4		[岐阜大学基金(1)]
		医学部	医学科	6	カナダ	マギル大学	2017.5.1-6.4		[岐阜大学基金(1)]
		医学部	医学科	6		2017.5.4-6.4	[岐阜大学基金(1)]		
		医学部	医学科	6	オーストラリア	シドニー大学	2017.5.6-6.4		[岐阜大学基金(1)]
		医学部	医学科	6		2017.6.3-7.10	[岐阜大学基金(1)]		
		医学部	医学科	6	イギリス	リーズ大学	2017.6.5-3.0		
		医学部	医学科	5		ウエストミッド小児病院	2018.2.3-3.9		[岐阜大学基金(1)]
		医学部	医学科	5	オーストラリア	シドニー大学	2018.2.3-3.6		
		医学部	医学科	5	オーストラリア	シドニー大学、コンコード・リパトリエーション総合病院	2018.1.5-3.3		[岐阜大学基金(1)]
		医学部	医学科	5	アメリカ合衆国	ヴァージニア大学	2018.3.19-5.4		
工学部	短期看護研修	医学部	看護学科	2	ニュージーランド	マスカウ工科大学	2018.3.3-3.11	[岐阜大学基金(1)]	
		医学部	看護学科	1				[岐阜大学基金(1)]	
		医学部	看護学科	2				[岐阜大学基金(1)]	
		医学部	看護学科	2				[岐阜大学基金(1)]	
		医学部	看護学科	2				[岐阜大学基金(1)]	
		医学部	看護学科	2				[岐阜大学基金(1)]	
		医学部	看護学科	1				[岐阜大学基金(1)]	
		医学部	看護学科	2				[岐阜大学基金(1)]	
		医学部	看護学科	2				[岐阜大学基金(1)]	
		医学部	看護学科	1				[岐阜大学基金(1)]	
		医学部	看護学科	1				[岐阜大学基金(1)]	
		医学部	看護学科	1				[岐阜大学基金(1)]	
		医学部	看護学科	1				[岐阜大学基金(1)]	
		医学部	看護学科	2				[岐阜大学基金(1)]	
工学部・自然科学技術研究科	工学系 協定校学生交換交流プログラム(派遣)	工学部	化学・生命工学科	4	オーストラリア	ニューサウスウェールズ大学	2017.8.4-9.1	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣), 工学部後援会]	
		工学部	化学・生命工学科	4			2017.8.4-9.21	[岐阜大学基金(2)②]	
		工学部	社会基盤工学科	4	韓国	忠南大校	2017.8.8-8.31	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣), 工学部後援会]	
		自然科学技術研究科	生命科学・化学専攻	M1	オーストラリア	ニューサウスウェールズ大学	2017.8.8-9.7	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣), 工学部後援会]	
		工学部	機械工学科	4	マレーシア	トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学	2017.8.10-9.8	[工学部後援会]	
		工学部	機械工学科	3	インドネシア	パダン州立大学	2017.8.16-9.7	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣), 工学部後援会]	
		工学部	化学・生命工学科	4		アングラス大学	2017.8.16-9.20	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣), 工学部後援会]	
		工学部	社会基盤工学科	2	ケニア	ディガンキマティ工科大学	2017.8.21-9.25	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣), 工学部後援会]	
		工学部	化学・生命工学科	4	マレーシア	マレーシア国民大学	2017.8.25-9.22	[工学部後援会]	
		自然科学技術研究科	物質・ものづくり工学専攻	M1	タイ	チュラロンコン大学	2017.8.26-9.15	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣), 工学部後援会]	
		自然科学技術研究科	物質・ものづくり工学専攻	M1	オーストラリア	グリフィス大学	2017.8.26-9.22	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣), 工学部後援会]	
		工学部	化学・生命工学科	4			2017.8.28-9.15	[工学部後援会]	
		自然科学技術研究科	物質・ものづくり工学専攻	M1	韓国	全南大校	2017.8.28-9.15	[工学部後援会]	
		工学部	機械工学科	3	インドネシア	ベンガル大学	2017.8.30-9.29	[工学部後援会]	

種別	渡航学生			渡航先		期間	備考(助成金など)	計
	学部	学科等	学年	国	大学・機関等			
工学系 協定校学生交換交流プログラム(派遣)	自然科学技術研究科	生命科学・化学専攻	M1	アメリカ合衆国	ユタ大学	2017.9.1-10.10	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣), 工学部後援会]	6名
	工学部	化学・生命工学科	4	ハンガリー	バンノン大学	2017.9.4-9.22	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣), 工学部後援会]	
	自然科学技術研究科	物質・ものづくり工学専攻	M1			2017.9.4-9.22	[工学部後援会]	
	自然科学技術研究科	知能理工学専攻	M1	スペイン	マドリッド・カルロス3世大学	2017.9.4-9.26	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣), 工学部後援会]	
	工学部	化学・生命工学科	3	インドネシア	ベンゲル大学	2017.9.4-9.29	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣), 工学部後援会]	
	工学部	化学・生命工学科	3		ブン・ハッタ大学	2017.9.7-9.26	[工学部後援会]	
	自然科学技術研究科	生命科学・化学専攻	M1	マレーシア	トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学	2017.9.8-9.22	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣), 工学部後援会]	
	自然科学技術研究科	生命科学・化学専攻	M1	ポーランド	クラクフ工科大学	2017.9.18-10.6	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣), 工学部後援会]	
	工学研究科(博士前期課程)	機械システム工学専攻	M2	ドイツ	ドルトムント工科大学	2017.10.30-2018.1.19	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣), 工学部後援会]	
	自然科学技術研究科	物質・ものづくり工学専攻	M1	インドネシア	ブラビジャヤ大学	2017.12.7-12.22	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣), 工学部後援会]	
	自然科学技術研究科	生命科学・化学専攻	M1	マレーシア	マレーシア国民大学	2017.8.9-9.20	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣), 工学部後援会]	
	自然科学技術研究科	生命科学・化学専攻	M1			2017.8.9-9.20	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣), 工学部後援会]	
	自然科学技術研究科	環境社会基盤工学専攻	M1	ミャンマー	マンダレー大学	2017.8.28-10.6	[工学部後援会]	
	自然科学技術研究科	エネルギー工学専攻	M1	ポーランド	クラクフ工科大学	2017.9.1-10.13	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣), 工学部後援会]	
工学研究科 グローバルリーダー養成のためのイノベーション・インターナショナルプログラム	自然科学技術研究科	生命科学・化学専攻	M1	オーストラリア	グリフィス大学	2017.9.18-11.6	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣), 工学部後援会]	5名
	工学研究科(博士課程)	生産開発システム工学専攻	D1					
	工学研究科		D1	台湾	The 7th Asian Particle Technology Symposium	2017.7.31-8.4	[学部長裁量経費]	
	工学研究科		M2	タイ	The 10th Asia-Pacific International Conference on Lightning	2017.5.16-19	[学部長裁量経費]	
	自然科学技術研究科		M1	韓国	AISM2017	2017.9.13-16	[学部長裁量経費]	
	自然科学技術研究科		M1	スペイン	SMM23	2017.9.8-15	[学部長裁量経費]	
	工学研究科		M2	アメリカ合衆国	2017 Conference on Computer Vision and Pattern Recognition The Fourth Workshop on Fine-Grained Visual Categorization	2017.7.20-28	[学部長裁量経費]	
	工学研究科		D1	フィリピン	9th International Conference on Asian and Pacific Coasts 2017 (APAC 2017)	2017.10.19-21	[学部長裁量経費]	
	自然科学技術研究科		M1			2017.10.19-21	[学部長裁量経費]	
	工学研究科		M2	ドイツ	SHCC 4	2017.9.18-20	[学部長裁量経費]	
	工学研究科		M2			2017.9.18-20	[学部長裁量経費]	
	工学研究科		D1	カナダ	ICHAC-12	2017.6.11-16	[学部長裁量経費]	
	工学研究科		M2	デンマーク	E U R O S T E L L COPENHAGEN 2017	2017.9.13-15	[学部長裁量経費]	
	国際学会発表奨学金プログラム	工学研究科		D1	ドイツ	International Conference STRAIN-HARDENING CEMENT-BASED COMPOSITES (SHCC 4)	2017.9.18-20	
工学研究科			D2	台湾	2017 IEEE Information Theory Workshop	2017.11.6-10	[学部長裁量経費]	
工学部			B4	タイ	International Workshop on Advanced Image Technology 2018 (IWAIT 2018)	2018.1.7-9	[学部長裁量経費]	
工学部			B4			2018.1.7-9	[学部長裁量経費]	
工学研究科			D1	フランス	IEEE ICIT 2018, The 19th International conference on industrial technology	2018.2.20-22	[学部長裁量経費]	
工学研究科			D1			2018.2.20-22	[学部長裁量経費]	
工学研究科			D1	オーストラリア	7th International Symposium on Transport Network Reliability	2018.1.15-20	[学部長裁量経費]	
工学研究科			M2			2017.12.12-15	[学部長裁量経費]	
工学研究科			M2	タイ	The 8th Thai Society of Mechanical Engineers, International Conference on Mechanical Engineering 2017 (TSME-ICoME 2017)	2017.12.12-15	[学部長裁量経費]	
自然科学技術研究科			M1	韓国	International Symposium on STEEL STRUCTURES	2017.11.1-4	[学部長裁量経費]	
工学研究科			M2			2017.11.1-4	[学部長裁量経費]	
工学研究科			D3	中国	9th Asia-Pacific Symposium on Ion Analysis (APIA2017)	2017.11.20-24	[学部長裁量経費]	

種別	渡航学生			渡航先		期間	備考(助成金など)	計		
	学部	学科等	学年	国	大学・機関等					
応用生物科学部 生物多様性と遺伝資源に係る南部アジア国際協働教育プログラム	応用生物科学部	応用生命科学過程	4	インドネシア	ボゴール農科大学	2017.8.1-26	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣)]	6名		
	自然科学技術研究科	生命科学・化学専攻	M1	タイ	チュラロンコン大学	2017.9.19-10.27	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣)]			
	応用生物科学部	応用生命科学課程	4		モンクット王トンブリ工科大学	2017.10.14-11.14	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣)]			
	応用生物科学部	生産環境科学専攻	M2	ベトナム	チュイロイ大学	2017.11.1-29	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣)]			
	自然科学技術研究科	生命科学・化学専攻	M1	タイ	チュラロンコン大学	2017.12.1-2018.1.31	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣)]			
	自然科学技術研究科	生命科学・化学専攻	M1	インド	インド工科大学グワハティ校	2018.1.25-3.13	[JASSO 海外留学支援制度(協定派遣)]			
	国際獣医学インターナショナル演習	共同獣医学科	5	イギリス	ケンブリッジ大学	2018.2.17-2.25				
	応用生物科学部	共同獣医学科	5							
	応用生物科学部 国際獣医学インターナショナル演習	連合獣医学研究科	獣医学専攻	D4	アメリカ合衆国	ワシントン DC	2017.7.12-18		[海外派遣プログラム(研究科長裁量経費)] ※岩手大学配置	10名
		連合獣医学研究科	獣医学専攻	D4	韓国	インチョン	2017.8.27-9.1		[海外派遣プログラム(研究科長裁量経費)] ※岩手大学配置、留学生	
		連合獣医学研究科	獣医学専攻	D3	マレーシア	クアラルンプール	2017.9.2-10		[海外派遣プログラム(研究科長裁量経費)] ※岩手大学配置	
		連合獣医学研究科	獣医学専攻	D3			2017.9.3-9		[海外派遣プログラム(研究科長裁量経費)] ※帯広畜産大学配置	
		連合獣医学研究科	獣医学専攻	D3	フィンランド	ヘルシンキ	2017.9.20-24		[海外派遣プログラム(研究科長裁量経費)]	
		連合獣医学研究科	獣医学専攻	D4	トルコ	イスタンブール	2017.9.27-10.5		[海外派遣プログラム(研究科長裁量経費)] ※東京農工大学配置、留学生	
連合獣医学研究科		獣医学専攻	D3	マレーシア	クチン	2017.10.13-17	[海外派遣プログラム(研究科長裁量経費)] ※東京農工大学配置、留学生			
連合獣医学研究科		獣医学専攻	D2	ベトナム	ベトナム国立農業大学	2017.11.16-19	[海外派遣プログラム(研究科長裁量経費)] ※東京農工大学配置、留学生			
連合獣医学研究科		獣医学専攻	D3	アメリカ合衆国	フィラデルフィア	2017.12.1-8	[海外派遣プログラム(研究科長裁量経費)] ※東京農工大学配置、留学生			
連合獣医学研究科		獣医学専攻	D3	マレーシア	クアラルンプール	2017.12.10-13	[海外派遣プログラム(研究科長裁量経費)] ※東京農工大学配置、留学生			
連合獣医学研究科		獣医学専攻	D1	アメリカ合衆国	コーネル大学	2017.9.11-11.6	[若手研究者育成プログラム(研究科長裁量経費)]			
トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム		工学研究科(博士前期課程)	生命工学専攻	M1	アメリカ合衆国	国立衛生研究所	2016.9.27-2017.10.9	[トビタテ!留学 JAPAN]	5名	
		連合獣医学研究科	獣医学専攻	D1		テュレーン大学	2016.9.28-2017.10.7	[トビタテ!留学 JAPAN]		
		応用生物科学部	応用生命科学専攻	M1	オランダ、ベルギー	ワゲニンゲン大学、ルーヴェンカトリック大学	2016.10.6-2017.12.7	[トビタテ!留学 JAPAN]		
	自然科学技術研究科	生命科学・化学専攻	M1	カナダ	アルバータ大学	2017.8.29-2018.8.28	[トビタテ!留学 JAPAN]			
	医学部	医学科	4	アメリカ合衆国	デュボン小児病院	2017.11.6-2018.9.6	[トビタテ!留学 JAPAN]			
	4大学連携事業研修プログラム	地域科学部	地域文化学科	3	中国	同濟大学	2017.8.8-22			
	全学共通教育科目	工学部	機械工学科	1			2017.9.7-21			12名
		工学部	機械工学科	1						
		工学部	機械工学科	1						
		工学部	化学・生命工学科	1						
		工学部	化学・生命工学科	1						
		工学部	機械工学科	1	フランス	パリ	2017.9.7-19			
		医学部	看護学科	1			2017.9.2-21			
		医学部	看護学科	1						
応用生物科学部		応用生命科学課程	1			2017.9.7-21				
応用生物科学部		応用生命科学課程	1							
応用生物科学部		応用生命科学課程	1			2017.9.7-24				
連合農学研究科		生物資源科学専攻	D2	バングラデシュ	ダッカ大学	2017.5.5-31	※留学生			
連合農学研究科		生物環境科学専攻	D1	ミャンマー	イェジン農業大学	2017.5.14-6.15	※留学生			
自然科学技術研究科		生命科学・化学専攻	M1	インドネシア	アングラス大学	2017.7.8-7.17				
教育学研究科	総合教科教育専攻	M1	ドイツ	カールスルーエ教育大学	2017.8.28-11.21	[岐阜大学基金(3)]				
自然科学技術研究科	生命科学・化学専攻	M1	タイ	モンクット王トンブリ工科大学	2017.8.1-10.5	[岐阜大学基金(3)]				
自然科学技術研究科	生命科学・化学専攻	M1	アメリカ合衆国	国立衛生研究所	2017.10.1-2018.9.30	[岐阜大学基金(3)]				
連合獣医学研究科	獣医学専攻	D2	オーストラリア	Australian Registry of Wildlife Health	2017.10.7-30					
自然科学技術研究科	物質・ものづくり工学専攻	M1	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	2017.10.29-2018.2.3	[岐阜大学基金(3)]				
連合農学研究科	生物環境科学専攻	D2	ベトナム	チュイロイ大学	2017.10.30-11.29	※留学生				
連合農学研究科	生物資源科学専攻	D1	バングラデシュ	ダッカ大学	2017.12.3-2018.1.10	※留学生				
教育学研究科	総合教科教育専攻	M1	カンボジア	王立プノンベン大学	2017.12.19-23					
応用生物科学部	応用生命科学専攻	M1	タイ	チュラロンコン大学	2018.1.6-2.18					
連合農学研究科	生物資源科学専攻	D1	カナダ	アルバータ大学	2018.3.12-2019.3.5	[岐阜大学基金(3)]				
工学研究科	生産開発システム工学専攻	D1	オーストラリア	シドニー大学	2018.3.6-2018.9.6	[岐阜大学基金(3)]				

種別	渡航学生			渡航先		期間	備考(助成金など)	計
	学部	学科等	学年	国	大学・機関等			
学会*	連合獣医学研究科	獣医学専攻	D3	アメリカ合衆国	オーランド	2017.4.25-5.2		33名
	連合獣医学研究科	獣医学専攻	D2	アメリカ合衆国	ワシントン DC	2017.6.7-15		
	連合農学研究科	生物資源科学専攻	D3	フランス	ナント	2017.7.2-7	※留学生	
	連合獣医学研究科	獣医学専攻	D3	シンガポール	シンガポール	2017.7.16-22		
	教育学部	特別支援学校教員養成課程	1	タイ、ベトナム	バンコク、ハノイ師範大学	2017.8.27-9.3		
	教育学部	特別支援学校教員養成課程	1					
	教育学部	特別支援学校教員養成課程	1	タイ	バンコク	2017.8.28-31		
	教育学部	特別支援学校教員養成課程	1					
	連合農学研究科	生物資源科学専攻	D3	スイス	チューリッヒ	2017.9.18-20	※留学生	
	連合農学研究科	生物資源科学専攻	D2	インドネシア	バリ	2017.9.26-28		
	連合農学研究科	生物環境科学専攻	D3	ベトナム	ホーチミン	2017.10.10-13	※留学生	
	連合農学研究科	生物環境科学専攻	D2				※留学生	
	連合農学研究科	生物生産科学専攻	D3	スリランカ	スリジャヤワルダナプラ大学	2017.10.24-25	※留学生	
	連合農学研究科	生物生産科学専攻	D3				※留学生	
	連合創薬医療情報研究科	創薬科学専攻	D1	アメリカ合衆国	ワシントン DC、アメリカ国立衛生研究所	2017.11.10-18		
	教育学研究科	総合教科教育専攻	M2	ミャンマー	ヤンゴン大学	2017.12.10-17		
	教育学部	理科教育(物理学)	3					
	連合獣医学研究科	獣医学専攻	D1					
	連合獣医学研究科	獣医学専攻	D2				※東京農工大学配置	
	連合獣医学研究科	獣医学専攻	D3				※帯広畜産大学配置	
	連合獣医学研究科	獣医学専攻	D2				※東京農工大学配置、留学生	
	連合獣医学研究科	獣医学専攻	D2				※留学生	
	連合獣医学研究科	獣医学専攻	D3				※東京農工大学配置	
	連合獣医学研究科	獣医学専攻	D2				※東京農工大学配置、留学生	
	連合獣医学研究科	獣医学専攻	D3	韓国	ソウル大学校	2018.2.22-24	※東京農工大学配置、留学生	
	連合獣医学研究科	獣医学専攻	D2				※東京農工大学配置、留学生	
	連合獣医学研究科	獣医学専攻	D3				※東京農工大学配置、留学生	
	連合獣医学研究科	獣医学専攻	D3				※岩手大学配置、留学生	
	連合獣医学研究科	獣医学専攻	D2				※帯広畜産大学配置、留学生	
	連合獣医学研究科	獣医学専攻	D2				※帯広畜産大学配置、留学生	
	連合獣医学研究科	獣医学専攻	D1				※留学生	
	連合獣医学研究科	獣医学専攻	D3				※留学生	
	連合獣医学研究科	獣医学専攻	D3				※留学生	
教育学研究科	総合教科教育専攻	M1	ドイツ	バーダボレン大学	2018.3.3-11			
応用生物科学研究科	生産環境科学専攻	M2	ラオス	国立農林業研究所	2017.8.22-27	※留学生		
応用生物科学研究科	生産環境科学専攻	M2						
応用生物科学部	生産環境科学課程	4						
応用生物科学研究科	生産環境科学専攻	M2						
応用生物科学部	生産環境科学課程	3				※留学生		
応用生物科学部	生産環境科学課程	3						
応用生物科学部	生産環境科学課程	3						
応用生物科学部	生産環境科学課程	3						
応用生物科学部	生産環境科学課程	3						
自然科学技術研究科	生物生産環境科学専攻	M1	タイ	チュラロンコン大学	2018.3.19-4.9			
応用生物科学部	生産環境科学課程	4	ラオス	ルアンパバーン	2017.9.5-10.6			
応用生物科学部	生産環境科学課程	3						
応用生物科学部	生産環境科学課程	3						
応用生物科学部	生産環境科学課程	3	タイ、ラオス	サイニャブリフアパン	2017.12.17-2018.1.16			
自然科学技術研究科	生物生産環境科学専攻	M1	タイ	チュラロンコン大学	2018.3.19-4.9			
工学部	化学・生命工学科	2	フィリピン	セブ	2017.2.26-4.1	[岐阜大学基金(1)]		
工学部	化学・生命工学科	3	カナダ	バンクーバー	2017.8.12-9.26	[岐阜大学基金(1)]		
教育学部	学校教育(教職基礎コース)	4	フィリピン	セブ	2018.2.4-2.24	[岐阜大学基金(1)]		
合計								265名
うち日本人学生								237名
うち留学生								28名

*原則として、種別のうち研究留学、学会、調査については、渡航者から提出されたJ-TAS (JCSOS トータルアシスタンスサービス) の申請書に記載されている目的から分類した。

【海外渡航支援事業 (一部抜粋)】

岐阜大学基金による本学学生の海外渡航支援

(1) 短期海外研修奨学金助成事業 (短期海外研修への支援)

短期(6ヵ月未満)で海外研修する学部学生に対し、海外経験の機会を促進し、国際交流意識を高め、国際感覚を備えた人材の養成を図ることを目的に支援した。

(2) 国際交流促進のための奨学寄附金の支援

①短期留学(派遣)奨学金

本学と学術交流協定を締結している外国の大学に(半年から1年間)留学する優秀な学生に対し支援した。

②優秀学生の海外派遣プログラム助成

学生表彰者及び応援奨学生を主な対象として、学術交流協定を締結している外国の大学での短期プログラム等へ参加する学生に支援した。

(3) バロー・Vドラッグ海外研修奨学金助成事業

海外の大学、研究機関等において研究を行う大学院生に対し、学生としての資質の向上、国際的人材育成を目的に支援した。

5. 大学間学術交流協定先との交流状況

種別	年度	教職員	教職員	学生	学生	
		派遣	受入	派遣	受入	
アメリカ	ウエストバージニア大学	2015	0	0	2	0
		2016	0	0	0	0
		2017	0	0	0	0
	サンディエゴ州立大学	2015	0	0	0	0
		2016	0	0	0	0
		2017	0	0	0	0
	ノーザンケンタッキー大学	2015	0	0	11	3
		2016	1	0	12	4
		2017	3	0	11	3
ユタ州立大学	2015	0	0	0	0	
	2016	0	0	0	0	
	2017	0	0	0	0	
ユタ大学	2015	0	0	0	0	
	2016	1	0	1	0	
	2017	0	0	2	0	
小計		5	0	39	10	
インド	インド工科大学グワハティ校	2015	22	9	3	10
		2016	8	9	4	7
		2017	7	2	1	5
	小計		37	20	8	22
インドネシア	アングラス大学	2015	8	8	4	2
		2016	2	7	2	0
		2017	9	5	2	0
	ガジャマダ大学	2015	0	5	0	1
		2016	0	1	0	0
		2017	3	4	0	0
	スプラス・マレット大学	2015	21	10	4	0
		2016	3	7	2	1
		2017	1	13	0	1
	ボゴール農科大学	2015	2	7	1	0
		2016	1	5	0	1
		2017	4	1	1	0
ランボン大学	2015	2	8	0	0	
	2016	0	2	1	0	
	2017	0	9	0	0	
小計		56	92	19	7	
エジプト	ベンハー大学	2015	0	3	0	0
		2016	0	2	0	0
		2017	0	0	0	0
小計		0	5	0	0	

種別	年度	教職員	教職員	学生	学生	
		派遣	受入	派遣	受入	
オーストラリア	グリフィス大学	2015	0	2	27	0
		2016	1	0	19	0
		2017	0	0	7	0
	シドニー工科大学	2015	0	0	2	2
		2016	0	0	2	3
		2017	0	0	9	2
	シドニー大学	2015	1	0	5	1
		2016	3	0	9	0
		2017	4	1	8	0
小計		9	3	88	8	
カナダ	アルバータ大学	2015	-	-	-	-
		2016	4	1	2	0
		2017	3	0	31	0
	マギル大学	2015	-	-	-	-
		2016	0	3	2	0
		2017	6	0	2	0
	レイクヘッド大学	2015	-	-	-	-
		2016	-	-	-	-
		2017	0	2	0	0
小計		13	6	37	0	
スウェーデン	ルンド大学	2015	0	0	0	20
		2016	0	1	0	1
		2017	0	0	1	0
小計		0	1	1	21	
タイ	カセサート大学	2015	17	3	0	5
		2016	11	4	3	3
		2017	4	1	1	2
	タイ教育省基礎教育委員会	2015	0	5	0	0
		2016	1	5	0	0
		2017	12	0	0	0
	チェンマイ大学	2015	1	0	0	0
		2016	0	0	0	0
		2017	2	0	0	0
モンクット王トンブリ工科大学	2015	4	2	0	0	
	2016	1	0	0	0	
	2017	2	2	2	0	
小計		55	22	6	10	
ドイツ	エルフルト大学	2015	1	0	0	0
		2016	0	0	0	0
		2017	0	0	0	0
	バイロイト大学	2015	0	1	1	0
		2016	0	0	1	1
2017	0	0	0	0		
小計		1	1	2	1	

種別		教職員 派遣	教職員 受入	学生 派遣	学生 受入	
ハンガリー	バンノン大学	2015	0	1	3	0
		2016	0	0	2	0
		2017	0	0	2	0
小計		0	1	7	0	
バングラデシュ	ダッカ大学	2015	9	1	0	1
		2016	0	1	0	1
		2017	1	1	2	0
	バングラデシュ 農業大学	2015	0	1	0	0
		2016	0	1	0	1
		2017	0	3	0	0
小計		10	8	2	3	
ブラジル	カンピーナス大学	2015	0	0	0	0
		2016	0	0	1	0
		2017	0	0	0	0
小計		0	0	1	0	
フランス	パリ第11大学	2015	0	0	0	0
		2016	0	0	0	0
		2017	0	0	0	0
小計		0	0	0	0	
ベトナム	ハノイ工科大学	2015	7	2	0	0
		2016	4	1	0	0
		2017	2	0	0	0
小計		13	3	0	0	
マレーシア	マレーシア国民大学	2015	-	-	-	-
		2016	6	7	4	2
		2017	15	12	3	9
小計		21	19	7	11	
リトアニア	ヴィータウタス・ マグヌス大学	2015	0	0	0	0
		2016	0	0	0	0
		2017	1	0	0	0
	カウナス工科大学	2015	0	0	0	0
		2016	0	0	0	0
		2017	1	0	0	1
小計		2	0	0	1	
韓国	高麗大学校	2015	0	0	0	0
		2016	1	0	0	0
		2017	0	0	0	0
	ソウル科学技術 大学校	2015	0	0	2	3
		2016	0	0	2	3
		2017	0	0	2	0
	木浦大学校	2015	1	0	0	4
		2016	0	0	1	4
		2017	0	0	0	4
	小計		2	0	7	18

種別		教職員 派遣	教職員 受入	学生 派遣	学生 受入	
中国	内蒙古師範大学	2015	1	0	1	0
		2016	0	0	0	0
		2017	0	0	0	0
	内蒙古大学	2015	0	0	0	1
		2016	0	0	0	0
		2017	0	0	0	0
	内蒙古農業大学	2015	0	0	0	0
		2016	0	0	0	0
		2017	0	0	0	0
	華僑大学	2015	0	0	0	1
		2016	0	0	0	1
		2017	0	0	0	1
	吉林大学	2015	0	0	0	0
		2016	0	0	0	0
		2017	1	0	0	0
	広西大学	2015	4	2	0	1
		2016	6	0	1	0
		2017	3	6	0	2
	江南大学	2015	0	0	0	4
		2016	0	0	0	3
		2017	0	0	0	3
西南交通大学	2015	0	0	0	0	
	2016	0	0	0	0	
	2017	0	0	0	0	
浙江大学	2015	5	0	0	0	
	2016	0	1	0	0	
	2017	3	0	0	0	
電子科技大学	2015	0	0	0	2	
	2016	0	0	0	3	
	2017	0	0	0	8	
同済大学	2015	2	3	0	0	
	2016	4	0	2	0	
	2017	3	0	1	0	
小計		32	12	1	29	
合計		2015	108	73	66	61
		2016	58	58	75	40
		2017	90	62	88	41
総計		256	193	229	142	

6. 海外オフィス・研究施設

●岐阜大学海外オフィス

設置場所	国・地域	設置時期
岐阜大学上海オフィス	中国	2009年5月
岐阜大学ダッカ大学内オフィス	バングラデシュ	2009年8月
岐阜大学スプラス・マレット大学オフィス	インドネシア	2014年12月
岐阜大学広西大学内オフィス	中国	2015年3月

●共同研究施設

設置場所	国・地域	設置部門	設置時期
ボゴール農科大学	インドネシア	天然物化学	2014年12月
スプラス・マレット大学	インドネシア	環境科学	2015年12月
ダッカ大学	バングラデシュ	生化学	2015年12月
カセサート大学	タイ	微生物学	2016年2月
アングラス大学	インドネシア	ポストハーベスト工学	2017年7月

7. 国際共同研究等の採択実績

●日本学術振興会 国際交流事業実施状況一覧

※本年度より該当年度内に実施された事業を掲載

種別	採用者	交流先	研究課題	期間
論文博士号取得希望者に対する支援事業	応用生物科学部 大場 伸也(教授)	バンガバンド・シェイク・ムジ プール・ラーマン農業大学(バ ングラデシュ) Umakanta Sarker(教授)	野菜用アマランサスの色素形成、 環境ストレス耐性ならびに遺伝 的多様性の研究	2016-2019 (3年)
二国間交流事業 韓国(NRF)との共同研究	工学部 小林 孝一(教授)	忠南大学校(韓国) Hyun-Do Yun(教授)	老朽化した鉄筋コンクリート構 造物の耐荷性と耐久性のSHCC による向上	2017-2019 (2年)
二国間交流事業 インド(DST)とのセミナー	応用生物科学部 海老原章郎(教授)	インド工科大学グワハティ校 (インド) Vimal Katiyar(准教授)	北東インドにおける生物資源利 用の将来構想	2018.2.1-4 (4日)
外国人招へい研究者事業 外国人招へい研究者(短期)	工学部 小島 悠揮(助教)	アイオワ州立大学(米国) Robert Horton(教授)	土壌物理学による地盤工学、土 壌学、作物学の連携	2017.5.20-6.2 (14日)
外国人招へい研究者事業 外国人招へい研究者(短期)	工学部 板谷 義紀(教授)	インド工科大学グワハティ校 (インド) Mahanta Pinakeswar(教授)	非スラグ型バイオマス・低品位 石炭高温ガス化プロセスに關す る研究	2017.10.15-12.13 (60日)
外国人招へい研究者事業 外国人特別研究員(一般)	応用生物科学部 山本 義治(教授)	バングラデシュ農業大学(バン グラデシュ) Most. Hushna Ara Naznin	合成プロモーターを用いた感染 応答の分子マーカー群の開発	2015.5.29 -2017.5.28 (24ヵ月)
外国人招へい研究者事業 外国人特別研究員(一般)	応用生物科学部 小山 博之(教授)	インド工科大学グワハティ校 (インド) Sadhukhan Ayan	統合ゲノムワイド関連解析によ る活性酸素シグナルとストレス 耐性の解明	2016.4.1 -2018.3.31 (24ヵ月)
外国人招へい研究者事業 外国人特別研究員(一般)	工学部 王 志剛(教授)	湘潭大学(中国) Dong, Wenzheng	マルチスケール解析による高強 度鋼板のプレス成形における焼 付き機構の解明	2016.11.1 -2018.10.31 (24ヵ月)

種別	採用者	本学受入先	研究課題	期間
外国人特別研究員 サマー・プログラム	インディアナ大学 (米国) Gray La Teeka Elease	地域科学部 ラッセル、ジョン・ゴードン(教授)	日本でのアフリカ系アメリカ人 の人種体験	2017.6.13-8.23 (72日)
外国人特別研究員 サマー・プログラム	モントリオール理 工科大学(カナダ) Lapointe Felix	工学部 仲井 朝美(教授)	熱可塑性樹脂複合材料の引抜成 形に関するモデリング	2017.6.13-8.23 (72日)

●日本学術振興会 研究者養成事業（国際関係）実施状況一覧

種別	採用者	交流先	課題	期間
海外特別研究員	連合農学研究所 山内 恒生	テキサス A&M 大学 (米国) Mohammad Nasir Uddin (准教授)	癌転移抑制作用を有する薬用樹木および薬用植物由来成分の探索と作用機序の解明	2016-2018 (2年)

●（公財）田口福寿会国際学術交流助成金採択一覧

区分	採用者	学術交流先	研究課題	研究期間
派遣	教育学部 巽 徹 (教授)	ノーザン・ケンタッキー大学 (アメリカ)	協定大学と連携した短期留学プログラムの発展	2018.8.28-9.9
	工学部 路 綱 (助教)	同済大学 (中国)	Multi-user coding for visible light communications	2018.7.15-7.22
	応用生物科学部 乃田 啓吾 (助教)	スプラズ・マレット大学 (インドネシア)	地域資源の活用による土壌水分保持力改善に関する共同研究	2018.5.29-6.1
招へい	工学部 リム リーワ (准教授)	アングララス大学 (インドネシア)	クロマトグラフィーによるナノ粒子の高精密分離分析システムの確立	2018.7.21-8.4
	工学研究科 仲澤 和馬 (教授)	メティラ大学 (ミャンマー)	授業研究とアクティブラーニングを位置づける物理学実験教育の研究	2018.10.10-10.20
	保健管理センター 西尾 彰泰 (准教授)	マハサラカム大学 (タイ)	日タイにおける障害者教育、およびサポートシステムの比較研究	2018.4.4-4.10

8. 留学生の就職支援・留学生の地域貢献

●留学生の就職に対する支援、セミナー開催数

実施イベント	開催時期	実施部局	形式	内容
外国人留学生支援 岐阜県&企業見学バスツアー	8.8	【主催】 OKB 大垣共立銀行 海外事業推進部 【後援】 岐阜県、岐阜大学、 岐阜経済大学、岐阜・ベトナム 友好協会、VYSA-TOKAI、KOTRA	セミナー 企業見学	①岐阜県セミナー ②工場見学・会社説明 訪問先 丸章工業株式会社 (美濃市) 株式会社東海化成 (関市)
外国人留学生向け就職活動支援コース	10.18-12.6	【主催】 就職支援室・グローバル推進本部	講義・実習	第1回 オリエンテーション・自己分析 第2回 企業分析 第3回 応募書類 第4回 面接訓練
個別相談	11.15-2018.3.15	【主催】 グローバル推進本部	相談	各種就職活動相談
地元企業との交流会	11.15	【主催】 グローバル推進本部・岐阜信用金庫	説明会・交流会	第1部 Sweets 試食会 【参加企業】 4社 (有) ウィル、浪速製菓 (株)、みの食製菓 (株)、若尾製菓 (株) 第2部 ①参加企業からの企業説明 ②企業と留学生の交流会 【参加企業】 16社 アサヒフオージ (株)、今井航空機器工業 (株)、(株) オンダマテック、和月ホールディングス (株)、岐阜産研工業 (株)、岐阜プラスチック工業 (株) KTX (株)、サンラリー (株)、(株) 島由樹脂、昭和商事 (株)、(税) TACT 高井法博会計事務所、(株) トーカイ、(株) ナベヤ、(株) 樋口製作所、(株) 武芸川精工、(株) メイホーホールディングス
留学生就職促進プログラム講演会	11.17	【主催】 グローバル推進本部	講演会	外国人留学生の採用動向&活用事例紹介
外国人留学生交流フォーラム	11.22	【主催】 グローバル推進本部・十六銀行	講演会・パネルディスカッション・座談会	講演 十六総合研究所 (自社紹介 アビ株式会社・株式会社KVK) パネルディスカッション、座談会

実施イベント	開催時期	実施部局	形式	内容
マレーシアに向けた商品設計と企業展開	11.24	【主催】 グローバル推進本部・留学生センター	講演会	「マレーシアに向けた商品設計と企業展開」の講演会
外国人留学生向け実践型ワークショップ	12.13-2018.1.30	【主催】 グローバル推進本部	ワークショップ	第1回 内定者就活体験談 第2回 ビジネスマナー研修 第3回 グループディスカッション 第4回 プレゼンテーション訓練 第5・6回 模擬面接訓練
外国人留学生積極的活用企業代表者との交流会	2018.1.24	【主催】 グローバル推進本部・経済産業省中部経済産業局	交流会	ものづくり企業の社長等との交流会
外国人留学生対象社長を囲む夕食懇談会	2018.1.30	【主催】 グローバル推進本部	懇談会	三幸電機株式会社代表取締役社長を囲む懇談会
第4回外国人留学生企業見学バスツアー	2018.3.9	【主催】 OKB 大垣共立銀行 海外事業推進部	企業見学	会社説明・工場見学 訪問先 西濃運輸 (大垣市) 安藤鉄工 (池田町) ハシマ揖斐工場 (揖斐川町)

開催件数：11件

●留学生の地域イベント等への派遣実績

日時	事業名	主催者	参加人数
4.19	中部学院大学短期大学部附属幼稚園との交流会	中部学院大学短期大学部附属幼稚園	1
5.29	中部学院大学短期大学部附属幼稚園との交流会	中部学院大学短期大学部附属幼稚園	1
6.23	岐阜鶴岡見学	国際ソロブチミスト岐阜	18
7.7	ぎふ長良川の鶴岡	岐阜市役所 商工観光部	25
7.7	中部学院大学短期大学部附属幼稚園との交流会	中部学院大学短期大学部附属幼稚園	2
7.28-7.30	一宮七夕ホームステイ	一宮市国際交流協会	9
7.29	国際交流ボーリング大会・街頭啓発活動	第1ブロック青少年育成市民会議	3
8.1	鶴岡観覧のタベ	岐阜西ライオンズクラブ	23
8.17-8.23	JAPAN TENT	JAPAN TENT 開催委員会事務局	1
8.17-8.29	2017東アジア・サマースクール	奈良県・奈良県立大学	3
9.1-9.3	平成29年度留学生・奨学生地域交流集会	育英友の会	2
9.4	中部学院大学短期大学部附属幼稚園との交流会	中部学院大学短期大学部附属幼稚園	3
9.29	西濃学園	西濃学園中学校	6
9.30	中部学院大学短期大学部附属幼稚園との交流会	中部学院大学短期大学部附属幼稚園	3
10.13	岐阜大学事務系職員グローバルマインド醸成研修	岐阜大学	6
10.13	中部学院大学短期大学部附属幼稚園との交流会	中部学院大学短期大学部附属幼稚園	2
10.14	金華山登山	岐阜市青年団 OB 会	35
10.17	歌舞伎観劇会	十六会	1
10.18	大野町柿生産者との交流会	大野町かき振興会 JA いび川、揖斐農林事務所	8
10.29	ハローギフ・ハローワールド2017	岐阜県国際交流団体協議会	20
11.12	留学生委員 (12月、2018年2月にも活動)	岐阜市国際交流協会	4
11.17	中部学院大学短期大学部附属幼稚園との交流会	中部学院大学短期大学部附属幼稚園	5
11.25	第16回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会	岐阜県地域留学生交流推進協議会	5
12.2	和太鼓演奏会の鑑賞と体験	国際ソロブチミスト岐阜	15
12.10	第23回餅つき大会	国際交流の輪の黒野	34
2018.1.22	中部学院大学短期大学部附属幼稚園との交流会	中部学院大学短期大学部附属幼稚園	5
2018.1.23-2.5	英語ネイティブボランティア	岐阜県立関高校	4
2018.1.27	岐阜ソントクラブ総会	岐阜ソントクラブ	1
2018.1.27-1.28	オペラ「人道の桜」	岐阜県教育文化財団	5
2018.2.22	ミャンマー語通訳	U-TOPIA	1

対応件数：30件

派遣数：251名

編集後記

岐阜大学国際交去年報2017が発行されました。本年報では過去の年報を踏襲しながらも、より皆様に読んでいただき、また資料として活用していただけるよう、年報ワーキンググループで検討を行ってきました。例えば記事の構成では各部署の記事を1ページにまとめるとともに、留学生センターや保健管理センターの「国際化サポート」に関する記述と国際交流活動を整理して記述し、また学生の海外派遣実績等については「資料」として年報後半にまとめました。また、表紙のデザインやタイトルも、さすがに「地球を回す」のは無理でしたが、若干変更しております（お気づきになられたでしょうか?）。

一方、インド工科大学グワハティ校、マレーシア国民大学とのJD専攻の設置や地域科学部の国際教養コースの初の学生派遣、ESLプログラムによるアルバータ大学短期語学研修など、本学の国際化を巡る状況は更に充実しており、それに伴い年報の内容もますます充実したものとなっております。ぜひお手にとっていただければ幸いです。

最後になりましたが、ご多忙の中本年報の刊行にご協力いただきました皆様に、心から御礼を申し上げます。

2018年6月

編集担当
グローバル推進本部委員
地域科学部 合掌 顕



国際交流推進及び国際交流 IR 部門 年報ワーキンググループ

合掌 顕（地域科学部）
吉成 祐子（日本語・日本文化教育センター）
野々村晴子（グローバル推進本部）
松井 真弓（グローバル推進本部）
グローバル推進本部国際総務室・留学支援室

岐阜大学国際交去年報2017

2018年6月 発行

編集

岐阜大学グローバル推進本部

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
TEL：058-293-3351
E-mail：kokusaik@gifu-u.ac.jp
HP：http://www.gifu-u.ac.jp/international/

印刷・製本 西濃印刷株式会社
〒500-8074 岐阜市七軒町15番地

